



GIRLS  
GET EQUAL

今こそ **行動を!**

アジア太平洋地域における  
早すぎる強制された結婚(CEFM)の撲滅と  
思春期の妊娠の抑制

**デジタル**で行こう!

早すぎる強制された結婚の撲滅と思春期の妊娠の防止  
に向けたデジタル技術の活用

プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域統括事務所、2021年4月

本報告書に掲載されている写真の著作権は、画像にクレジットされている以外はすべてプラン・インターナショナルに帰属する。  
表紙写真: © Plan International/An Nguyen Quoc

詳細はこちらまで:

[Quynh Tran Thu \(Ms.\)](#)

地域コミュニケーション・キャンペーン・リーダー

[Quynh.TranThu@plan-international.org](mailto:Quynh.TranThu@plan-international.org)

[プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域ハブ](#)

14th floor, 253 Asoke Building

Sukhumvit soi 21, Klongtoey Nua – Wattana

Bangkok 10110, THAILAND

[www.plan-international.org](http://www.plan-international.org)

プロジェクト・マネージャー兼監督:

[Raša Sekulović \(Mr.\)](#)

子どもの保護・パートナーシップの地域責任者、“Time to Act!”(今こそ行動を!)アジア太平洋地域における早すぎる強制された結婚の撲滅の早期実現を目指すチームリーダー

デザイン: QUO (Thailand) Co., Ltd.

製作: QUO (Thailand) Co., Ltd.

2021年4月、プラン・インターナショナルより初版発行  
文章、イラスト、デザイン © Plan International 2021

本報告書は、プラン・インターナショナル日本国内組織およびプラン・インターナショナル韓国国内組織の資金援助により実現した。

## 謝辞

プラン・インターナショナルは、本報告書にご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。アジア太平洋地域各国統括事務所の多くの職員が、貴重な指示、指導、洞察を提供してくれた。Tushar Anchal, Israt Baki, Nazrul Islam Chowdhury, Kashfia Feroz, Selena Fortich, Rani Hastari, Cirez de Leon, Nazla Mariza, Etha Mota, Phan Thanh Ngoc, Chankrisna Sawada, Nipaphun Torsoond, Shanti Upadhyaya, Neelima Yasmeeenなどである。さらに、Tran Thu Quynh, Van Trong Hieu, Pham Kieu Trangを含む地域コミュニケーション・チームのメンバーにも感謝する。

また、早すぎる強制された結婚(CEFM)撲滅と女性のエンパワーメントに関連するさまざまな問題に取り組む組織の多くの外部関係者からそれぞれの知見を提供していただいた: ユニセフのGerda Binder, WeProtect Global AllianceのIain Drennan, Girls not BridesのShipra Jha, ECPATのShrinkhala Thapa, Save the Children InternationalのBuddhini Withanaである。

Olga Morawczynski博士がデジタル技術の調査とマッピングを行い、彼女とLaura Haighがそれぞれ報告書の各セクションをまとめた。Nora Lindstromは、プラン・インターナショナルの開発的成果を達成するためのデジタル・アプローチについてグローバルな視点を提供した。Raša Sekulovićは、調査の委託とプロジェクトの監督に当たり、すべての段階を通じてプロセス全体のサポートを行い、CEFM撲滅に向けた革新的なアプローチの新たな可能性を切り開いた。

プラン・インターナショナルは、時間と専門知識を共有してくれた上記のすべての人々に感謝し、彼らの洞察がこの調査に効果的に活かされることを願っている。



GIRLS  
GET EQUAL

今こそ**行動を！**

アジア太平洋地域におけるCEFMの撲滅と思春期の妊娠の抑制

**デジタル**で行こう！

---

早すぎる強制された結婚の撲滅と思春期の妊娠の防止  
に向けたデジタル技術の活用

---

プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域統括事務所、2021年4月



GIRLS  
GET  
EQUAL

# 目次

略語一覧	iv	
要約	v	
はじめに	viii	
<b>第1部：今こそ行動を！ - アジア太平洋地域における早すぎる強制された結婚の撲滅と思春期の妊娠の防止に向けたデジタル技術の活用</b>	<b>1</b>	
<b>1. デジタル技術の役割を調査</b>	<b>3</b>	
1.1 本調査を行う理由と目的	3	
1.2 調査方法	4	
1.3 制限事項	5	
1.4 報告書の構成	6	
1.5 デジタル技術：主要用語	6	
<b>2. 重要な考察</b>	<b>8</b>	
2.1 CEFMの撲滅	10	
2.2 設計	14	
2.3 規模	19	
2.4 メリット	21	
2.5 効果	23	
2.6 課題	25	
<b>3. 提言</b>	<b>30</b>	
3.1 既存のデジタル技術の再利用と改善を行う	30	
3.2 最も適切なユーザー中心の設計プロセスを選択する	30	
3.3 デジタル技術を選択する前に問題を明確にする	31	
3.4 パートナーシップの裾野を広げる	32	
3.5 デジタル技術の取り組みの影響を明確に捉え、追跡する	34	
3.6 デジタル技術の取り組みに個別の予算を割り当てる	34	
3.7 持続可能性のための戦略を策定する	35	
<b>4. 結論</b>	<b>36</b>	
<b>第2部：今こそ行動を！ アジア太平洋地域におけるCEFMの撲滅と思春期の妊娠の抑制に対するプラン・インターナショナルの貢献</b>	<b>37</b>	
<b>グローバルに考える：戦略と優先課題</b>	<b>38</b>	
<b>アジア太平洋地域におけるCEFM撲滅に向けた総合的活動とアプローチの実施：今こそ行動を！</b>	<b>41</b>	
COVID-19パンデミックへの対応	45	
今こそ行動を!を現実に	50	
<b>アジア太平洋地域におけるCEFMの撲滅と思春期の妊娠の抑制に向けたプログラム</b>	<b>56</b>	
<b>彼女たちの声を増幅する：女の子の能力を高め、ユース主導のアクティビズムを支援する</b>	<b>66</b>	
<b>次の課題は？ 今後の課題と革新</b>	<b>70</b>	
<b>巻末資料</b>	<b>71</b>	
<b>付録</b>	<b>73</b>	
	74	
付録 1-A	Key informant interviews with Plan International APAC staff	75
付録 1-B	Internal mapping of digital technologies	100
付録 2-A	Key informant interviews with external stakeholders	101
付録 2-B	External mapping of digital technologies	101

# 略語一覧

ACMI	アジア児童婚協議会
ASEAN	東南アジア諸国連合
CBCPM	住民参加型の子ども保護メカニズム
CEDAW	国連女性差別撤廃条約
CEFM/U	早すぎる強制された結婚
CRC	国連子どもの権利条約
CSOs	市民社会組織
CVRS	出生登録と人口動態統計
IOT	モノのインターネット
NGOs	非政府組織
Plan International APAC	プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域ハブ
SAARC	南アジア地域協力連合
SDG	持続可能な開発目標
SRHR	性と生殖に関する健康と権利
UNFPA	国連人口基金

# 要約

早すぎる強制された結婚(CEFM)に対して革新性と持続可能性、かつ影響力のある解決策を探り、取り組む必要性は、かつてないほど高まっている。世界ではすでに約6億5,000万人の女の子と女性がこの有害な慣習の影響下に置かれ、今日女の子の5人に1人が18歳未満で結婚している。その結果、女の子たちはしばしば教育を奪われ、将来の仕事の機会を狭められ、公的生活への参加を制限され、人生を破壊される。また、家庭内暴力のリスクも高まる。

COVID-19パンデミックは状況を悪化させ、CEFMの危険にさらされている女の子は1,300万人増加した。貧困が拡大するにつれ、多くの女の子が経済的困窮から退学し、早すぎる結婚を余儀なくされている。また、女の子と女性が家庭で過ごす時間が長くなるにつれて、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、疎外、社会的排除のリスクが高まっている。

同時に、パンデミックで社会的・経済的生活のオンライン化がすすみ、個人、政府、組織はますますデジタル技術に依存するようになった。これは課題をもたらす可能性がある一方で、CEFMの撲滅に取り組む組織が、その取り組みのなかでデジタル技術を効果的に活用する方法を検討する好機にもなる。しかし、デジタル技術をCEFM撲滅の取り組みにどのように活かせるかについて、情報公開と分析は依然として著しく不足している。

本報告書では、デジタル技術とオンライン・ソリューションがアジア太平洋地域におけるCEFMを防止、削減、撲滅する上で担う役割とその可能性を検証する。綿密な文献レビューと主要な情報提供者(KI)へのインタビュー(KII)に基づき、プラン・インターナショナルAPACその他の子どもの権利に基づく開発組織が、この地域におけるCEFMの撲滅に向けたプログラムとアドボカシー(提言活動)に、デジタル技術をどのように組み込んでいるかを検証している。この中には、プラン・インターナショナルAPACのプログラムとアドボカシーのどういった部分にデジタル技術が活かされているかといった事例研究が含まれる。また、民間セクターによって開発されたデジタル技術の中には、たとえそうした目的のために設計されたものでなくてもCEFMの防止・撲滅に効果のありそうなものもあり、それらの検証も行っている

こうした考察に基づき、本報告書はCEFMの防止、減少、撲滅に取り組む開発主体、政府、資金提供者が規模を拡大し影響力を生み出す上で、デジタル技術をどう活用すれば最も効果を上げられるかについて一連の提言をまとめた。提言の焦点は、目的に最も適したデジタル技術の開発プロセスを計画・設計すること、適切なパートナーシップを形成すること、そして一つ一つのデジタル技術を効果的に連携させ、規模拡大、持続可能性・再現性を高めることである。以下は包括的な提言と7つの重要な提言である。

## 包括的提言：規模拡大を目指す計画

現地レベルで非常に成功しているCEFMプログラムは多くあるが、その戦略は変革者個人やコミュニティの価値観・規範と深く結びついている。こうしたプログラムの成功を大きな規模で再現することが、現場で活動する者にとっての課題である。デジタル・ソリューションは、CEFM撲滅の取り組みの付加価値として、この課題に取り組む新たな機会をもたらしている。

### 1. 既存のデジタル技術の再利用と改善

ゼロから新しいものを開発するのではなく、既存のデジタル・ソリューションを適応・強化する方法を探す。これによって組織はテクノロジー開発に対するリソースの集中投下を回避することができ、技術を拡張して目指す効果を生み出す可能性を高めることができる。

### 2. ユーザー中心の設計をする上で最適なプロセスを探る

デジタル技術はCEFMを撲滅するためのプログラムに多くのメリットをもたらすことができるが、どんなデジタル技術が最も効果的か、そしてユーザーとコンテキストの両方に適した技術をどう設計するのが最も良いかを正確に判断できるプロセスが必要である。

### 3. デジタル技術を選択する前に問題を明確にする

問題を十分に明確化できれば、デジタル技術の選択や開発の指針となる。また、技術の適応や設計の仕方が変わる可能性があるため、影響は早期に明確化するのが良い。

### 4. パートナーシップの裾野を広げる

CEFM撲滅の取り組みにプラスに影響する可能性を持つ技術は幅広く存在する。その力を最大限に活かし、技術を活用した取り組みの持続可能性を高めるためには、解決策を見つけ、こうした技術を適応、開発、拡大する上でふさわしいパートナーシップを結ぶべきである。特に民間セクターは、CEFMの防止と撲滅にもっと取り組むべきである。CEFMは子どもの権利侵害であるばかりでなく、将来の労働力としてのリーダー、革新者、発明家の数を減少させるからである。

### 5. デジタル技術の取り組みの影響を明確に捉え、追跡する

技術開発プロセスの初期段階で効果目標を明確にすることで、技術の設計精度が高まり、意図した効果をより効率的に生み出すことができる。これらの目標を定期的に追跡調査することも、主な対象グループがどういう形で技術の影響を受けているかを理解する上で重要である。また、使用によるデジタル被害や予期せぬ結果についても追跡し、対処する必要がある。

### 6. デジタル技術への取り組みに個別の予算を割り当てる

デジタル技術の取り組みが効果的に発展・拡大し、効果を引き出すために必要なリソースを常に確保するには、個別の予算を持つことが有効だ。

### 7. 持続可能性のための戦略を策定する

持続可能性に関する戦略を立てることで、資金提供者から支援を受けたプログラムが終了した後も技術が継続的に効果を上げる可能性を高めることができる。ふさわしいパートナーを見つけ、目的とインセンティブを効果的に一致させることが、持続可能性の計画には不可欠である。

今こそ行動を！ - デジタルで行こう！

早すぎる強制された結婚の撲滅と思春期の妊娠の防止に向けたデジタル技術の活用



© Girls Advocacy Alliance/Ilvy Njiokiktjen

本報告書の最後の章では、プラン・インターナショナルがアジア太平洋地域でCEFMの撲滅にどう貢献しているかを幅広く概観する。こうした取り組みで用いられているプログラムとアドボカシーのアプローチについて詳しく説明し、CEFM撲滅の取り組みが進行中の10カ国における活動の一部を概説している。その中には、有望な実践例となる4つの「基幹」プロジェクトの詳細も含まれ、規模拡大と長期的な持続可能性の潜在能力が強く感じられる。

2030年までにCEFMを撲滅するというSDGsを実現するためには、イノベーションの機会を捉え、有望な実践例を広めることが不可欠である。これは野心的な目標であるだけでなく、喫緊の課題でもある。CEFMの水準が現在のままであれば、20年代の終わりまでに、世界で新たに1億7000万人の女の子が早すぎる結婚をすると推定される。これは、1億7,000万人の女の子とユース女性が権利を奪われ、貧困、不平等、差別の未来を背負わされるということを意味する。過去10年間に進展はあったものの、まだ十分ではない。実際、2030年までにCEFMを撲滅するためには、過去10年間の進展の17倍の速度で前進する必要がある。

特定の関係者だけでこれを行うことはできない。CEFMを完全に終結させるためには、広範な関係者が一致団結し、協調して取り組む必要がある。プラン・インターナショナルAPACはこうした取り組みを後押しするために全身全霊で活動しており、他の開発の担い手たちが私たちの経験から学び、私たちも彼らの経験から学びたいと考えている。こうした思いから、私たちは「今こそ行動を！」報告書を毎年発行して、CEFMの撲滅と思春期の妊娠の抑制に関する新たな調査に注意を喚起し、私たちの取り組みを共有する。

また私たちは、この有害な慣行の影響を最も受けている人びと、つまり女の子とユース女性が取り組みの前面かつ中心に位置づけられるようにしていく。彼女たちには、学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境で成長できる世界に生きる権利がある。もはや待つことはできない、今こそ行動を起こす時なのだ！

# はじめに

アジア太平洋地域全体で、何百万人もの女の子の未来がCEFMのために危険にさらされている。その数字は憂慮すべきものである。世界全体で6億5,000万人超の女の子と女性がCEFMの影響を受けており、毎年約1,200万人の女の子が18歳未満で結婚している<sup>1</sup>。現在、女の子の5人に1人が18歳未満で結婚していると推定されている<sup>2</sup>。世界的なパンデミックで状況はさらに悪化し、今後10年間でさらに1,300万人の女の子が18歳の誕生日を迎える前に結婚する可能性がある<sup>3</sup>。

男の子もCEFMの影響を受けるが、ジェンダーに基づく差別と不平等に根ざすこの有害な慣行の影響は女の子とユース女性に偏っており、女の子の教育、経済力強化、社会参加に壊滅的な影響を及ぼしている。CEFMは彼女たちのSRHRを侵害するだけでなく、彼女たちの自主性を制限し、暴力、疎外、社会的排除のリスクを増大させる。

アジア太平洋地域では驚くほど高いレベルでCEFMが行われており、南アジア小地域は、CEFMの割合が世界で最も高い。ここでは、20～49歳の女性の56%が18歳になる前に結婚している。CEFMは、この地域の中でも特にバングラデシュ(52%)、ネパール(37%)、アフガニスタン(33%)、インド(27%)などで顕著だが<sup>4</sup>総人口の多さを考えれば、インドはCEFMの絶対数が世界でもっとも多いということであり、ユニセフによれば、世界で早すぎる結婚をした女の子の3人に1人はインドに住んでいるという<sup>5</sup>。



東アジア・太平洋地域もCEFMの割合が高く、20～49歳の女性の21%が18歳になる前に結婚している<sup>6</sup>。発生率はラオスが最も高いが(35%)、人口規模を考えると、早すぎる結婚をする女の子の数ではインドネシア(16%)は世界トップ10に入っている<sup>7</sup>。ベトナムのような国では、CEFMの発生率は11%にまで低下する<sup>8</sup>。しかし、CEFMの発生率が低いように見える国であっても、その数字は看過できない。2018年中国では、15～19歳で結婚した女性(20～24歳)の割合は2%だが、言い換えれば90万件のCEFMが行われていることになる<sup>9</sup>。

## CEFMとは

児童婚と早すぎる結婚という用語は、女の子とユース女性に結婚を強要する有害な慣行全般のうち、特定の2つの異なる側面を指している。この2つの用語は同じ意味で使用される場合が多いが、プラン・インターナショナルが用いる語の完全な形は、child, early and forced marriage (CEFM)である。これは国連人権理事会の定義を反映したものであり、各語には異なる側面があることに加え、この問題の抱える複雑さを示している。

**児童婚(child marriage)**とは、法律婚であれ事実婚であれ、当事者の少なくとも一方が18歳未満であるすべての結婚を指す。国際人権法では、18歳未満の者はすべて子どもとみなされ、その結果、特別な保護を受ける権利を与えられている。

**早すぎる結婚(early marriage)**とは、子どもが18歳未満でも、あるいは結婚すれば「大人」になると考えられている国々において、18歳未満がする結婚を指す。また、当事者双方が18歳以上であっても、身体的、感情的、性的、心理社会的な発達、あるいは情報不足などさまざまな理由で、結婚に同意できない、あるいは同意する準備が整っていない場合の結婚を指すこともある。

**強制結婚(forced marriage)**は、結婚する当事者の少なくとも一方が、十分な情報を与えられた上で自由意思に基づく完全な同意をしていない場合に起こる。これは、たとえば身体的暴力、脅し、社会的圧力などによって、結婚を強要されたためであったり、結婚生活から離れたり、終わらせたりすることができないためであったりする。子どもは十分な情報を与えられた上で自由意思に基づく完全な同意をすることができないため、児童婚は一般的に強制結婚の一形態であると考えられている<sup>10</sup>。

プラン・インターナショナルは、アジア太平洋地域および世界中で、CEFMの防止、減少、撲滅を目的とした幅広い活動を行っている。その目的に応じて必要な戦略は異なり、防止と抑制では方策が異なる場合もあるが、いずれもこの有害な行為の撲滅を目的としたものである。本報告書で、CEFMを終わらせる、あるいは撲滅するための取り組みに言及する際は、防止と抑制の取り組みも含まれると理解する必要がある。

CEFMはしばしば、未成年の自由意思に基づく婚姻や思春期の妊娠と密接に関連している。婚姻とは、法律上は結婚していると言えない、事実上正式な結婚と同等である非公式な結婚または自由な婚姻を指す。このような婚姻は、国や宗教当局によって正式なものとされない場合が多く、この問題の実態を把握し、十分なデータを収集することが困難である。こうした婚姻の呼称や説明には、合意的婚姻、自発的/自由意思による婚姻、早期婚姻、同棲など、いくつかの異なる用語が使われている。

## CEFMが広がる背景

CEFMが広く行われる理由は複雑で、相互に関連しており、アジア地域の国によって異なる。しかし、共通点もあり、これらを理解することは、この有害な行為を防止、減少させ、最終的に撲滅するために不可欠である。

貧困は、児童婚を広めると同時に、児童婚によって貧困が生まれるため、その影響は非常に大きい。児童婚の発生率は、家庭の裕福度と密接に関連しており、裕福度が高いほどCEFMの発生率は低くなる。貧困家庭では、特に他の選択肢や機会がない場合や緊急下では、女の子とユース女性を育てる経済的「負担」から解放され、彼女たちの将来を守る唯一の方法が結婚であると考えられることが多い。また、児童婚は教育レベルの低さとも密接に関連している。女の子が受けた教育レベルが低いほど、早くに結婚し、低い年齢で出産する機会が多い。その結果、女の子とユース女性が、妊娠中や分娩中に死亡、その他合併症を罹患するリスクが高まる。

教育レベルが低いために経済的機会が少なくなる機会が多いが、CEFMが行われる背景はもっと複雑であり、女の子と女性を社会的に低い地位に置き、深く根付いた社会規範や伝統が貧困と強く結びついている。その結果、女の子が男の子と同じ権利、リソース、機会、保護を享受することはない。

こうしたジェンダーの不平等とステレオタイプによって、女性と女の子の主な役割は子を育て世話をすることだと決めつけられ、彼女たちは家庭に閉じ込められ、家庭外の生活に参加する能力が奪われることが多い。早くに結婚した女の子は世話を担わされて社会から孤立し、家族や友人などの支えを得ることもできず教育を継続・修了する機会がほとんどなくなる機会が多い。またジェンダー不平等と世話をするという役割があるために、ユース女性には雇用される可能性の高い地域へ移動する手段も移動する力もないことが多いということになる。

「女の子であることの定義はない。男にできることは女にもできる。ステレオタイプがなければ、人生はより良いものになると信じています」。

L.、ベトナム

地理的な位置もCEFMの割合に影響し、農村に暮らす女の子は一般的に都市出身の女の子よりも早く結婚する。また、CEFMのリスクは紛争、避難、人道的危機の状況下に暮らす女の子の場合ことのほか高く、特に貧困と経済的不安定に陥る可能性が高いため一層悪化する。環境的要因による貧困も児童婚を行う理由となり、環境条件や気候危機で経済的に追い詰められ、早くに娘を嫁がさざるを得なくなる。

法的・政策的枠組みが不十分で、さらに執行メカニズムが弱いこともまた、CEFMが助長されいつまでもなくならない大きな一因になっている。この地域の多くの国が児童婚を禁止しているが、特に複数の法制度があるために慣習法、伝統法、宗教法に基づいて結婚ができる国では、執行が複雑な場合がある。強力な法的枠組みと執行メカニズムのある国の場合でも、政府が児童婚をなくす取り組みに十分な財源を割り当てられない場合も少なくない。ジェンダー不平等は、法律の中にも存在する。実際、男女の婚姻最低年齢に大きな格差がある国の大半はアジアである<sup>11</sup>。

## CEFMの影響ともたらされる壊滅的な現実

児童婚はある地域、文化、宗教に特有なものではなく、原因も一つではないが、いずれも同じ結果をもたらす。女の子とユース女性の人生に壊滅的かつ広範な影響を及ぼし、彼女たちは子ども時代を奪われ、潜在能力を最大限に発揮することができなくなる。

18歳未満で結婚した女の子は、学校を中途退学する可能性が高く、機会を失い、自身の将来について十分な情報を得た上で意思決定するための知識と情報を奪われる。教育を受けなければ、女性と女の子は多くの場合、男性の家族に経済的に依存することになり、不平等なジェンダーの階層がさらに強固になる中で、虐待と搾取、生涯にわたる服従と隷属を受けるリスクが高まる<sup>12</sup>。

低年齢で結婚した女の子は、家庭内暴力を受けたり性的関係を強要されるリスクも高まる場合が多い<sup>13</sup>。年齢や、教育を受けていないことに加え、家庭内での地位が低く、支援制度やその他のセーフティネットがないため、特に虐待を受けやすい。憂慮すべきことに、アジアの多くの国々で早すぎる結婚をした女の子は、夫から虐待を受けるのは仕方ないことだと考えているようだ<sup>14</sup>。

また児童婚によって、女の子とユース女性が早すぎる妊娠をするリスクが一層高まり、彼女たちの生命と健康は著しく危険にさらされる。早すぎる結婚をした女の子は、妊娠中に適切な医療を受けられないことが多く、妊娠・出産時の合併症で死亡する可能性が非常に高い。また、死産や生後1カ月以内に死亡したり、発育不良になる可能性も高い。乳幼児期まで生き延びたとしても、こうした子どもが教育で良いスタートを切って良い成績をとり、最低限以上の教育を受ける可能性は低く、その結果、女の子であれ

ば、児童婚をするリスクが高まり、GBVと不平等の悪循環、世代間連鎖を永続させることになる<sup>15</sup>。

計り知れない人的犠牲に加え、CEFMは世界中の社会にとって大きな経済損失を生むことを示す調査結果も増えている。世界銀行と国際女性研究センター(ICRW)が行った2017年の調査では、CEFMの悪影響がこのまま続くと、現在から2030年まで世界中で推定数千億ドルの損失が生まれる可能性がある」と推定している。たとえば、CEFMと早すぎる出産が2015年までになくなっていたら、人口増加の抑制による福祉面でのメリットは全世界で、初年度(2015年)で推定220億米ドル、2030年までに推定5,660億米ドルになると試算している<sup>16</sup>。同様に、CEFMの結果生じる5歳未満児死亡率と5歳未満児発育阻害がなくなることで得られる利益は、合わせて2015年で推定510億米ドル、2030年までにこの数字は約2倍の980億米ドルになると試算されている<sup>17</sup>。さらに、2015年だけで、早すぎる結婚による女性の収入の損失は15カ国で計260億米ドルに上ると推定されている。CEFMの影響を最も受けている国の多くで、普遍的な中等教育の提供に関連する貯蓄だけで、2030年までに各国政府を合わせて年間最大170億米ドルを節約できる可能性がある<sup>18</sup>。

「私の意見では、今は早く妊娠するためではなく、将来成功するために勉強を修了させる時です」。

C.、東ティモール

「私と同年の友人は、現在3歳の子ども之母親です。まるで子供時代を失って一夜にして大人になったかのように、厳しい家庭生活のせいで見た目も老け込み、口数も少なくなっていました。村の人からは、いつ結婚するのかとよく聞かれるけど、私は友達と同じ運命にはなりたくありません」。

H.、ベトナム(18歳)



## CEFM撲滅の緊急性: 今がその時だ!

CEFMで特筆すべきは、教育の欠如、貧困、ジェンダー不平等の定着など、CEFMが女の子とユース女性に与える影響の多くが、この有害な慣行を拡大させている点である。したがって、こうした根本的な問題に取り組むことは、現在そして将来の世代が、かつてないほどに拡大する差別、疎外、排除、暴力という連鎖の犠牲にならないようにするために不可欠である。

貧困をなくし、地球を守り、すべての人々が平和と繁栄を享受するために全世界の行動を求めるSDGsでは、CEFMを拡大させる要因の多くを解消することが具体的に取り上げられている。目標の多くは関連し合い、相互に補強し合うものであり、一つずつ順次実現することも、単独で実現することもできない。たとえば、CEFMの撤廃はそれ自身がSDG5の具体的な目標である一方<sup>19</sup>、SDGsの少なくとも半分を達成するためにも不可欠である。2030年までのCEFM撲滅は、世界各国政府の政治的な取り組みと支援があったとしても、野心的な目標である。また、それは緊急の課題でもある。

「すべての子どもに夢を持つ権利があり、女の子もみな勉強し、未来に向けて進む必要があります。早くに妻や母になる必要はないのです」

O.、タイ(16歳)

ユニセフの推計によると、CEFMを撲滅する取り組みが現在の水準のままであれば、今後10年間で1億7,000万人の女の子が早すぎる結婚をするという<sup>20</sup>。過去10年間の進展が2倍になったとしても、今後10年間に世界で新たに1億1,000万人の女の子が早すぎる結婚をすると推定されている<sup>21</sup>。

COVID-19パンデミックでさらに複雑化がすすみ、新しく革新的な解決策を必要とする課題も新たに生まれた。しかし、私たちが総合的で多面的な戦略を採ってCEFMの要因とそれがもたらす現実に同時に取り組むために今、行動すれば、現在そして将来の世代の女の子とユース女性が、学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境に生き、成長できる世界を実現する真の機会にすることができる。

# 第1部 デジタルで行こう！

アジア太平洋地域における早すぎる強制された結婚の撲滅と思春期の妊娠の防止に向けたデジタル技術の活用





# 1. デジタル技術の役割を調査

## 1.1 本調査を行う理由と目的

デジタル技術はすでに、かつてない速度と規模で私たちの生活を一変させている。先進国の女の子とユース女性は、デジタルの世界に生まれ、幼い頃からさまざまなデジタル技術に親しんでいる。

こうした技術は、仲間とのコミュニケーション、ビデオゲームやオンライン映画鑑賞、商品やサービスの購入、仕事探し、さらには恋愛や結婚相手を見つけるためにも使われている。COVID-19パンデミック以降、デジタル技術は、教育を受けたりパンデミックの拡大状況について重要な最新情報を入手するためにも使われている。デジタル技術は、世界中の女の子とユース女性の生活のほぼすべての領域に浸透し、生活のあり方を根本的に変えてきた。しかし、デジタル技術へのアクセスやその効果的な利用におけるジェンダー格差は依然として存在し、実際には拡大しつつある。デジタルにつながり活動することで得られる社会的・経済的機会から疎外された女の子が今も、世界中にいる。

デジタル技術に内在するリスク、特にオンラインで時間を過ごす女の子とユース女性に関連するリスクを捉え明確に示した文献は数多くある。これには、性的搾取、ネットいじめ、詐欺、インターネット中毒などのリスクが含まれる。だが、技術の利点については、まだあまり言及・調査されていない。CEFMを撲滅するためにデジタル技術が果たしうる役割がまさにそうであり、このテーマに関する文献がかなり不足していることが今回の調査で明らかになった。プラン・インターナショナルの広範な活動分野、戦略的優先順位、そしてこれまでCEFM撲滅に向け献身的に取り組んできた点を踏まえ、プラン・インターナショナルAPACがこの不足に着手するために本調査を実施した。

2020年11月～2021年3月に実施された本調査には、いくつかの目的と目標がある。第一は、デジタル技術がCEFMの撲滅のために果たしうる役割を明確にすることであり、他方では、より広範に女の子とユース女性のエンパワーメント（能力強化）を図ることである。本報告書では、プラン・インターナショナルAPACが開発し現在さまざまなプログラムとアドボカシー（提言活動）で活用されているデジタル技術の紹介を重点的に行っている。本報告書はまた、民間セクターによって開発されたデジタル技術も、たとえそれがCEFMの防止と撲滅を明確な目的として設計されたものでなくても効果が期待できるものには焦点を当てていく。

さらに本報告書は、プラン・インターナショナルAPACや、CEFMの防止と撲滅、あるいは女の子とユース女性のエンパワーメントに取り組んでいる他の子どもの権利に基づく開発組織によるデジタル技術革新の取り組みから得られた学びと有望な実践例を紹介している。

本報告書は最後に、どうすればすべての開発主体がCEFMを撲滅するためにデジタル技術を最も効果的に活用できるか、重要な提言を行っている。目的に最も適したデジタル技術開発プロセスの計画と設計、適切なパートナーシップの形成、規模拡大・持続可能性・再現性向上に向けた計画の策定を中心に提言を行っている。

## 1. デジタル技術の役割を調査

### 1.2 調査方法

本報告書で概説する考察と提言は、さまざまな活動から得られたものである。ひとつは**文献レビュー**であり、出版された開発報告書や学術報告書、メディア記事、ネット上のオピニオン記事など、50超の文献を分析した。

このレビューでは、CEFMを防止、減少、撲滅するためにデジタル技術を活用するためのさまざまなアプローチに焦点を当てた。デジタル技術とCEFMの関係に関する知識も理解も乏しいため、このレビューでは、CEFM撲滅の取り組みにプラスの影響を与える可能性のあるデジタル技術は、そうした目的で設計されたものでなくてもマッピング(関連付け)を行った。これには以下のようなデジタルソリューションが含まれる:

- ・ 女の子の質の高い教育へのアクセスを向上し、学校に長く通えるようにする。
- ・ 女の子が経済的自立を達成するために新たな収入創出スキルを学び身につけることができるデジタル空間を推進する。
- ・ 女の子を収入創出活動につなげ、ユースの経済力強化を促す。
- ・ 男の子と女の子を、それぞれの学習ニーズに合った個別学習体験に参加させる。
- ・ 女の子を暴力から確実に守る。
- ・ 女の子がSRHRにアクセスできるようにする。

これら解決策の完全なマッピングは、**付録 1-B** (<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に記載されている。

本報告書はまた、調査に関連する専門的な知見と経験を持つ19名の個人とのKIIで集められた情報と考察も活用している。これには、プラン・インターナショナルの職員14名とのインタビューが含まれ、その大半はアジア太平洋地域を拠点とし、CEFM撲滅に関連する国や地域レベルのプログラムとアドボカシー活動の実施に直接携わっている。KIインタビューに参加したプラン・インターナショナルの活動国統括事務所には、バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、ネパール、フィリピン、タイ、東ティモール、ベトナムが含まれる。プラン・インターナショナルの地域およびグローバル・ハブの代表者2名(子どもの保護とパートナーシップに関する地域責任者、デジタル開発のグローバル責任者)にもインタビューを行った。これらのインタビューの主な成果は、アジア太平洋地域全体のCEFMに関するプラン・インターナショナルの活動の中で開発されて現在使用されているデジタル技術について完全なマッピングが行えたことだ。このマッピングは**付録 2-B**

(<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に含まれている。

さらに、CEFMに取り組んでいる、あるいはより広範に女の子とユース女性のエンパワーメント(能力強化)に取り組んでいる5つの異なる組織に属す外部関係者とのKIIを実施。これらの組織の中には、技術を活用したプログラムを実施した経験から得た学びと有望な実践例の両方を効果的に伝えられるケースもあった。インタビューは、ECPAT、Girls Not Brides、Save the Children International、ユニセフ、WeProtectの代表者に行った。

インタビューしたKIの一覧は、**付録 1-Aと2-A** (<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に記載されている。

### 1.3 制限事項

本調査の主な制約のひとつは、CEFM撲滅に焦点を当てた取り組みにおけるデジタル技術の役割について、既存の証拠が不足している点である。これは、この分野におけるデジタル技術を活用したイノベーションが初期段階にあることに加え、こうした革新的な取り組みから得た学びを概説する公的な文書がないためである。1つ明らかになったのは、CEFMの撲滅に取り組むすべての主体は、デジタル技術とCEFMの関係をさらに深く理解するために具体的にリソースを投入し、効果的な取り組みの基盤となってイノベーションを促せる一連のエビデンスを積み上げる必要があるということである。

知識不足を回避するため、たとえCEFMの撲滅を目的に設計されたものでない場合でも、CEFMの撲滅に役立つ可能性のある他の分野のデジタル技術の概要まで含めて文献レビューを行った。なぜなら、CEFMは複数の根本原因を持つ複雑な課題だからである。CEFMには、教育成果の向上、ユースの経済力強化、暴力からの保護、SRHRの改善など、多部門にわたる包括的なアプローチで対応する必要がある。そのため、こうした周辺分野の成果に影響を与えるデジタル技術の文書化が重要になる。

既存の調査や文書が不足しているため、CEFM撲滅活動における技術の活用に直接携わっている個人へのインタビューに特に力を入れた。こうした知見の多くは、プラン・インターナショナルAPACの職員から得た。インタビューでは、これまでの活動やプログラムから得た学びや有望な実践例の把握に重点を置いて質問を行った。

COVID-19パンデミックをめぐる制限に加えて、この最初のマッピングの性質上、女の子とユース女性、その他CEFM撲滅活動の一環として開発されたデジタル技術を利用する可能性のある者へのインタビューは、今回の調査範囲外だった。その結果、本報告書のエビデンスは、主に文献から二次的に得られた内容と、プラン・インターナショナルAPACの職員およびCEFM撲滅に携わる他のKIへのインタビューを通して得られた。今後の追加調査では、利用対象者が実際にどのように取り入れて使用しているかを明らかにし、さらに重要なこととして、これらの技術が採用され使用された場合にどういった効果が得られる可能性があるかを明らかにする必要がある。



### 1.4 報告書の構成

本報告書の第1部では、文献レビューとKIIから得られた考察を紹介する。これらの考察は、本調査で得られた主な発見と重要な学びの要点をまとめたもので、最終セクションで紹介する提言の根拠にもなっている。以下に示す6つの包括的なテーマごとに計24の考察が提示されている：CEFM撲滅の取り組み、設計、規模、メリット、影響、課題である。またこのセクションでは、プラン・インターナショナルAPACのプログラムとアドボカシー活動の中で、デジタル技術が活用されている事例研究も紹介している。

続くセクションでは、CEFMの撲滅に取り組む開発主体が、規模を拡大し、影響力を高めるうえで最も効果的なデジタル技術の活用法について提言を行う。この提言は、プラン・インターナショナルAPAC職員と、実際に活動に当たる人々の参加を得て共同作成されたもので、アジア太平洋地域のみならず各地域で大きな影響力を持って効果的にデジタル技術を活用してCEFMに焦点を当てたプログラムを実施するための青写真を示している。

報告書は最後に、主な調査結果をまとめ、CEFM撲滅の取り組みにおいてデジタル技術が果たしうる役割にもっと注意を払うべきだと主張している。



### 1.5 デジタル技術：主要用語

デジタル技術という用語の範囲は非常に広いが、一般的には、データを生成、保存、処理し、および/または通信を促進する機器とアプリケーションを指す。デジタル技術を効果的に機能させるためには、接続に不可欠な基盤となるデジタルインフラが必要になる。

**機器**とは、ユーザーがアプリケーションにアクセスするための物理的な道具である。最も一般的なものには、携帯電話、ノートパソコン、デスクトップパソコン、タブレットなどがある。デバイスは個人とモノ間のコミュニケーションを促進する。IoT技術により、自動車からワインデカンタまで、何十億ものデバイスがインターネットに接続し、データを収集し、ユーザーと共有することが可能になる。

**アプリケーション**、またはアプリは、ユーザーがモバイルデバイスやコンピュータ上で特定のタスクを実行できるようにするソフトウェアの一部だ。すべてのコンピュータとモバイル機器には、ウェブブラウザなどのアプリがあらかじめ組み込まれて販売されている。また、ユーザーはGoogle PlayやAppleのApp Storeなどのオンラインストアから何百万ものアプリを購入し、ダウンロードすることもできる。デバイスに搭載されているアプリが多ければ多いほど、そのデバイスはより強力になる。アジア太平洋地域で最も一般的なアプリは、Facebook、Instagram、Twitter、Tik Tokなどのソーシャルメディアアプリや、や、WhatsApp、WeChat、LINE、Facebook Messengerなどのコミュニケーションアプリである。ほとんどのオンライン・ソリューションはアプリと言える。

こうした機器とアプリは、**デジタルインフラ**によって利用可能になる。デジタルインフラには、機器間のデータ共有や通信を容易にする基盤技術が含まれる。この領域は広範で、海底、地下、地上のケーブル、タワー、データセンター、衛星、無線通信に使用される不可視スペクトル、インターネットを通じて世界を相互接続するその他のさまざまな機器で構成されている<sup>22</sup>。



# 2. 重要な考察

## 主な考察の概要

プランが作成・実施する提言の基盤となる24の主な考察を以下に示す。

### 2.1 CEFMの撲滅



#### 考察 1

プラン・インターナショナルAPACは、すでにいくつかのデジタル技術をCEFMsの撲滅プログラムに組み込みつつある



#### 考察 2

デジタル技術は、CEFMs撲滅の取り組みを実現に導く手段として位置づけられた



#### 考察 3

CEFMs撲滅の取り組みにデジタル技術を活用している開発組織から、有望な実践例が現れている



#### 考察 4

特にCEFMs撲滅を目的に設計されたものでなくても、デジタル技術はそうした取り組みにプラスの影響を与える可能性がある

### 2.2 設計



#### 考察 5

一部の国では、開発組織がユーザー中心の設計プロセスを導入している



#### 考察 6

一部の組織は、ユーザー中心の設計プロセスにおいてジェンダーを考慮した



#### 考察 7

数多くの組織が、対象ユーザーを明確に捉える努力をした



#### 考察 8

プラン・インターナショナル APAC活動国統括事務所の一部では、すでにデジタル開発の原則に基づいた技術開発プロセスが行われている



#### 考察 9

効果的で拡張性のあるデジタル技術の開発にはパートナーシップが不可欠である

### 2.3 規模



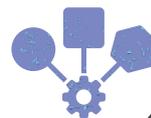
#### 考察 10

デジタル技術は、対象者に大規模にリーチするのに役立つ



#### 考察 11

オープンソースの技術ソリューションは、費用対効果の高い拡張を行う上で役立つ



#### 考察 12

デジタル技術を国を超えて拡大するには、徹底したローカリゼーションが必要だ



## 2.4 メリット



## 考察 13

デジタル技術は、COVID-19パンデミック下でプログラム継続に欠かせないものとなった



## 考察 14

デジタル技術は、COVID-19パンデミック下で女の子とユース女性が他人とつながる機会を提供している



## 考察 15

デジタル技術は女の子とユース女性に匿名性を与える



## 考察 16

デジタル技術は費用対効果の高い調査活動を行う上で役立つ

## 2.5 効果



## 考察 17

デジタル技術がCEFM撲滅にどんな影響を与えるか効果を示すエビデンスはまだ乏しい



## 考察 18

デジタル技術がCEFMにどんな効果をもたらすか、関係者が期待値を事前に定めている場合もある



## 考察 19

デジタル技術が実世界に影響を与えていることが新たに裏付けられつつある

## 2.6 課題



## 考察 20

デジタル技術にアクセスするのが困難な女の子とユース女性は今もいる



## 考察 21

女の子とユース女性にはアクセス面で困難があるが、克服可能である



## 考察 22

デジタル技術の取り組みは持続可能性の問題に直面している



## 考察 23

デジタル技術の取り組みは、資源調達の問題にも直面している



## 考察 24

デジタル技術の使用によって現実に発生している、また今後発生しうる害には、依然大きな懸念がある

## 2. 重要な考察

以下の考察では、調査で得られた主な知見をさらに詳しく解説する。これらの知見は、デスクレビューやプラン・インターナショナルの職員・CEFMの防止と撲滅に取り組んでいる外部組織とのKIIから得られたものである。その中には、プラン・インターナショナル APAC その他CEFM撲滅を使命とする他の開発関係者がそのまま取り入れることのできる提言として役立つものもある。

# 2.1 CEFMの撲滅



## 考察 1

### プラン・インターナショナルAPACは、すでにいくつかのデジタル技術をCEFMの撲滅プログラムに組み込みつつある

プラン・インターナショナルはアジア太平洋地域のCEFM撲滅プログラムにデジタル技術をすでに20以上の形で組み込んでおり、この調査ではそれに関するマッピングを行った。完全なマッピングは付録2-A (<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に記載されている。デジタル技術は、FacebookやInstagramのようなソーシャルメディアアプリという形で最も一般的に利用されていた。GBV、SRHR、CEFMのリスクといったテーマに的を絞ったメッセージを女の子とユース女性に届けることを目的としたデジタル・マーケティング・キャンペーンを支援するために、ソーシャルメディアが利用された場合もある。

双方向のコミュニケーションを促進するモバイルアプリも、CEFM撲滅に焦点を当てたいくつかのプロジェクトで使用され

た。WhatsApp、LINE、Viber、Facebook messengerなどのアプリによって、プラン・インターナショナルAPACの職員と地元コミュニティの女の子とユース女性は円滑にコミュニケーションをとることができた。こうしたアプリは、CEFMに関連する情報を広める会議やセミナーの予定を伝える際によく使われた。プラン・インターナショナルAPACの職員、現地のコミュニティリーダー、NGOもまた、被害者支援を調整したり、CEFMの対応に影響を与える可能性のある政策や規制に関連する重要な情報を広めたりするために、これらのアプリを利用した。

動画コンテンツを簡単に広められるモバイルやウェブアプリもよく使われていた。こうしたコンテンツの発信にはプラットフォームとしてYouTubeが主に使われていた。多くの場合、プラン・インターナショナルAPACの職員が動画を制作するか、他の団体と提携してこうしたコンテンツを制作し、現地語でYouTubeに投稿していた。Facebookなどのソーシャルメディアアプリは、動画の宣伝や拡散によく使われた。動画コンテンツは多くの場合、ユース、特に女の子とユース女性を対象にしていたが、場合によっては、親、教師、コミュニティ指導者など、他の関係者向けのコンテンツも開発された。

プラン・インターナショナルAPACの職員が、CEFM防止に使えるデジタル技術を開発して売り出した国もいくつかある。たとえば、バングラデシュでは、婚姻登録を行う前に婚姻登録担当者が女の子の年齢を確認する際に便利なモバイルアプリを開発。ベトナムでは、ユースが支援サービスを利用したり、権利を主張したり、子どもの人身取引など自身にも関わる可能性のある問題について学ぶ際に役立つアプリを開発した。早すぎる妊娠が多い東ティモールでは、女の子とユース女性・男性がSRHRについて質問できる安全な空間を作るためにアプリを開発した。このデジタル技術を開発した大きな理由のひとつは、女の子とユース女性の妊娠率の高さである。同国で使用されているモバイルアプリの詳細については、次ページの事例研究を参照されたい。

「私は多くの活動にWhatsAppを活用しています。私が見守るリスクについて投稿すると、仲間が返信してくれます。この簡単な方法で、見守るリスクについて仲間で議論し、学び、コミュニティ内で行われている見守るについて情報を得ることができます」。

S., インドネシア (17歳)

## 事例研究：Reproductiva、東ティモールの性と生殖に関する健康(SRH)改善のためのアプリ

東ティモールでは、女の子とユース女性の妊娠率が驚くほど高く、ユース女性の4人に1人が20歳になる前に子供を産むと言われている。その主な理由のひとつは、10代の若者が性的関係や生殖、避妊についてほとんど知らないことが多いことだ。予期せぬ妊娠は、しばしばCEFMの要因となる。つまり、CEFMに取り組む際には、SRHRに関する知識・理解不足にも取り組まなければならないのである。

プラン・インターナショナル・東ティモールは、Marie Stopesと提携して、女の子とユース女性が安全で秘密を守られながらSRHに関する貴重で適切な情報を即座に得られるモバイルアプリ「Reproductiva」を開発した。このアプリのユーザーは、質問をしたり、グループチャットで助言を共有したり、相談や診察の予約をしたりことができ、Marie Stopes・東ティモール(東ティモールでSRHR情報サービスを提供する組織)に所属する専門家からアドバイスを受けられる。Reproductivaを通じてこれまでに回答された質問には、「排卵とは何ですか」、「赤ちゃんはどのように作られるのですか」などがある。また、女性が月経中は髪を洗ってはならないという迷信に関する質問もある。

このアプリには、女の子が自分の月経周期をたどって予測する機能もある。これは、女の子が自分の月経周期を知らないために学校を休むことがないように開発された。また、女の子が早期に妊娠に気づき、早すぎる妊娠をした場合の情報やサポートにアクセスすることもできる。

このアプリの非常に優れている点は、ユース、特に女の子とユース女性が、性と生殖に関する正確な情報を内密に入手できることである。さらに、情報は現地の言語であるテトゥム語で提供される。Reproductivaができる以前は、女の子とユース女性はインターネットで検索していたが、彼女たちが見つけた情報は必ずしも正確ではなく、その多くはテトゥム語では入手できなかった。

このアプリを開発するために、プラン・インターナショナルの東ティモール・チームは、あくまでも人間を中心にした設計プロセスを実施。東ティモールの2つの学校で、ユース、教師、その他主要な関係者と協議し、初期調査を基に試作品の設計が行われた。最適な設計とユーザーにとっての使いやすさを実現するため、製品の初期版のテストには対象ユーザーも参加した。

現在までに、Reproductivaの利用者は1,000人を超えている。プラン・インターナショナル・東ティモールは、より幅広く、質の高いSRHR情報を提供するなど、アプリの改善に常に取り組んでいる。この技術の開発は、10代の妊娠率を低下させ、CEFMの事例を減らすためにプラン・インターナショナル・東ティモールが幅広く行っている取り組みの一部だ。

## 2. 重要な考察



### 考察 2

#### デジタル技術は、CEFM撲滅の取り組みを実現に導く手段として位置づけられた

ほとんどの場合、デジタル技術はプラン・インターナショナルAPACの既存プログラムを円滑に行い実現に導く手段として機能し、国や地域のプログラムに明確に示された主な目標と目的を達成させるまでになった。

たとえば、インドネシアの "Yes I do!"プログラムの大きな目的のひとつは、思春期の女の子と男の子がSRHIについて十分な情報を得て行動することであった。この目的を達成するため、インドネシアの同国チームはFacebookやInstagramのようなソーシャルメディアアプリを活用し、対象者にコンテンツを広め、SRHRをめぐる会話にユースを参加させた。インドネシアでは、他の多くの国と同様、ユースのソーシャルメディア利用率が高く、SRHRをめぐるコミュニケーション活動を支援するアプリとして有効であった。

インドネシア統括事務所はまた、児童婚の防止と抑制を目的に、ZoomとWhatsAppを活用して女性のエイジェンシー（自由に選択と意思決定をし、自分の目標に向かって行動できる実現可能性）を促進するガールズ・リーダーシップ・プログラムも実施した。これらのデジタルツールは、同国チームが手頃な価格で必要な人数の女の子とつながる上で有効であることが証明された。

デジタル技術は実現を可能にする手段と位置づけられていたため、技術に焦点を当てた取り組みのほとんどは、独自の予算や業績評価指標を持たなかった。その代わりに、目標はCEFM撲滅に関連する、より広範なプログラム目標に沿ったものであった。





### 考察 3

#### CEFM撲滅の取り組みにデジタル技術を活用している開発組織から、有望な実践例が現れている

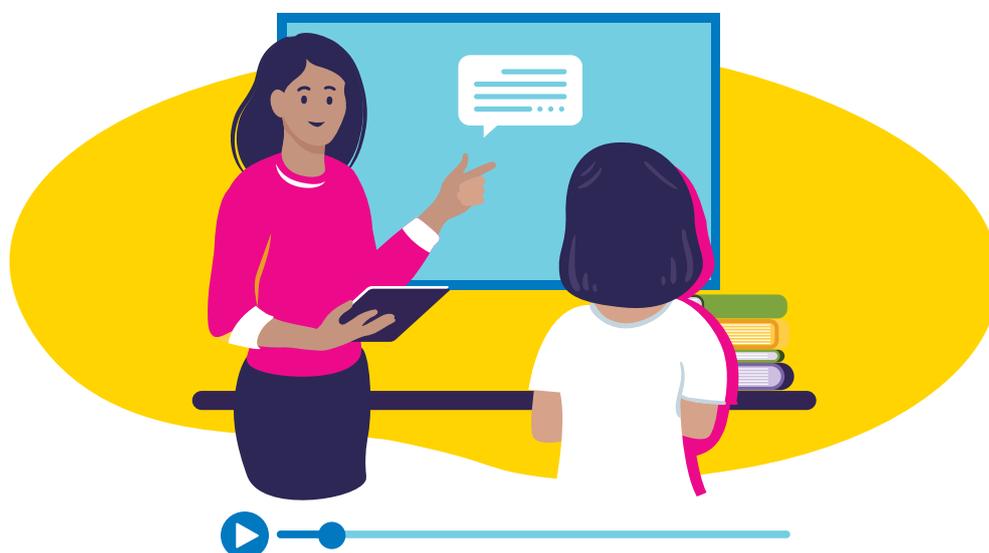
ユニセフの最近の報告書は、COVID-19パンデミックによって対面でのコミュニケーションが困難な場合であっても、CEFMの防止と減少のために効果的で測定可能な取り組みをオンラインで行えそうな実践例をいくつか紹介している<sup>23</sup>。それによると、この分野で実際に活動に携わる人々は、パンデミックが個人に及ぼす影響を理解し、主な対象者となつて効果的なコンテンツに参加させるために、幅広くデジタル技術を活用することを提案している。この報告書は、デジタル技術を単独で使用しても、規範や行動を変えることはほぼ不可能であることを明らかにしている。実質的な効果を生み出すためには、デジタル・アプローチは他の取り組みと合わせて行い、オンラインとオフラインの両面で強化する必要がある。これには、コミュニティでの対面コミュニケーションやグループ会議も含まれる<sup>24</sup>。

ユニセフの報告書はまた、開発団体が、特に遠隔地や支援が届きにくい地域でCEFM撲滅に重点を置いた活動を継続するために、デジタル技術をどのように活用できるかを示している<sup>25</sup>。同書は、デジタル・コミュニケーション・ツールに対応したアウトリーチ活動(コミュニティに出向いて行う支援)を行うべきで、支援が届きにくい地域でデジタルツールを使ってコミュニティを基盤とする取り組みを実施した経験を持つ新しいパートナーを活用すべきだと提言している。同書は、接続性の問題がこうした取り組みの妨げになることがあると指摘しているが、ラジオなど、その地域に普及しているデジタル技術や電子技術を活用することを提案している。また、この分野で実際に活動に携わる人々は、TwitterやInstagramのようなコミュニケーションを促進するソーシャルメディア・プラットフォームを活用し、CEFMという大きな課題に世界が高い問題意識を持ち続けるようにすること

も提言している。

経済協力開発機構や Commonwealth Learning など、他のいくつかの組織は、学習や技能開発にデジタル技術を活用したアプローチが、女の子とユース女性の能力強化、そして CEFMとGBV事例の減少を後押しする可能性に特に焦点を当てている<sup>26</sup>。ユニセフの場合と同様、これらのプロジェクトは、女の子とユース女性、その他のCEFMを撲滅するコミュニティの関係者となつがるために、幅広いオフラインの活動にデジタルのアプローチを組み込んだ。これには、可能な場合行われた対面での交流も含まれる<sup>27</sup>。

プログラムの取り組みに技術を活用する効果は測定されておらず、文献の中で明確に述べられてはいない。だが、いくつかの報告書では、技術はCEFMとジェンダー不平等の根本原因に取り組むための包括的なアプローチの一部として効果的であり、オフラインの取り組みと並行して使用することで最も付加価値を高めることができると強調されている。





### 考察 4

特にCEFM撲滅を目的に設計されたものでなくても、デジタル技術がそうした取り組みにプラスの影響を与える可能性がある

今日まで、CEFMを防止、減少、撲滅するためのデジタル技術、あるいは技術活用型プログラムの設計と開発は開発コミュニティが主に担ってきた。しかし、CEFMのリスクを高める要因は複雑であり、相互に関連していることが多い。そのため、この調査では、ユース女性と女の子の能力強化に直接つながり、たとえCEFMの撲滅が目的ではなくてもCEFMをなくす取り組みに間接的に役立つデジタル技術のマッピングも行った。これには、成績を向上させる、女の子を収入を得る機会につなげる、政府サービスへのアクセスを増やす、女の子を暴力から守り、SRHRにアクセスできるようにするといったデジタル・ソリューションが含まれる。この完全なマッピングは付録 2-B (<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に記載されている。

こうしたデジタル技術の多くは、民間企業(多くは技術系スタートアップ企業)によって導入され、その拡張性と長期的な持続可能性は高まっている。こうしたソリューションの効果に関するエビデンスは非常に豊富にあり、資金提供者や学識経験者によってエビデンスの精度を推定し、学びを広める取り組みも十分に行われている。

この調査では、たとえ特にそうした目的で設計されたものでなくてもCEFMに影響を与え、女の子とユース女性の能力強化につながる可能性のある世界的なソリューションのエビデンスを要約した文献レビューを別に作成した。また、これらの技術が女の子とユース女性に与える影響を明らかに示すエビデンス、特に効果的に使われた場合にもたらされる可能性のあるプラスの効果についても触れている。

## 2.2 設計



### 考察 5

一部の国では、開発組織がユーザー中心の設計プロセスを導入している

デジタル技術の設計と拡張に使用されるプロセスは、プラン・インターナショナルAPACの活動地域によって異なり、プロジェクトの目的とイノベーションに投入できるリソースに左右される場合が多かった。

多くの場合、ユーザーのニーズを明らかにし、そのニーズに合ったソリューションを開発するために、非常に厳密でユーザー中心の設計プロセスが実施された。バングラデシュのオープン市民登録・人口統計(OpenCRVS)システムはその好例である。OpenCRVSは、プラン・インターナショナルのグローバルな取り組みの一環であり、ユーザー中心で権利に基づくCRVSシステムという、現在の市場に欠けた部分に取り組むためのものである。このシステムは、無料で使用でき、各国の状況に適応可能

で政府の他のシステム(保健やID発行システムなど)との相互運用ができ、最も脆弱な人びとを保護し確実に提供するための、権利に基づくものである<sup>28</sup>。

OpenCRVSの技術開発プロセスに着手するため、プラン・インターナショナルは包括的かつ協力的な調査研究を依頼。世帯調査からフォーカス・グループ・ディスカッション、関係者との協議に至るまで、幅広い方法で実施された。

既存のCRVSの状況を理解してユーザーを特定する一方で、潜在的なユーザーのニーズを評価することを目的として調査を行い、その結果、拡張可能で持続可能な出生登録モデルのための詳細なプログラム設計図が作成され、これを基に試験的プロセスが開発された。

プラン・インターナショナルAPACは、これをデジタル技術やデジタル技術を活用した取り組みの開発と規模拡大における成功例と捉えて、こうした事例を基に他のアジア太平洋諸国におけるデジタル技術革新の取り組みをすすめていくことができる。

## 事例研究：バングラデシュにおける OpenCRVS

CRVSシステムは、出生、死亡、結婚、離婚、養子縁組など、国内で行われるすべての主な生涯イベントの詳細を記録する。出生登録は、基本的人権に基づいて生きていく上で基盤となる法的アイデンティティを確保するための第一歩である。出生登録は、一人ひとりの子どもが確実に予防接種を受け、教育を受け、搾取から守られる上で、重要な役割を果たす。

こうしたシステムの開発・維持にはコストがかかるため、44%の国のCRVSシステムは機能していない。その代わりに、非効率的な紙ベースのシステムを運用しているか、実効性がなく、稚拙な設計の情報システムしか持っていない。その結果、人口の大部分が未登録のまま、存在を認められない状態で取り残されている。

こうした現状に対処するため、プラン・インターナショナルは、オープンソースのデジタルCRVSソリューションを開発した。これは、無料で使用でき、さまざまな国の状況に適応可能で、政府の他のシステム（保健やIDシステムなど）と相互運用ができる、権利に基づくシステムで、最も脆弱な人びとを確実に保護し、提供することができる。OpenCRVSは、国ごとの状況に合わせた解決策を見つける必要性と、そのコストに挑戦する取り組みである。プラン・インターナショナルは、国際基準、人間を中心に置いた設計の原則に従い、権利に基づくアプローチを採用することで、あらゆる国の状況に容易に適応できる設定可能なシステムを設計しつつある。

デジタル世界のメリットを活かして、OpenCRVSはすべての国が自由に利用できる。現在行われているOpenCRVSの構築には、世界中の市民登録当局が直面するボトルネックと障壁の把握・軽減に向けた数十年にわたる取り組みで得られた知見が活かされている。また、農村部や避難生活といった複雑化する環境の中で登録サービスを

利用しようとする世帯の存在を認め、それに対応するものだ。

OpenCRVSを構築するにあたって、プラン・インターナショナルはエンドユーザーと登録対象者のニーズに応えるグローバルなデジタル製品を設計・構築するために、登録当局、主な保健システムプロバイダー、専門的なソフトウェア開発者、各コミュニティと提携。CRVSのためのグローバルなデジタル製品に投資し、専門技術チームを活用することで、プラン・インターナショナルはOpenCRVSを最高の技術水準で構築することができる。同時に、現地の有能な人材が参加することで、OpenCRVSの製品を現地で所有、管理、維持することができる。

バングラデシュでは、OpenCRVSは国の法律と政策の枠組みに合わせて構成され、政府内の情報システム間でデータを高いレベルで相互運用することができる。初期のシステムによって出生と死亡の登録が容易になり、各地域の保健アシスタントと家族福祉アシスタントを上手く活用して出生と死亡の詳細を地域レベルで把握することができた。現在ではデータ取得時点で取得データをデジタル化できるようになり、プラン・インターナショナル・バングラデシュは、市民登録プロセスの迅速化とデータの質の向上、さらに、コミュニティ保健員の管理負担を最小限に抑えることができた。



### 考察 6

**一部の組織は、ユーザー中心の設計プロセスにおいてジェンダーを考慮した**

ユーザー中心のデジタル技術設計に取り組んだいくつかの組織は、設計プロセスではジェンダー的側面がきわめて重要な役割を果たすと指摘した。たとえば、ユニセフは、特にプライベートな話題やデリケートな話題について議論する場合、女性ユーザーは女性同士の方が話しやすいことがわかった。技術の初期バージョンに対するフィードバックが必要な場合、円滑にすすめるために女性のファシリテーターを配置した。

さらに、ユーザーの意見を収集するフォーカス・グループでは、参加者は女性のみにするようユニセフは助言している。これは、月経、生殖に関する健康、精神衛生、暴力など、デリケートな話題について話し合う場合に特に重要である。多くの場合、思春期の女の子とユース女性は、男性と男の子が同席

していると自由に話すことができない<sup>29</sup>。

加えてユニセフは、ユーザーテストを行う物理的な空間も重要であると助言している。会場によっては、思春期の女の子や親・保護者が「安全でない」と感じることもあり、会場の選択が参加に影響する可能性もある。女の子とユース女性は、時間の制約や移動の制限にも直面するかもしれない。このグループを効果的に設計プロセスに参加させるためには、彼女たちが住んでいるコミュニティに出向くことが望ましい。



### 考察 7

**数多くの組織が、対象ユーザーを明確に捉える努力をした**

数多くの研究とKIで、女の子とユース女性は1つの同質な集団ではなく、そこには多様なアイデンティティ、背景、経験が含まれていると指摘された。また、ユーザー中心の設計プロセスを成功させる一つの鍵は、こうした大きな対象集団の中の誰がユーザーであるかを明確に捉えることだと指摘した。不就学の女の子、障害を持つ女の子、学校でリーダー的存在の女の子などの場合が特にそうだ。誰を対象とするか、集団を明確に捉えることで、その集団特有のニーズを特定することができ、それを技術の設計に取り入れることができる。

知識を増やし影響力を高めるという目的に合った強力なコンテンツを開発して、ソーシャルメディアのプラットフォームで広めるためにも、誰が対象集団であるかを明確にすることはきわめて重要である。一部の組織では、典型的なユーザー像をつくり、中心となる女性集団と必要な技術と能力の明確化を行っている<sup>30</sup>。



## 考察 8

プラン・インターナショナル APAC 活動国統括事務所の一部では、すでにデジタル開発の原則に基づいた技術開発プロセスが行われている

デジタル開発のための原則は、DIAL（開発途上国全体のデジタルトランスフォーメーションに対する支援を重点的に行う組織）によって策定された。この原則は、組織がデジタル対応プログラムに成功事例を組み込み、プログラムを通して規模と影響力の拡大を図る際の指針として役立つ<sup>31</sup>。

プラン・インターナショナルは、グローバルで行うデジタル技術の取り組みの一環として、これらの原則を適用している。アジア太平洋地域では、プラン・インターナショナルAPACと各国チームが、技術開発の取り組みにこの原則を適用した例がいくつかある。バングラデシュのOpenCRVSシステムはその一例だ。プラン・インターナショナルのチームは開発を後押しするため、開発プロセスに

おいてユーザーニーズを優先し、オフラインで効果的に使用できる技術を構築することに重点を置いた。また、遠隔地のコミュニティや社会的・経済的に困難な状況下にある集団でも利用できるようにすることを優先した。

こうした原則を効果的に適用することで、各国のチームがCEFMを減少・撲滅させる取り組みにデジタル技術をうまく活用することができる。

図1  
デジタル開発の原則





## 考察 9

### 効果的で拡張性のあるデジタル技術の開発にはパートナーシップが不可欠である

プラン・インターナショナルAPACは、技術開発プロセスのすべての段階でパートナーシップに支えられた。いくつかの活動国統括事務所は、技術の初期プロトタイプやコンセプトの開発に、NGOから現地政府職員まで、地元のパートナーを頼りにした。モバイルやウェブアプリの場合は特にそうであった。なかでも、ユーザー登録のサポートやユーザー・エクスペリエンスに関するフィードバックの収集など、開発段階や初期のユーザーテスト段階においても、パートナーとの連携が重要であることが明らかになった。

またプラン・インターナショナルAPACと各国の統括事務所は、特に女の子とユース女性と幅広くつながるネットワークのある地元ユースグループも巻き込んで初期設計を行った。グループに適した技術を実現するために、こうした連携は不可欠だった。いったん技術展開の準備が整えば、こうしたグループが火付け役となって同じネットワークに属するユースの間に技術が普及し始めた。

プラン・インターナショナルAPACはまた、技術開発において、特定の技術スキルを持つ民間セクターのパートナーに協力を求めた。これには、初期試験プロセスで提供されたユーザーフィードバックに基づいたソフトウェアの開発・更新に携わった個人のモバイル開発者・ウェブ開発者、または専門企業が含まれる。プラン・インターナショナルAPAC内部には専門知識がなかったため、こうしたパートナーシップは特

に重要であった。

いくつかの国で、プラン・インターナショナルAPACは目的を絞ったコンテンツを開発して効果的にデジタル化を進めるために、パートナーシップを活用した。たとえば、東ティモールでは、プラン・インターナショナルAPACは、同国で最も支援が届きにくいコミュニティにSRHRサービスを提供しているNGO、Marie Stopesと提携。プラン・インターナショナル・東ティモールと Marie StopesはReproductivaというスマートフォンアプリを共同開発し、ユースが秘密を守られながらSRHRについて話し合える安全な空間を提供した。Marie Stopesの専門家らは、コンテンツの開発とともに、アプリのユーザーから寄せられる質問に対する回答者役も務めた。もう一つのプロジェクトパートナーである保健省から提供されたコンテンツもアプリに組み込まれた。こうしたパートナーシップがあることで、プラン・インターナショナルAPACは技術の開発と継続的な拡大に必要な資金と人材として最も適した選択肢を見つけることができた。

## 2.3 規模



### 考察 10

デジタル技術は、対象者に大規模にリーチするのに役立つ

FacebookのようなソーシャルメディアアプリやYouTubeのような動画コンテンツプラットフォームは、プラン・インターナショナル APACが幅広い聴衆にリーチするのに役立つ。たとえばインドでは、CEFMIに焦点を当てたFacebookキャンペーンがわずか数週間で70万人超の視聴者を獲得した。インドネシアでは、郡事務所がCEFM経験者の話を伝える動画を作成し、心を動かされた視聴者がYouTubeに投稿。この動画には、ユースのフォロワーが多い同国で有名な俳優らが起用された<sup>32</sup>。この動画は瞬く間に「ロコミで広がり」、すでに74万回超の再生回数を記録している。このようなリーチは、オフラインのやり方では不可能だっただろう。また、インドネシア事務所がこの動画を宣伝するためにソーシャルメディアを利用したことが視聴者の増加につながった。

動画やその他のオンライン・コンテンツは、プラン・インターナショナルの広範な活動とリソースに聴衆を誘導する機会にもなる。たとえば、インドネシアの動画では、ユースがCEFMと関連する危険にさらされるリスクを減らす対策について、情報へのリンクも紹介した。またこうしたリソースでは、CEFMのリスクにさらされている人や、すでに早すぎる結婚をしている人が支援や援助を受けられる方法についての情報も提供している。デジタル技術、具体的に言えば、ソーシャルメディアアプリは、幅広い聴衆にリーチするために効果的に活用されているが、その聴衆の構成、デジタルマーケティングが意識啓発に与える

効果、こうした取り組みが行動に目に見える変化をもたらすかどうか、こうしたキャンペーンを実施することにリスクはないのかを理解するためには、さらなる取り組みが必要である。そのためには継続的な視聴者のモニタリングと視聴者データの分析を検討すべきである。さらに、長期にわたる追跡調査を行って人々の行動に生じる変化を明確に捉えることも検討すべきである。

「私たちは、児童婚防止がもたらすプラスの影響に関する情報に人びとが簡単にアクセスできるように、そして児童婚を助長する他のオンラインキャンペーンに負けないために、オンラインキャンペーンを利用しています」。

F.、インドネシア(21歳)





### 考察 11

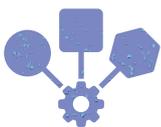
#### オープンソースの技術ソリューションは、費用対効果の高い拡張を行う上で役立つ

オープンソース技術とは、ソースコードに容易にアクセスでき、誰でも変更や拡張が可能なソフトウェアプログラムやプラットフォームのことである。オープンソース技術は、開発者のグループによって共同開発されることが多い。オープンソースの取り組みが効果的に実行されれば、連携を活用して製品の品質を向上させ、開発コストを多くの関係者で分担することができ、デジタル技術の開発・維持コストを大幅に削減することができる。

プラン・インターナショナルは、さまざまな状況下で試験と拡張が可能なオープンソースのCRVSシステムを開発するために、国際的な技術チームを雇った。このOpenCRVSシステムは、最終的にバングラデシュで試験的に導入された。このアプローチの利点の一つは、プラン・インターナショナル・バングラデシュチームが、プラン・インターナショナルによる技術開発の取り組みを活用してコスト面で効率よくプロセスを進めることができたことだ。

ユニセフのような他の開発関係者も、デジタル技術を拡張・再現するために、オープンソースのアプローチに信頼を寄せている。その一例が、ユニセフのOkyモバイルアプリで、月経期間追跡と性教育のためのアプリである。インドネシアでのテストと初期段階での導入に成功した後、ユニセフはこのソリューションを世界数カ国に拡大することを決定した。規模拡大を円滑にすすめるため、オープンソース方式を採用することが早い段階で決定された。これにより、Okyは迅速かつ効果的に展開され、ユニセフからの追加開発や投資を最小限に抑えながら、さまざまな地域や国の状況に適應させることができるようになる。

こうしたオープンソースのアプローチにより、コードを再利用し、技術の新機能を構築し、新しい国で迅速にデジタル技術を開発・拡張するための費用対効果の高い方法を開発組織に提供することができる。



### 考察 12

#### デジタル技術を国を超えて拡大するには、徹底したローカリゼーションが必要だ

ある状況下で成功した技術を別の状況でも成功させるには、現地の状況に合わせて対象ユーザーに適したデジタル技術の設計を確実に行うべく、さらなる努力をする必要があると、何人かのKIはわかっていた。その一例が、ユニセフのモバイル・アプリケーションOkyである。Okyは、女の子とユース女性向けに開発された、月経の追跡と生殖に関する健康教育のためのモバイルアプリである。このアプリは当初インドネシアで開発されたが、その成功を受けて、ユニセフはケニアを含む他の国にも拡大した。

アプリをケニアの現地事情に合わせるためには、いくつかの変更を加えなければならず、たとえば、ユーザー・インターフェースとコンテンツを現地語であるキスワヒリ語に翻訳し、現地の規範に合わせる必要があった。また、設計の特徴も修正する必要があり、たとえば、アプリのアバターを、インドネシア人よりもケニア人に見えるように再設計する必要があった。これらは、新しい環境での普及と利用を促進する上で非常に重要であった。

## 2.4 メリット



### 考察 13

#### デジタル技術は、COVID-19パンデミック下でのプログラム継続に欠かせないものとなった

COVID-19パンデミックがプラン・インターナショナルAPAC諸国を襲ったとき、多くの統括事務所が通常のプログラム活動に大きな支障をきたしたことを指摘した。女の子とユース女性など、対象となる関係者はロックダウンに入り、CEFMを減少・撲滅させるための対面での活動やコミュニティに根ざした取り組みの継続は困難であった。

この間、ミャンマー、インド、カンボジア、バングラデシュを含むアジア太平洋地域の多くの統括事務所が、パンデミック下でCEFM関連の問題に対する認識を高めるため、ソーシャルメディアを通じたデジタル・マーケティング・キャンペーンを実施した。職員は、CEFMの防止、家庭内暴力への対応、精神衛生の管理に関する的を絞ったメッセージを作成した。プ

ラン・インターナショナルAPACにとってデジタル技術は、特にロックダウンや移動制限で対面での交流ができなくなった場合に、重要なメッセージを伝え広める大切な手段となった。

パンデミック発生以来、家庭内暴力とCEFMの事例が増加していると報告されていることから、このようなキャンペーンは特に重要であった。デジタル技術を駆使したマーケティング活動がなければ、女の子とユース女性に適切なコンテンツを届け、参加させることはきわめて困難であっただろう。



### 考察 14

#### デジタル技術は、COVID-19パンデミック下で、女の子とユース女性が他人とつながる機会を提供した

パンデミックがもたらした影響の中でも特に大きかったのは、女の子とユース女性がロックダウンに入ったことでコミュニティの仲間同士の付き合いが著しく減少したことだった。インドやバングラデシュのような国々では、仲間同士の対面での交流ができない時にもソーシャルメディア・プラットフォームを通してオンライン上で交流することができた。このような交流の影響は測定されていないが、時間的制約はある

もののオンラインで仲間同士安全に交流できることで、パンデミック下でも子どもたちが孤独感に耐えることができたことを示す調査結果が新たに発表されている。長期的に見れば、こうしたオンラインでの交流は、うつ病や不安症などの精神面の問題を減らす手立てになる可能性がある<sup>33</sup>。

「私たちは、少数民族の女の子に有益で役立つ情報を提供する、オンラインの女の子の権利プラットフォームをつくりました。今では、女の子たちが自身の権利、思春期の生殖に関する健康、キャリア志向、ディーセントジョブ(人間的でやりがいのある仕事)へのアクセス、そして教育を継続し、早すぎる結婚や思春期の妊娠を避けることにつながるテーマについて学ぶことができるようになりました」。

女性ユース・アクティビスト、ベトナム  
(18歳)

「ポスターやバナーのような古いスタイルで児童婚撲滅を訴える形は、もはや機能しないと思います。ユースは技術に熱心です。早すぎる結婚をするかしないかを選択し、どんな違いが生じるかを見ることができるゲームを作ってははどうでしょう」。

T.、ベトナム、(15歳)



### 考察 15

#### デジタル技術は女の子や ユース女性に匿名性を与える

複数のプラン・インターナショナルAPAC統括事務所が、デジタル技術の大きなメリットは、匿名で情報にアクセスする新たな機会をユースに提供できる点だと指摘した。これはSRHRの改善に焦点を当てたプログラムでは特に重要であった。女の子、ユース女性、そしてより広くユースは、SRHRに関する情報を求めていることを親しい家族を含むコミュニティの他の人に知られる心配をせずに、

プラン・インターナショナルが開発したアプリを通じて正確な情報にアクセスすることができる。性と生殖に関する情報がタブー視され、公の場でオープンに議論されない状況では特に匿名性の持つ意味は大きい。



### 考察 16

#### デジタル技術は費用対効果の高い調査活動を行う上で役立つ

フィリピンでは、プラン・インターナショナルのチームがデジタルタブレットを活用して遠隔地に住む女の子とユース女性を対象にした参加型調査を実施した。調査の目的は幅広く、この集団が直面している主な課題を明らかにすると同時に、効果的で実行可能な解決策を探る手助けをすることであった。

デジタルタブレットには、Sensemakerと呼ばれるソフトウェアが搭載されている。それは、体験談に基づく調査を行う一つのツールで、回答者はコミュニティで遭遇した状況について内密に語るができる。回答者が、タブレット上にあらかじめ指定されたプロンプト(指示)や質問に答えながら語ることで、大量の体験談を収集・分析することができる。この革新的なアプローチにより、回答者が自ら選んだ体験談を共有することができ、研究者は自分の解釈や偏見を入れずに、幅広い視点を収集することができる。

データはタブレットからウェブポータルに直接送信され、ダッシュボードに表示された。このダッシュボードを通して、プラン・インターナショナルの職員は調査結果をリアルタイムでモニタリングし、女の子とユース女性が直面している課題の特定を始めることができた。これによって、調査プロセスの非常に早い段階でユーザーの声に直接応え、解決策を探ることが容易になる。

タブレットを使用することで、プラン・インターナショナルAPACが集められる調査回答者が大幅に増え、わずか2週間で2,000人に達した。これによって、費用対効果の高い方法で、質の高い考察を大規模に収集することができ、その考察を基にプログラムの設計が行われた。

## 2.5 効果



### 考察 17

#### デジタル技術がCEFM撲滅にどんな効果をもたらすかを示すエビデンスはまだ乏しい

文献レビューとKIIでは、CEFM撲滅活動にデジタル技術をどう活用すれば効果的かを示す具体的なエビデンスとなる情報源を見つけることはできなかった。これは、この分野における革新的な取り組みの多くが、民間セクターではなく、プラン・インターナショナルやユニセフのような開発関係者によってすすめられてきたためと考えられる。また、デジタル技術の効果は、個別に追跡・測定されるのではなく、より広範なプログラムのモニタリングや評価の取り組みの一環として測定されることが多いためでもある。

そのため、デジタル・ソリューションの拡張性や長期的な持続可能性に課題が生じ、資金提供者からの資金が尽きたりプロジェクトが終了すると、デジタル・ソリューションの導入や利用が減少する一因となっているようだ。ゼロから開発されたデジタル・テクノロジーの場合は特にそうだ。

この分野の知見も試みもまだ少なく発展途上にある。そのため、これが開発の現場にいる者にとってCEFM撲滅のためのデジタル・アプローチに投資する機会となり、また、CEFMのリスクにさらされている、あるいは直接影響を受けている女の子とユース女性の生活に現実に目に見える効果をもたらすデジタル・イノベーションの取り組みを支援する機会となることに疑いの余地はない。





### 考察 18

#### デジタル技術がCEFMにどんな効果をもたらすか、関係者が期待値を事前に定めている場合もある

プラン・インターナショナル・バングラデシュが実施したオープンソースのCRVSプロジェクトは、国の出生登録システムのデジタル化がもたらす効果を生き彫りにした。これには以下が含まれる:

- ・ 出生・死亡登録率の向上と、出生・死亡に関する法的文書の提供の増加。
- ・ 出生・死亡登録記録のデータ品質の向上。
- ・ 出生登録と死亡登録の処理時間の向上。

プロジェクト報告書では、デジタル登録システムがCEFMの影響を受けるさまざまな集団に影響を与える可能性があることも明らかになった。この集団には、CEFMを強制される恐れのある女の子とユース女性、その親、地区や国家レベルの行政職員、さらに国の政府も含まれる。

その影響力を最初から明確に示すことが、デジタル技術の開発時・実施時・拡張時の効果の適切な測定につながる。



### 考察 19

#### デジタル技術が実世界に影響を与えていることが新たに裏付けられつつある

前述のとおり、バングラデシュでは、プラン・インターナショナルが、新郎新婦の年齢を確認するためのアプリの開発と試験運用に取り組んだ。6ヶ月間の試験期間中、モバイルアプリは3,700件超のCEFMを防止した。この技術が他の地区に拡大された際に、どのような効果が生み出されたかは不明である。

その他のデジタル・アプローチで、特にユースを中心に大人数を対象としたため、その効果を今後追跡・測定できる可能性が高い。特にソーシャルメディアキャンペーンの場合がそうであり、キャンペーンを通してCEFM関係者の認識が高まり、CEFMの成果に影響を与える行動変容につながった可能性がある。

どんな影響が、どんな聴衆に対して生み出されつつあるのかを理解するためには、デジタル技術によるすべての取り組みに効果の測定を組み込むことが重要である。また、技術が導入されて利用されることで、意図しない結果やデジタル上の問題が生じていることに注意することも重要である。デジタルに焦点を当てたプログラムはすべて、こうした弊害に対処し、効果的に最小化、つまり根絶する必要がある。

## 2.6 課題



### 考察 20

#### デジタル技術にアクセスするのが困難な女の子とユース女性は今もいる

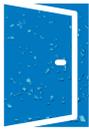
デジタル技術を活用したCEFMIに焦点を当てたプログラムでは多くの場合、意図した集団、特に地方に住む女の子とユース女性とつながる上でいくつかの制約があった。そのひとつがデジタルインフラに関するものであった。プラン・インターナショナルAPACがデジタル技術を活用した地域の中には、ネットワークが十分に普及しておらず、インターネットへのアクセスが困難なところもあった。

もう一つの課題は、機器、特に携帯電話の所有であった。プラン・インターナショナルAPACのスタッフは、アジア太平洋地域の農村部には、特に女の子と女性の間で携帯電話の所有率とアクセスが低いコミュニティがあると報告した。これは、コミュニティ内の家父長的な構造と関連していることが多かった。また、デジタル・リテラシーに関する課題もいくつか報告されており、たとえアクセスできたとしても、これが彼女たちがテクノロジーを効果的に活用する妨げとなっていた。

文献レビューと調査とKIIIによって、教育水準の低さ、女性がデジタル技術にアクセスして効果的に利用することを妨げる社会に根付いた偏見と社会文化的規範など、多くの根本原因が明らかになった<sup>34</sup>。伝統的に与えられたジェンダー的役割と浸透した文化的規範を背景に、女の子とユース女性の教育や家庭外での役割にはほとんど価値がないと考えられている。加えて、デジタル技術の導入と利用にはジェンダー特有の障壁がある<sup>35</sup>。たとえば、家庭に機器が少ない場合、親は女の子より男の子を優遇する傾向がある<sup>36</sup>。

デジタル不平等を理解し、是正することは特に重要である。なぜなら、それは他の不平等を悪化させ、定着させ、女の子とユース女性が労働力に貢献したり、新しいスキルを身につけたり、情報やサービスを利用したりする機会に悪影響を与える可能性があるからである。このことは、社会的・経済的生活のオンラインへの移行がすすむCOVID-19パンデミック下では特にそうである。





### 考察 21

#### 女の子とユース女性にはアクセス面で困難があるが、克服可能である

KIIから、各状況には特定の障害があってデジタル技術の導入や効果的な利用を制限している可能性があることに関係者らは十分気づいていることがわかる<sup>37</sup>。プラン・インターナショナルのAPACチームは、積極的にプログラムを実施しているアジア太平洋諸国で障害となっているものを把握するため、接続状況をしっかりと調査した<sup>38</sup>。CEFMを減少または撲滅するためにデジタル技術を活用する取り組みには、こうした障害を回避するための効果的な解決策も含める必要がある。

プラン・インターナショナルAPACはまた、接続性の悪さやその他のインフラ上の障害を考慮したソリューションもテストしている。たとえば、バングラデシュのOpenCRVSシステムは、オフラインや接続の悪い状況でも機能するよう特別に設計されている。インターネットに接続されていないことをユーザーに知らせ、ユーザーがオフラインのときは、システムが入力されたデータを保存し、次に接続したときにクラウドにアップロードする。

ユニセフはジェンダーツールキットを開発し、女の子とユース女性に特化したデジタル技術を設計する最も良い方法と実践的な手順、事例を示し、彼女たちが直面する女の子ならではの多様な障壁を考慮に入れている<sup>39</sup>。このツールキットは、ユニセフが現地で革新的な取り組みを行う際に利用され、たとえばインドネシアでは、女の子とユース女性が携帯電話を共有しているコミュニティをいくつか特定するのに役立った。これを受けて、複数のユーザーがログインできるオプションが月経記録アプリに組み込まれた。これによって、複数の女の子が1台の端末でアプリを利用できるようになった。こうした独創的な工夫が、デジタル技術の導入と利用をすすめる力となる。



### 考察 22

#### デジタル技術の取り組みは持続可能性の問題に直面している

デジタル技術を活用した取り組みにとって、持続可能性は重要である。最初から持続可能性を組み込んでおかないと、特に資金が途絶えたり、プロジェクトが終了したりした場合に、取り組みの弱体化や中断、中止につながる恐れがある。プラン・インターナショナルAPAC統括事務所はほとんどの場合、持続可能性を重要視しているが、資金が尽きた後にデジタル活動を継続するための明確な計画はない状態だった。こうした活動のほとんどは独立した予算を持たず、資金は継続的なCEFMのプログラムや予算に組み込まれていた。その結果、プロジェクトが終了すると、継続が危ぶまれることになった。

いくつかの統括事務所は、持続可能性と撤退戦略の一環として、各国政府との提携を検討していた。中には、プラン・インターナショナルのプログラムが終了したときに、政府が資金を提供し、技術を運営する計画を練っているところもあった。しかし、こうした計画には、職員の離職や技術スキルの不足、政府内の優先事項が変わって長期的な持続可能性が脅かされるといった、いくつかの課題があった。

また、たとえば収益を生み出すビジネスモデルを開発したり、技術を拡張するための適切な民間パートナーを見つけるといった、その他の持続可能性戦略は通常追求されなかった。

持続可能性という課題に直面していたのは、プラン・インターナショナル APAC だけではなかった。実際、この問題は、技術開発プロセスを実施したり、プログラムにデジタル技術を活用した経験がある外部のKIからも、最もよく直面する課題として挙げられていた。効果的な持続可能性戦略を考案し、それを最初から技術開発の取り組みに組み込むことが、CEFMの撲滅を含め、長期的な影響力と持続的で前向きな変化を目指して活動するあらゆる担い手にとってきわめて重要である。



## 考察 23

## デジタル技術の取り組みは、資源調達の課題にも直面している

プラン・インターナショナルAPAC統括事務所の職員から、デジタル技術を構築、維持、拡張するための適切なリソースを見つけるのが困難だと指摘があった。その多くは、技術開発をサポートする上で必要なスキルを持つ人がチーム内にいないと述べた。これは特に、独自のモバイルアプリを構築している統括事務所で顕著だった。

さまざまな技術的ソリューションやアプローチを維持するためには、定期的なサポートも必要だった。モバイルアプリの場合は定期的なトラブルシューティングを指し、ダウンタイムの原因となるバグやユーザー・エクスペリエンスに影響を与える他の問題を修正する必要があった。ソーシャルメディアのプラットフォームの場合は、たとえば、頻繁に投稿したり、興味深いコンテンツを作成したりすることで、聴衆の参加を維持し、対象聴衆へのリーチをさらに拡大するために、十分なりソースを確保することを意味した。

プラン・インターナショナルのAPAC統括事務所の中には、リソース不足を補うためにデジタル企業と提携を結ぼうとしたところもあったが、この試みにも課題があった。こうした提携には時として費用がかかりすぎることがわかった。また、プラン・インターナショナルAPACの目的に合致し、遠隔地や農村部に影響力があり、女の子とユース女性、その他のCEFMの関係者とつながることができるパートナーを見つけるのが困難な場合もあった。



## 2. 重要な考察



### 考察 24

デジタル技術の使用によって現実には発生している、また今後発生しうる害には、依然大きな懸念がある

KIIで最も頻繁に挙げられた懸念のひとつは、ユーサーがオンラインを利用し、デジタル技術を活用することで直面するリスクに関するものだった。何人かのKIIは、このリスクを数値で表したデータを十分持っていた。たとえば、スリランカのCare Internationalは最近、同国の子どもインターネット利用について綿密な調査を行った。その結果、10人に3人の子どもが、デジタル技術を利用する際に、何らかの形でオンライン暴力に直面していることがわかった<sup>40</sup>。Care Internationalは、こうした暴力事例を減らす解決策を探ることに、特に注力していた。

ECPATのような組織も、オンラインでの性的搾取や虐待のリスクの軽減に重点を置いたプログラムを組んでいた。ECPATはネパールで、オンラインでの性的搾取や虐待の加害者を特定して後に訴追できるよう、インターネット・サービス・プロバイダーや国際刑事警察機構と協働する効果的な提携モデルを開発していた。インタビューに応じたほぼすべての組織が、こうした被害を追跡し、防止し、対処するための具体的な方針とプロセスを持っていると述べた。

プラン・インターナショナルもこうしたリスクを十分に認識しており、オンライン上のユースを保護する強固なセーフガーディングのグローバル・ポリシーを策定している<sup>41</sup>。このポリシーでは、子どもとユースがデジタル技術に関わることで生じ得る主なリスクをいくつか概説している。これには、プラン・インターナショナルが作成または使用するデジタル技術をユースが使用する際に、過激、不適切、有害なコンテンツにさらされるコンテンツ・リスクが含まれる。また、ユーザーが故意または無意識のうちに自身や他者に関する情報を共有し、それによって危険にさらしてしまう接触リスクも含まれる。その他のリスクには、データプライバシー侵害が含まれ、個人情報の暴露や詐欺など、多くの弊害をもたらす可能性がある。

またポリシー文書は、プラン・インターナショナルの職員がリスクを評価する際のツールとして役立ち、リスクを軽減・対応する方法に関する明確な指針と手順を示している。このポリシーは、オンラインリスクに対するセーフガーディングを、あらゆるデジタル技術を設計する際の中核に組み込み、新たなリスクが出現していないことを確認するために定期的な評価を受けるべきであると明確に示している。





# 3. 提言

上記の考察に基づき、プラン・インターナショナルAPACは、組織、政府、資金提供者がCEFM撲滅プログラムにデジタル技術を効果的に組み込む上で役立ち、デジタル技術を活用して特に女の子とユース女性への効果が最も上がる選択肢を探るために、一連の提言をまとめた。これらの提言はほとんどが、アジア太平洋の地域レベルで実施されるべきものである。しかし、持続可能性を確保するためには、国レベルで実施する努力も必要になる。

どのようなデジタル技術を適応させるべきかを知るために既存の市場状況を定期的に調査することは、重要な第一歩である。技術革新の状況は急速に進化しており、CEFM撲滅プログラムにつながりそうな新しいデジタル・ソリューションが常に導入されているため、これを定期的に行うことが重要である。また、デジタル技術をどの程度容易にユーザーや状況に適応させられるかを理解することも、上手く適合する技術を見つけたり、適応にリソースを使わずに済むようにする上できわめて重要である。

## 3.1 既存のデジタル技術の再利用と改善を行う

プログラムにデジタル技術を活用する前に、資源を集中的に投入した技術開発プロセスに着手する。すべての活動主体は、既存のデジタル・ソリューションを適応・強化する方法を探るべきである。これは、既存のプログラムの中で、急速に普及している、あるいはプラスに影響する兆候を示し始めたソリューションでもよい。たとえば、バングラデシュのOpenCRVSや年齢確認モバイルアプリ、東ティモールのReproductivaモバイルアプリなどのデジタル技術などがそうだ。しかし、こうしたデジタル技術の普及に力を入れる前に、その影響を測定し、明確に理解する必要がある。

デジタル技術を再利用し、適応させることで、持続可能性を高めることもできる。プラン・インターナショナルAPACは、デジタル技術を開発したチームに資金を提供し、他の国や状況でのさらなる展開を後押しするサービス・レベル契約をすでにいくつかの国で結んでいる。このモデルだと、デジタル技術を改善・強化するための一貫したリソースを確保することができる。

組織のポートフォリオ内に適したデジタル技術が存在しない場合は、市場を調査して、イノベーションに関する課題、対象ユーザー、状況に適したデジタル・ソリューションを特定する必要がある。既存のソリューションを改良して構築する方法であれば、全く新しい製品開発プロセスを行うよりも、はるかに少ないリソースで済む可能性がある。

## 3.2 ユーザー中心の設計をする上で最適なプロセスを探る

広範に調査を行っても特定された問題の解決につながるデジタル技術が見つからない場合、開発組織が独自の技術開発プロセスへの着手を検討することはできる。だが、この決断は、必要なリソースを慎重に検討し、確保した上で行うべきであることを強調しておかなければならない。リソースには、技術開発プロセスを成功させるために必要な資金だけでなく、適切な技術スキルを持つ人材も含まれる。

デジタル技術をゼロから開発すると決定した場合、ユーザーとコンテキストの両方に適した技術を最も上手く設計する方法を的確に決定するプロセスが必要になる。そのプロセスは、ジェンダーに配慮・対応したものでなければならない。たとえば、少なくとも一部のフォーカス・グループの進行役は女性が務めるようにすれば、特定のデジタル技術の開発や設計にとってきわめて重要なプライベートな話題やデリケートな話題について女の子とユース女性は話し合いやすくなる。

また、フォーカス・グループ・ディスカッションや技術試験を安全な場所で行うことができるようにすることも重要だ。年齢や障害の有無も、アプリの設計に影響を与え得るので、考慮しなくてはならない。

ユニセフが開発したジェンダーツールキットは、女の子とユース女性が直面するさまざまな特有の障壁を考慮して、女の子とユース女性に特化したデジタル技術を開発する上で最も良い方法や実践の手順、実施例を示している<sup>42</sup>。このツールキットは、開発組織などが技術開発の指針として利用することができる。

技術開発活動の指針となる有益なリソースは他にもある。最もゆるぎないものとして、DIALが管理する「デジタル開発のための原則」がある。この原則は、国際開発組織がデジタル技術をプログラムに組み込む際の助けになるよう特別に設計されたもので、技術開発プロセスの各段階について基盤となる指針とリソースを詳細に示している。

開発主体は、「デジタル開発のための原則」を自身のプログラムに取り入れることを検討して適応させるか、「CEFM撲滅のためのデジタル技術」ツールキットを独自に作成する必要がある。これは、技術開発プロセスの各段階でジェンダーを必ず考慮し、そのプロセスは子どもやユースとともに安全かつ効果的に展開できるものでなくてはならない。

また、技術がデジタル上の害を生み出して女の子とユース女性に直接影響を与える可能性があることを認識し、追跡するプロセスにする必要がある。複数の国で活動する開発主体の場合は、地域リソースを作って各国チームが技術開発プロセスを効果的に進めるための支援を受けられるようにすることもできる。この地域リソースによって、各国の取り組みから最も良い方法を引き出したり、技術開発プロセスから得られた学びを定期的に把握できるようになり、最良事例を確実に取り入れて将来の技術開発活動すべてに活かせるようになる。

### 3.3 デジタル技術を選択する前に問題を明確にする

ユーザー中心の技術開発プロセスのほとんどは、その技術が解決しようとする問題や課題、あるいは獲得できる機会を明確にすることから始まる。たとえば、プラン・インターナショナルが東ティモールでReproductivaアプリを開発したのは、現地スタッフがコミュニティで早すぎる妊娠や予期せぬ妊娠が多く、それがCEFMの多発につながっていることに気づいたからである。妊娠率が高い理由の一つは、SRHに関する知識不足であることがわかったが、これはこの問題につきまとうスティグマがもたらしたものだ。そのため、このアプリは、このCEFMの遠因であるスティグマの軽減につながるよう特別に設計された。

デジタル技術に組み込むべき、あるいは技術を適合させる際に考慮すべき製品の特性をある程度つかめるようになるため、問題の明確化は重要である。東ティモールの例では、SRHを検索する際に女の子に匿名性を提供することが重要であったが、それは匿名性によって社会的スティグマを回避することができ、デリケートな問題に関する情報を得る際に安心感を与えることができたからである。その結果、利用が増加し、促進された。

問題を明確化することは、技術の主なユーザーを特定する上で役立ち、それによって持続性と影響力が最も高まる可能性がある。これには、女の子とユース女性だけでなく、教師、地域のリーダー、保健の専門家など、CEFMの撲滅に関わる他の関係者も含まれる。ユーザーが特定されたら、彼らの具体的なニーズや、普及や使用に影響を与える可能性のある背景的要因を特定するための調査を行う必要がある。そうすれば、それに応じて技術の設計に変更を加えることができる。たとえば、ユニセフは、インドネシアでは携帯電話が女の子やユース女性の間で共有されていることが多いことに気づいた。そこでユニセフは、1つのアカウントに複数のログイン機能を統合し、共有の携帯電話で利用できるようにした。



© Girls Advocacy Alliance/Ilvy Njokiktjen

### 3.4 パートナーシップの裾野を広げる

**付録 2-B** (<https://www.civilsocietyasia.org/resources/lets-go-digital-report>)に示されているように、CEFM撲滅を目的に特別に設計されたものでなくても、CEFM撲滅にプラスの影響を与える可能性のある技術がいくつかある。これには、成績の向上や行政サービスの利用増加、さらに女の子を所得創出機会につなげ、女の子を暴力から守り、SRHRを利用できるようにするデジタル・ソリューションなどがある。多くの場合、こうしたデジタル技術は民間企業によって開発され、拡張性と持続可能性を共に満たしている。

開発主体は、プログラムとして取り組む必要のあるCEFMに関連する具体的な問題や課題に対処できる技術をすでに開発している民間セクターとの提携を検討すべきである。開発主体はデジタル技術の開発にリソースを費やす前に、まず同様のソリューションがまだできていないことを確認した上で、既存

の技術を特定のプロジェクトのニーズや現地の状況に適応させることができるかどうかを評価したほうが良い。もし可能ならば、技術開発に取り組むのではなく、デジタル技術を展開している民間企業との提携を検討すべきである。

入手できる技術がない場合は、技術を開発するためにイノベーション・コミュニティとの提携を検討することもできる。こうしたコミュニティは、技術ソリューションを構築するために、スタートアップとも呼ばれる初期段階の企業を支援する支援組織で構成されている。アジア太平洋地域には、こうした支援組織が600近くある。

図 2  
GSMAのAPAC向け支援組織マッピング

Ranking	Country	Number of Tech Hubs
1	India	> 250
2	Indonesia	51
3	Malaysia	39
4	Thailand	38
5	Vietnam	37
6	Pakistan	35
7	Philippines	34
8	Bangladesh	15
9	Myanmar	14
10	Nepal	12
11	Laos	< 5
12	The Pacific Region	< 5



開発主体は、こうした支援組織と一緒にイノベーションに取り組むことを検討できる。イノベーションに取り組むことで、デジタル技術が取り組むべき問題が明確になり、技術開発プロセスを支援するための資金調達につながる。通常、最も優れたデジタル・ソリューションを開発した企業に贈呈される賞金が資金になる。技術スタートアップ企業はまず最初に持続可能性の問題を考慮するため、こうした手法をとることで、開発された技術が持続可能なものになる可能性が高まる。

こうした支援組織や、より広範な技術やイノベーション(の共同開発など、さまざまな企業が連携して共存共栄を目指す)エコシステムと強いつながりを持つことで、プログラムの実施者は、技術開発プロセスをゼロからスタートさせて資金調達をするのではなく、現地での試験を受けた開発済みのデジタル技術に対する理解を深め、こうしたソリューションを現地状況に合わせて適応させることができる。

コンテンツをどれだけ拡散できるかが重要なアプリケーションにとっても、提携はきわめて重要である。プラン・インターナショナルの場合、女の子とユース女性が関連情報にアクセスできるReproductivaのようなアプリにリンクしたソーシャルメディアページがこれに含まれる。Reproductivaの場合、Marie Stopesとの提携は、女の子とユース女性がSRHIに関連するさまざまなテーマに関する関連コンテンツにアクセスできるようにする上できわめて重要であった。他のテーマへの広がりがある正確なコンテンツが定期的に拡散されることが重要な取り組みを行う場合であれば、同様の提携を結ぶべきである。

## 3.5 デジタル技術の取り組みの影響を明確に捉え、追跡する

デジタル技術は実現を可能にする手段として位置づけられており、技術に焦点を当てた取り組みのほとんどは、独自の業績評価基準や影響目標を持たない。その代わりに、CEFMの撲滅に関連する、より広範なプログラム目標に沿った目標になっている場合が多い。

このため、持続可能性と影響力の測定にはいくつかの課題がある。持続可能性については、技術がより広範なCEFM撲滅プログラムの下に組み込まれている場合、そのプログラムが終了した後、その技術は成長を止め、継続的な影響力がなくなるかもしれないという大きなリスクがある。ソーシャルメディアキャンペーンに関する限り、これは視聴する多くの女の子とユース女性を失う可能性があることを意味する。デジタル技術の開発では、資金難のために技術が中止されると、リソースが無駄になったり、影響が損なわれたりする可能性がある。

影響力の測定という点では、最初に影響を与える目的を明確に定めることで、デジタル技術をユーザーと文脈にどのように適合させ、意図した影響を生み出す力を最大にするかが変わってくる。たとえば、10代の妊娠を減らすために技術を設計する場合、そのテーマに最も関連性の高いコンテンツにして、女の子が自身の月経周期を理解し、追跡できるように技術設計を行う必要がある。

目標到達度を定期的に追跡することは、デジタル技術が実際にCEFMの撲滅に与えている効果を把握する上で不可欠である。進捗状況が芳しくない場合は、デジタル技術の選択や設計を見直したり、デジタル手段を通じて拡散されているコンテンツを作り直したりする必要があることを示している可能性がある。

また、技術が導入・使用される際に生じる意図しない結果やデジタル上の害をモニタリングすることも不可欠である。すべての技術開発プロセスは、まず生じ得る害の明確化、およびこれらの害を防止し対処するための明確な戦略から始まるべきである。プラン・インターナショナルをはじめとする、子どもの権利に重点を置く組織が策定した「オンライン上のユースを保護するためのグローバル・ポリシー」は、害を明確に捉えるリソースとして非常に役立つ。またこのポリシーは、こうした害を抑えるための予防策についても有益な提案をいくつか示しており、デジタル技術に関わるすべての取り組みに取り入れられるべきである。

## 3.6 デジタル技術の取り組みに個別の予算を割り当てる

デジタル技術の取り組みには個別の予算はない場合が多かった。むしろ、本体のプロジェクトやプログラムの予算として調達されていた。このため、革新的な取り組みが制限され、場合によっては、取り組みが資金不足に陥ったり、遅れたり、完全に中止されたりする可能性があり、問題になっている。

多くの場合、開発者やコーダーのような技術専門家や、ユーザー・インターフェースやユーザー・エクスペリエンスの専門家など、必要な人材の多くを外部から調達する必要があるため、こうしたデジタル技術の取り組みはコストがかかる。ソーシャルメディアに焦点を当てた取り組みの場合も、視聴者を習慣的に参加させるために新しいコンテンツのアップロードや視聴者からの問い合わせへの回答などにかかなりの労力が費やされる。

## 3.7 持続可能性のための戦略を策定する

調査の結果、大半の組織が、新しいデジタル技術を開発したり、既存の技術をプログラムに組み込む際に、持続可能性の課題に直面していることがわかった。そのため、すべての技術開発の取り組みで持続可能性を組み込む取り組みを計画的に行うことが不可欠である。

これはつまり、技術の適応や開発活動のスタート時に、持続可能性に関する明確な戦略を立てるということだ。戦略の中では、その技術を運用する期間と停止時期を明確に示さなくてはならない。デジタル技術の取り組みには、明確な終わりがあるものもあれば、ユーザーにとって真に価値があり、対象となるユーザー集団に効果がある限り運用すべきものもある。また戦略では、デジタル技術の長期的な所有権について明確な計画を定めなくてはならない。たとえば、商業化、政府機関や地元のNGOに導入された場合、あるいはオープンソースのソリューションのようにユーザーサポートやソフトウェアのメンテナンスを提供する活発なユーザーコミュニティを設立する場合などだ。

政府や民間部門などのパートナーが持続可能性戦略にとって重要である場合、そのパートナーを特定し、彼らがプロセスに参加して最終的に技術を所有する意思があることを確認することがきわめて重要である。たとえば、最終的に政府が所有権を持つことになる場合であれば、政府内で実際に従事する者を何人か特定し、プロセスのさまざまな段階を通じて彼らを関与させることが重要である。

実際に従事する者は、進捗状況やモニタリング、評価データを常に把握し、プロセスの中で発生する数多くの課題について深く理解している必要がある。可能であれば、彼らが、プロセス開始当初から積極的に関与し、意思決定能力を持つことが望ましい。

こうしたパートナーを選ぶ際には、デジタル技術に取り組む意欲と能力を見極めることが重要である。当初から能力がなければ、その先も能力がつく可能性は低く、提携のあり方を見直す必要がある恐れがある。民間、政府を問わず、外部組織と協力する場合、戦略が変更されたり、実際に従事する中心人物が組織を去ったりするリスクは常に存在する。したがって、開発組織は、大きな変化の流れの中においても、継続性と関連性を確保するために、各レベル各役割ごとに実際に従事する者を複数持ち、連携することが不可欠である。

デジタル技術の取り組みに要する長期的なコストを数値で示し、それを維持するためのリソースを確保しておくことも重要である。これは十分な予算の確保を指すだけでなく、デジタル技術のプロセスのあらゆる側面が考慮されていることを意味する。これには、初期調査、技術開発、技術のメンテナンス、職員・ユーザー・マーケティング・カスタマーサポートチームに必要なトレーニングに関するサポートなどがある。こうしたコストは、技術の規模や、ユーザーベースが拡大するのに伴って変化する可能性があることを認識することがきわめて重要である。開発活動のリソースについては、こうしたコストの変化を考慮しなければならない。

最後に、開発組織は、長期的な持続可能性につながるデジタル技術のビジネスモデルの開発を検討すべきである。これは、技術に自ら対価を支払う意欲のある組織や個人を見つけて、商品やサービスの促進につなげるということでもある。また、パートナーの選定や女の子とユース女性に紹介する商品を決定する際は倫理的配慮に基づいて行う必要も生まれる。

持続可能性を達成するためのその他の方法は、「デジタル開発のための原則」に明記されている。これらの方法を地域ごとに試験的に導入し、最良事例を戦略の中に組み込むことで持続可能性を強固にすることができる。

# 4. 結論

CEFMに対して、革新性と持続可能性、かつ影響力のある解決策を探り、取り組む必要性は、かつてなく高まっている。世界全体では、すでに約6億5,000万人の女の子がこの有害な慣習の影響下に置かれ、COVID-19パンデミックによる状況の悪化で、CEFMのリスクにさらされている女の子は1,300万人増加した。貧困が拡大し深刻化するにつれ、多くの女の子が経済的事情で中途退学し、早すぎる結婚を余儀なくされている。パンデミックの中で、女の子とユース女性が家庭で過ごす時間が増え、GBVの増加にもつながっている。

パンデミックによって、社会的・経済的生活のオンライン化がすすみ、個人、政府、組織のデジタル技術への依存度が高まっている。こうした背景は、CEFMの撲滅に取り組む人びとにとって、デジタル技術を効果的に活用して憂慮すべき事例数の増加に反転攻勢をかける大きな機会になる。今回、今までにない画期的な調査を行い、CEFMを撲滅するために実施・拡大できる可能性の高い方法を明らかにした。また、CEFM撲滅の取り組みにデジタル技術を活用する際に生まれる主な課題も明らかになった。

この報告書には、どういったデジタル技術を活用すればCEFM撲滅活動を後押しできるかを把握するために実施した広範なマッピングが添付されている。これには、プラン・インターナショナルAPACが適応、開発、展開したデジタル技術が含まれており、そのいくつかはCEFM撲滅の取り組みにプラスの影響を与える兆候を示し始めている。また、たとえCEFM撲滅を目的として設計されたデジタル技術ではなくてもCEFM撲滅の成果にプラスの影響を与える可能性があり、利用できるデジタル技術を別のマッピングで幅広く紹介している。

デジタル技術の包括的なマッピングを行った目的は、イノベーションの限界を押し広げ、CEFMの撲滅、そしてすでに結婚している子どもとユース女性の被害低減に包括的なデジタル・ソリューションを適応あるいは開発しようという関係者の意欲をかき立てることだ。CEFMの課題は複雑で、根本的な原因は複数あるため、このように限界を押し広げることがきわめて重要なのだ。教育の成果を向上させ、ユースの経済力を強化し、ユースを暴力から守り、SRHを改善することができる幅広いデジタル・ソリューションの選択肢を持つことが、この課題に漸進的に、しかし影響力をもって取り組む上で大きな役割を果たす力になる。

最後に、本報告書は、CEFM撲滅の関係者がどうすれば効果的にデジタル技術を自らのプログラミングに取り入れ、影響をもたらすことができるかについて、一連の提言を行なっている。提言は、プラン・インターナショナルAPACや、CEFM撲滅を使命とする他の開発援助組織で高い可能性を認められた実践例を基にまとめられ、ジェンダーや年齢も考慮に入れている。また、特に個々のNGOのリソースや能力では限界のあるような分野では、提携に関する具体的な提案も行っている。これらの提言は大部分が、アジア太平洋全域の地域レベルで実施すべきものだが、持続可能性を確保するために、国レベルで実施する努力も必要となる。

本報告書は、開発関係者の間に存在する、デジタル技術を活用したイノベーションの限界を押し広げることを目指して、そうしたイノベーションに取り組む際の指針となる実践的なアドバイスを提供している。しかし、これは出発点に過ぎない。今後デジタル技術は進化していき、女の子とユース女性、その他CEFMの影響を受けている人が、こうした技術を実際にどう適応・利用していくかも進化する。つまり、技術を活用したイノベーションの可能性は絶え間なく広がっていくのである。

CEFM撲滅のためにデジタルを活用した取り組みがもたらす影響もまた変化する。こうした取り組みがプラスの影響をもたらす一方で、デジタルの害が女の子とユース女性にマイナスの影響を与える可能性もある。そうした影響は定期的にモニタリングし、プラスを高め、マイナスを減らす努力をしなければならない。これは容易なことではなく、コミュニティ全体でイノベーションとデジタルを活用した試みに先進的に取り組むことが必要となる。しかし、そうした努力こそが思い切った解決策を導き、CEFMのリスクにさらされた、あるいは、すでにCEFMの被害を受けている何億人もの女の子たちに、有意義で持続可能な影響を与えることができる。

# 第2部 今こそ行動を!



アジア太平洋地域におけるCEFMの撲滅と思春期の妊娠の抑制に対するプラン・インターナショナルの貢献



今こそ行動を！

プラン・インターナショナルは、CEFMを防止、減少、撲滅するために世界中で活動している。世界レベルでは、この活動はプラン・インターナショナルのグローバル・ハブが主導し、組織の包括的な戦略を設定し、国連などでのハイレベルで戦略的なアドボカシー（政策提言）活動を展開している。アジア太平洋地域では、CEFMに関する活動はプラン・インターナショナルAPACの主導の下、各国の統括事務所と連携して行われている。

## グローバルに考える： 戦略と優先課題

世界レベルでは、プラン・インターナショナルのCEFM撲滅に向けた活動は、全世界でCEFMに取り組むための包括的で行動指向の枠組みである「グローバル18+ セオリー・オブ・チェンジ」に基づいて進められている。2016年に正式に認められた「18+」の枠組みは、プラン・インターナショナル全体から技術専門家が結集して開発したもので、CEFMを終結させ、最終的に「子どもの権利が尊重され保護され、女の子が差別されずに平等に扱われる世界」というプラン・インターナショナルのビジョンの実現に貢献することを目的とした、多面的な枠組みとなっている。このビジョンを実現するために、プラン・インターナショナルは、社会・文化のあり方の変革を目指すと同時に、法的・政策的枠組みを改善し、公共サービス、社会的セーフティネットを向上する、総合的な戦略を導入しなければならないと認識している。この戦略の中核をなすのが、女の子、ユース、その家族、そしてコミュニティの包摂とエンパワーメント（能力強化）である。

この戦略をより明確にするために、プラン・インターナショナルは3つの主な「変化の側面」または経路を特定し、その中で具体的な目標を各々策定し、CEFMの活動の指針としている。最初の側面は、**社会規範、態度、行動、人間関係の変容**に焦点を当てている。ここでは、結婚するかどうか、そして誰と、いつ結婚するのかを女の子が選択する力を身に着けることが中心となる。男性と男の子は、ジェンダーステレオタイプに挑戦する上で重要な役割を果たすことができるため、彼らのエンゲージメント（参加し、行動変容を起こすこと）も不可欠である。私たちはまた、保護者を含む家族、宗教的・伝統的指導者、CSOsと協働して、CEFMの有害な影響について意識啓発を行い、彼らの知識とスキルを深め、彼らが属すコミュニティそして広く社会に根付いた有害な慣習を防ぎ、減少させ、最終的に撲滅できるよう後押しを行う。

第二の側面は、**社会的・経済的リソースとセーフティネットを構築・強化**し、CEFMを撲滅できる環境を整えることである。これには、リソース集めや公共サービスの支援も含まれる。この側面では、保護者（父親と母親の両方）より広範な家族構成員が、女の子の結婚に代わる選択肢のためにリソースを割り当て、意思決定プロセスに女の子とユース女性を参加させるようにすることが目的となる。これにはピアサポート・ネットワークが重要な役割を果たす。私たちはまた、ユース女性の雇用機会を拡大するために企業や企業プラットフォームと協力するなど、女性が経済的な機会を得られるように官民セクターと協力している。また、コミュニティ・ボランティアやリーダーを通じて、女の子に教育や職業スキルを身につけさせるなど、女の子の能力強化も行っている。保護者・家族とともに活動を行う場合と同様、継続的なピアサポートが、個人がCEFMに立ち向かう際の後押しになる。最後に、この側面では、ジェンダーの視点に立ち、子どもに配慮したサービスを提供するために、サービス提供者とも連携している。特に、SRHRそして暴力からの保護について教育することが、女の子とユース女性が自らの権利を主張する力を身に着ける鍵となる。

個人や地方レベルでの変化は、**法律や政策の枠組み、予算に変化**をもたらす取り組みによって支えられている。この活動では主に、さまざまなレベルの政府が、たとえば、結婚の最低年齢を定める法律を採択するなど、CEFMを阻止するための包括的な法的・政策的枠組みを確実に実施・施行することが焦点となる。また、さまざまなレベルの政府関係者が、関連するすべての省庁と部門にCEFMに取り組むための具体的な予算を確保するよう、働きかけとアドボカシー活動を行うことも含まれる。法律や政策の施行もきわめて重要であるため、私たちは司法やその他の法執行機関を協働して、確実にジェンダー平等で権利に基づいた視点で職務を遂行するよう促している。この活動の多くは、CSOsとの強力な提携を必要とするものであり、私たちは、女の子、彼女たちの声、視点、行動を確実に取り込むようにしている。

CEFMを説明する際にさまざまな用語が使われることが多いが、「児童婚」が依然として最も一般的である。非公式な婚姻は、結婚という法的地位はないもののCEFMに等しいと広く認識されて現在増加傾向にあり、プラン・インターナショナルはこの問題に世界レベルで取り組む必要があると考えている。本報告書ではCEFMのさまざまな側面と次元を取り上げていくが、この有害な慣行を行う引き金になることが多い思春期の妊娠など、複雑な状況の中で行われる児童婚、早すぎる結婚、強制結婚を意味するものとして、この語を使用する。



## ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの育成と促進

不平等や排除にはさまざまな形があり、それは場所によって異なる。しかし、プラン・インターナショナルの活動場所ではどこでも、ジェンダーに基づく差別、ジェンダーステレオタイプ化、女性と男性、女の子と男の子、その他のジェンダーの間で不平等な力の分配が何らかの形で存在する。

ジェンダー平等が、女の子と男の子、女性と男性、そして社会全体にとって有益であることは、確固たる証拠によって証明されている。ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを導入することで、私たちはジェンダー不平等と差別の根本原因に取り組み、女の子とユース女性、そして広く社会にとって前向きな変化と持続可能な成果をもたらすことが可能になる。ジェンダー平等の担い手となる男の子とユース男性と積極的に連携することが、このアプローチには不可欠である。

これは、プラン・インターナショナルが2017年にジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを導入した理由であり、私たちのすべてのプログラムが「症状」に対処するだけでなく、ジェンダー不平等の根本原因、特に不平等なジェンダーの力関係、差別的な社会規範と制度、構造、政策、慣行に明確に取り組むことを意味する。社会における女の子のポジション（地位）と価値を高めながら、女の子の日々のコンディション（状況）を改善する。私たちは、以下のような形で、このアプローチを導入している：

- ・ 出生から成人までの人生を通じて、ジェンダー規範が子どもにどんな影響を与えるかを理解し、それに取り組む。

- ・ 女の子とユース女性が知識、自信、技能、リソースへのアクセスとコントロール（管理・所有）する力を高めるとともに、自分自身に関わる決定を主体的に行う力（エージェンシー）を強化する。
- ・ ポジティブな男性性を受け入れジェンダー平等を促進することが、男の子、ユース男性、男性にとっても有意義な成果を生むよう、彼らと連携し支援する。
- ・ 画一的な解決策ではうまくいかないことを認識する。その代わりに、女の子、男の子、ユース女性、そしてユース男性のニーズと関心を特定し、それに対応する際には、彼らの持つあらゆる多様性を考慮する必要がある。
- ・ 女の子とユース女性のコンディション（日々のニーズ）を改善すると同時に、社会における彼女たちのポジション（価値と地位）を向上させるという2本立ての戦略をとる。
- ・ すべての関係者が協力して、ジェンダー平等に向けて歩む子どもとユースを支援できるような環境（政策を含む）を醸成することにより、持続可能な成果を確保する<sup>43</sup>。

ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、実施するすべての段階を通じて、CEFMと思春期の妊娠を撲滅するためのプランの取り組みに完全に組み込まれている。

# アジア太平洋地域におけるCEFM撲滅に向けた総合的活動とアプローチの実施：今こそ**行動を!**

プラン・インターナショナルのアジア太平洋地域におけるCEFM撲滅活動は、プラン・インターナショナルAPACの主導で10年以上続けられている。この活動は、「グローバル18+」の枠組みと関連する「セオリー・オブ・チェンジ」を参考に、それに基づいて行われているが、アジア太平洋地域では、変化をもたらすために包括的なプログラムやアドボカシー活動とプロセスを活かした取り組みが行われているのが特徴的だ。この活動は、私たちが過去10年以上にわたって培ってきた知識と専門性が大いに活かされている。

当初、アジア太平洋地域におけるCEFMに関する私たちの活動は、児童婚の防止と子ども・家族・コミュニティへの悪影響の軽減を目的として2010年に設立された多国間協議会であるACMIの後援を受けてスタートした。

ACMIの主な目的は、プラン・インターナショナルAPACの活動の指針となり、取り組みの基となるエビデンスを集めることであり、2012～2014年にプラン・インターナショナルAPACはICRWとの提携の下、女の子、男の子、保護者、コミュニティ指導者、政府関係者がCEFMをどう受け止めているかについてバングラデシュ、インド、ネパールの3カ国で認識調査を行った。この調査によって、社会的価値観と規範、特に家庭における女性の役割に対する伝統的な考え方が、児童婚の主な要因であることが明確になり、また貧困と教育、CEFMの間に強い関連性があることが浮き彫りになった。また報告書は、児童婚の悪影響について啓発を強化し、法律の実施と執行を改善する必要があることも明らかにした。



## 今こそ行動を！

2015年、私たちはこれらの調査結果をもとに、今度はCoram Internationalとの提携のもと、バングラデシュ、インドネシア、パキスタンの状況について詳細な報告書を発表した。この調査では、児童婚に対する社会の見方を理解することに重点を置き、そうした見方に影響を与えている主な制度と環境的要因を明らかにした。またこの調査でも、児童婚と有害なジェンダーステレオタイプとの間に明確な関連性があることが明らかになった。また、女の子がどの程度教育を受けられているか、あるいは受けられていないことが、結婚する年齢と深い関係があり、児童婚と経済的困窮との関連性が確認され、貧困と機会不足に対処する解決策の必要性が浮き彫りになった。ACMIは主にアジア太平洋地域の状況に重点を置いていたが、その調査結果はプラン・インターナショナルのグローバルな活動にも通じるものであり、それに基づいて「グローバル18+」の枠組みと「セオリ・オブ・チェンジ」がつけられた。

今日、プラン・インターナショナルAPACのCEFMに関する活動は、「今こそ行動を！」と呼ばれる地域的取り組みへと発展している。これは、CEFMに焦点を当ててそれまで10年間に行われた取り組みを基盤としてスタートしたものだ。エビデンスに基づく取り組み、提携、有害なジェンダーステレオタイプや文化的規範に挑み根本原因に取り組むという確固たる姿勢を維持しつつ、アドボカシー活動とユース主導の活動を特に重視している。CEFM撲滅に向けた取り組みの効果は、「今こそ行動を！」が焦点を当てている主な4つの分野、教育の継続、ユースの経済力強化、暴力からの保護、SRHの権利に関する教育と関連サービスの強化、を組み込んだ戦略がまとめられた時に最も高まることを、私たちの調査とエビデンスは示している。

## 先進的で多様な調査ポートフォリオの開発

プラン・インターナショナルAPACは、アジア太平洋地域における多様な活動課題を過去10年間にまとめた。この調査はCEFMの根本原因とそれがもたらすものを理解し、新たな形で行われているGBVを把握することを目的としている。また、高い可能性が認められた方法とイノベーション例をまとめ、それを基に自らのタイムリーで、適切で、効果的でジェンダー・トランスフォーマティブな対応を実現できるようになる。主な地域調査報告書と調査は以下の通り：

- 2013 *Asia Child Marriage Initiative: Summary of Research in Bangladesh, India and Nepal* (with the International Center for Research on Women)
- 2015 *Getting the Evidence: Asia Child Marriage Initiative* (with Coram International)
- 2015 *Unrecognised Sexual Abuse and Exploitation of Children in Child, Early and Forced Marriage* (with ECPAT)
- 2018 *Their Time is Now: Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia*
- 2019 *Time to Act! Accelerating Efforts to Eliminate Child, Early, and Forced Marriage in Asia*
- 2019 *Comparative Analysis of Approaches to Youth Activism and Engagement to Eliminate Child, Early and Forced Marriage in Asia*
- 2021 *Let's Go Digital!: Using digital technology to end child, early and forced marriage and reduce adolescent pregnancy in Asia-Pacific*

# グローバル18+ セオリー・オブ・チェンジ

目的: 私たちは、子どもの権利と女の子の平等を推進し公正な世界を目指す

すべての子ども、特に女の子と疎外された人に以下のことを保障する:

CEFMのない生活を送る権利を享受する + 差別や暴力のない、より安全で強靱な環境で成長できる + 能力を高め、より効果的な発言力を持つ

**社会的・政策の規範、態度、行動、人間関係**

- 女の子は、結婚するかどうか、またその相手や時期を選択する力を持つ
- 男の子と男性がジェンダーステレオタイプに挑み、CEFMとの闘いを主導する
- 家族(保護者を含む)とコミュニティは、CEFMを広げるジェンダー規範と慣行を変革する
- 宗教的・伝統的指導者、活動の担い手、ロールモデルはCEFMに積極的に反対する
- CSOsは、CEFM撲滅のための革新的なアプローチとプログラムをスタートさせ、その規模を拡大する
- 自治体職員と技術者はジェンダーステレオタイプに挑み、CEFMとの闘いを主導する

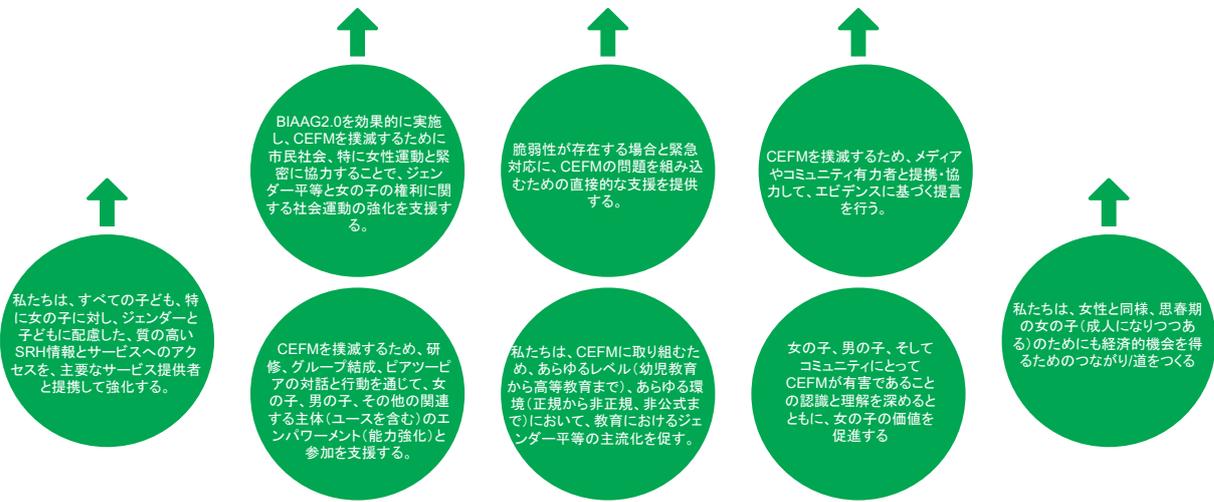
**政策枠組みと予算**

- さまざまなレベルの政府が、CEFMを阻止するための包括的な法的・政策的枠組みを実施・施行する(慣習法が優先される)
- さまざまなレベルの行政機関が、すべての関係省庁においてCEFMに取り組むための具体的な予算を組む
- 司法は法的・政策的枠組みを実施・強化する
- CSOsは、政策提言を行うために、提携、体制、ネットワークを強化する(1,2,3)
- 女の子は、すべてのセクターで自分たちの声を高めることで、法的・政策的枠組みや予算編成(追跡調査も含む)に影響を与える

**社会的・経済的リソースとセーフティネット**

- 親(父親と母親)および関連する家族(男女両方)が、女の子の結婚に代わる選択肢のためにリソースを配分し、意思決定プロセスへの男女平等の参加に努め、そのためのピアサポートを持つ
- 民間/公共セクター/NGOは、女性と女の子が経済的機会(雇用、信用取引、貯蓄など)にアクセスできるようにする
- コミュニティ・ボランティアとリーダーが、心理的/法的/CSE/スキル/情報に関する支援と女の子の能力強化を行う
- 女の子(既婚・未婚を問わず)が技能(CSE、教育、職業訓練など)を持ち、活用し、CEFMに立ち向かうための継続的なピアサポートを受ける
- サービス提供者は、ジェンダーや子どもに配慮した質の高いサービス(SRHR、教育、保護等)を提供する

## 永続的な影響力を得るための3つの道



## プログラム戦略



## 組織としての戦略



## COVID-19 パンデミックへの対応

アジア太平洋地域でCEFMの減少に向けて進展が見られた意味は大きいですが、地域の人々や政府がCOVID-19パンデミックの影響に翻弄され、成果が失われたり、大きく後退する恐れがある。現在までに、188を超える国々が国内での移動制限措置を導入しており、その結果、15億人以上の子どもとユースがロックダウン状態に陥っている<sup>44</sup>。国家経済が減速し、国境が閉鎖され政府はロックダウン令を発令し、公共サービスが縮小する中、あらゆる階層の人々、特に社会的・経済的に困難な状況下にあるコミュニティの人びとは一層厳しい貧困と孤立、排除にさらされている。

また、パンデミックの影響が女の子とユース女性に偏って生じているというエビデンスが次々と現れている<sup>45</sup>。こうした状況の中で、特に、教育の中断、経済的苦難、早すぎる妊娠、GBVの増加などに対処する苦肉の策としてCEFMを使おうとする家族がいるため、地域に暮らす何百万人もの女の子がCEFMのリスクにさらされている<sup>46</sup>。こうしたリスクに対抗するには、前向きな策でリスクを軽減する方法を考え出し、それを大規模に展開することが不可欠である。

こうしたリスク、そして前向きな戦略を大規模に展開する必要性を認識したプラン・インターナショナルAPACが作り出したのが、「今こそ行動を！アジア太平洋におけるCOVID-19と女の子」戦略的枠組みである。この枠組みは、SDGsに沿って、2030年のCEFMの最終的な撲滅に向けてアジア太平洋地域におけるCEFMを今後5年間で50%削減するという地域の志の表れであり、同時に、パンデミックがCEFMの終息にもたらすと思われるマイナスの影響を概説し、これらの影響を最小限に抑えるための取り組みを提案している。

この枠組みは、特に次のことを想定している：

- ・教育が中断される期間が長くなると、多くの女の子が復学できなくなる可能性が高い；
- ・女の子がディーセントな（働きがいのある人間らしい）仕事に就いて経済的自立を得る機会が減少する；
- ・孤立とソーシャル・ディスタンスが引き金となって家庭内暴力とGBVが増加する；
- ・保健・SRHサービスを含むサービスが利用できなくなり、思春期の望まない妊娠が増加する。

「このパンデミックの最中に結婚した2人の女の子を知っています。教育は私たちに明るい未来へのチャンスを与えてくれると信じています。でも、今のパンデミックによる経済的苦境をなんとかしのぐと、学ぶ機会をあきらめて結婚する女の子が大勢います」。

H.、ベトナム

こうしたCEFMへの影響を軽減するために、たとえば以下のような対応が考えられる：

- ・脆弱な世帯、特に女性が世帯主である世帯への現金支援を提言する；
- ・民間セクターと協力し、特にユースや女性のために、パンデミック期間中の柔軟な勤務体制を確保する；
- ・将来の雇用機会を見きわめ、必要であればライフスキルに関する教育課程を調整するために、迅速な「市場評価」を実施する。

また、この戦略では避妊具、妊娠検査薬、月経衛生用品、衛生キットなど、性・生殖・家族計画に不可欠な用品の提供も強調している。

戦略はまた、こうも提案する。

- ・パンデミックの悪影響を軽減するために、オンラインツールとデジタル技術を活用する。たとえば、子どもとユースがリモートで教育を継続できるように、教師の能力開発と関連技術の使用に関するスキルアップを行う。
- ・経済力強化プロジェクトを対象とした技能開発と学習をデジタル方式に移行する。
- ・より広範な保護プログラムの一環として、ヘルプライン、ソーシャルメディアグループ、その他のオンライン・プラットフォームを通じて心理的サポートをオンラインで実施する。

## 今こそ行動を！ アジア太平洋におけるCOVID-19と女の子： 戦略的枠組み

ビジョン	アジアで成人への移行期にある女の子が生きる社会では、その権利が保護され、成長とウェルビーイングへの投資が行われ、彼女たち自身が決定することができ、ジェンダー平等が育まれる			
影響	COVID-19にかかわらず、2030年までにCEFMが撲滅され、思春期の妊娠が減少する			
長期的成果 ↑	女の子は教育状況に応じて、人生の多様な選択肢を持つことができる	経済不況に対応する苦肉の策としての女の子がCEFMをすることがなくなる	女の子は、安全な家庭と社会の中で、尊厳と尊敬に満ちた生活を送る	女の子は、自分の身体と人生に関する最終的な意思決定を担う
中期的成果 ↑	女の子が中等教育を修了し、結婚するかどうか、いつ結婚するかを決定する時期が遅くなり、彼女たち自身の選択が反映される	女の子が経済的に自立し、誰かに支えられる以外の機会と選択肢が生まれる	女の子はGBVに苦しめられることもなくなり、能力を高めて、安全で保護された自律した生活を送る	女の子は、結婚するかどうか、いつ、誰と結婚するかを自ら決め、家族計画や出産について最終的な決定権を持つ
テーマ別活動アプローチと柱 ↑	<b>教育の継続</b> 危機下では自宅学習がリモートで行われ、その後女の子が完全に復学するように政策とキャンペーンで後押しを行う	<b>経済力強化</b> 職業訓練を実施し、女の子がディーセントな仕事に就くための起業スキルを身につけ、仕事やその他生計の機会を見つけるためのリソースにつなげる	<b>暴力からの保護</b> ジェンダーに配慮した報告メカニズムや、GBVに対する保護措置を提供する必須サービスを通じて、ケアと保護を継続的に受けられるようにする	<b>SRHR</b> 思春期の妊娠を減らし、CEFMによるリスクを最小化するために社会の保護システムとして、SRHと生殖に関する権利を実現する
包括的戦略 ↑	CEFMを撲滅するには、十分なリソースをかけて長期的に取り組む必要がある。CEFMの撲滅に向けた歩みがCOVID-19によって今後数カ月～数年の間に後退することがあれば、その歩みは何十年も遅れ、妨害される恐れがある。プラン・インターナショナルは、今後2年間、継続的な教育、経済力強化、暴力からの保護、ジェンダーに配慮したSRHサービスへのアクセスに特に重点を置き、そのプログラムとアドボカシー活動に分野を超えた全体的アプローチで取り組むため、投資を強化する。			
問題点	COVID-19緊急事態下で、家族が教育の中断、経済的苦境、早すぎる妊娠、GBVの増加をしのぐ苦肉の策としてCEFMを用いることで、アジア全域で数百万人の女の子がCEFMのリスクにさらされることになる。このため、前向きな策でリスクを軽減する戦略が大規模に展開されない限り、CEFMの防止、減少、撲滅に向けた10年の歩みは後退する恐れがある。			



**今こそ行動を！ COVID-19の枠組み**は、アジアにおけるCEFMを今後5年間で50%減少させ、(SDGsに沿って)2030年までに撲滅するという地域の志の表れである。この枠組みは、COVID-19危機がCEFMに影響をもたらすと考えられる主な分野について概説し、その害と逆行的な影響を最小化するために複合的な取り組みを行う上で基盤となるビジョンを示している。

<p>支援活動</p>	<p><b>1. 教育の継続</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>それぞれの状況に適した遠隔学習の方法について女の子と男の子の意見を聞き、彼らが権力者に提言を行う際に支援する</li> <li>関連技術の使用に関する教師の能力開発とスキルアップに投資する</li> <li>教育当局と連携し、受験を控えた女の子を重点的に支援する</li> <li>難民、国内避難民、現在不就学の女性世帯など、脆弱な世帯への無条件現金支給を支援する</li> <li>ジェンダー・トランスフォーマティブ「学校へ戻る」キャンペーンの実施</li> </ol>	<p><b>2. 経済力強化</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>雇用機会を見きわめるため、迅速な市場評価を実施する</li> <li>ライフスキルの教育課程の調整</li> <li>社会の中での物理的接触を避けるため、スキル向上と学習をデジタルに移行する</li> <li>民間セクターとの提携により、パンデミックの間、特にユースと女性のために柔軟な勤務体制を確保する</li> </ol>	<p><b>3. 暴力からの保護</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルプライン、ソーシャルメディアグループ、オンライン・プラットフォームを通じて、心理的サポートをオンラインで提供する</li> <li>健康、保護、幸福の向上のため、脆弱な家族、特に女性の世帯主世帯への現金給付を求めてロビー活動を行う</li> <li>Child Protection Servicesと協力して子どもとジェンダーに配慮した通報の仕組みと紹介経路を強化し、最も脆弱な子どものために、ジェンダーに配慮したタイムリーで効果的なサービスと援助を提供できるようにする</li> <li>生殖に関する健康、レイプ被害者の臨床的ケア、精神衛生、保健および心理社会的支援を含む、GBV経験者のためのサービスの質とアクセスを維持するために、保健および保護セクターと引き続き協力する</li> </ol>	<p><b>4. ジェンダーに配慮したSRHRサービス</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>サービス提供メカニズムおよび情報源の選択肢を示す</li> <li>避妊具、妊娠検査薬、月経衛生用品、衛生キットなど、不可欠な用品を提供する</li> <li>移動診療所、薬局、地元の商店、電話によるメッセージ、インターネットを利用したメッセージ、IEC資料などで、サービスを受けられるようにする</li> <li>GBV経験者のためのサービスの質とアクセスを維持するため、保健・保護セクターと引き続き協力する</li> </ol>
<p>支援戦略</p>	<p>CEFMの複数の根本原因に取り組み、各テーマの柱となる取り組みで期待される効果を一層強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的でジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みは、複数の根本原因に働きかけ、ジェンダー変革をもたらすための再現可能で効果的なモデルを創造するジェンダー・トランスフォーマティブなすべてのプログラムとアドボカシーのテーマ・分野に基づいて行う</li> <li>女の子主導のユース活動では、女の子とユースが自らの視点と選択に基づいた行動と解決策を見つけて、追求できるように支援する</li> <li>エビデンスに基づく方向性では、調査で得た情報に基づき、さらなる展開について高い可能性と/あるいは成功が証明された活動を行う</li> <li>ピアラーニングと交流を通じて、アジア全域で拡大・展開可能な活動案を設計・実施して、<b>拡張性と展開力</b>を確保する</li> </ul>			
<p>前提</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期間の教育中断により、多くの女の子が復学しなくなる</li> <li>経済的苦難は、女の子がディーセントな仕事に就いて経済的自立を得る機会を奪う</li> <li>ソーシャルディスタンス体制が繰り返されると、GBVが増加する</li> <li>女の子とユース女性が必要な商品とサービスを利用しにくくなるため、思春期の望まない妊娠が増加する</li> <li>教育、経済的機会、保護、生殖の管理は、CEFMを減少させる上で効果的な取り組みであることがこれまでに証明されているため、COVID-19によってそれらが機能しなくなり正措置が取られない場合は、将来的にCEFMが増加する</li> </ul>			

「児童婚は社会問題であることを親や世間の人に知ってほしいです。子どもの人生に悪影響を及ぼします。児童婚に加担するのはやめ、女の子が学校を卒業して進学し、夢に向かって進んでいかれるよう支援を始める必要があります。私は政府や関連団体に対し、CEFMを撲滅するための取り組みに投資するよう声を上げていきたいです」。

女性ユースアクティビスト、タイ(16歳)

## 戦略的優先順位付け：CEFMダイヤモンド

プラン・インターナショナルAPACは、資金と人的資源が限られている世界で活動していることを認識し、CEFMに関する取り組みのどれが最も緊急性が高いか、特に、資源をどう活用すれば最大の効果が得られるかを常に評価している。私たちが戦略上の優先順位を決める際に鍵となるのが、「CEFMダイヤモンド」という優先順位設定ツールを用いた方法で、アジア太平洋地域におけるCEFMと思春期妊娠の撲滅に向けた私たちの主な戦略を視覚的に明確に示すものだ。これは、プラン・インターナショナルAPACの主なプログラム・アドボカシー戦略を優先度の高い順に割り出すと同時に、すべてのアプローチが相互依存的で、より広範で全体的な戦略の一部として等しく重要であることを明確にしながら、地域の状況に適應できるようにする。これは、プラン・インターナショナルAPACが活動の基盤とする4つの活動、すなわち、協働、エビデンスに基づく取り組み、拡張性と展開力、そして社会規範、態度、行動に取り組む重要性-を重視したものであり、同時にこのすべての活動をジェンダー・トランスフォーメティブ・アプローチでどのように行うべきかも示している。現行の形では、プラン・インターナショナルAPACの5つの最優先事項をダイヤモンドで示している。

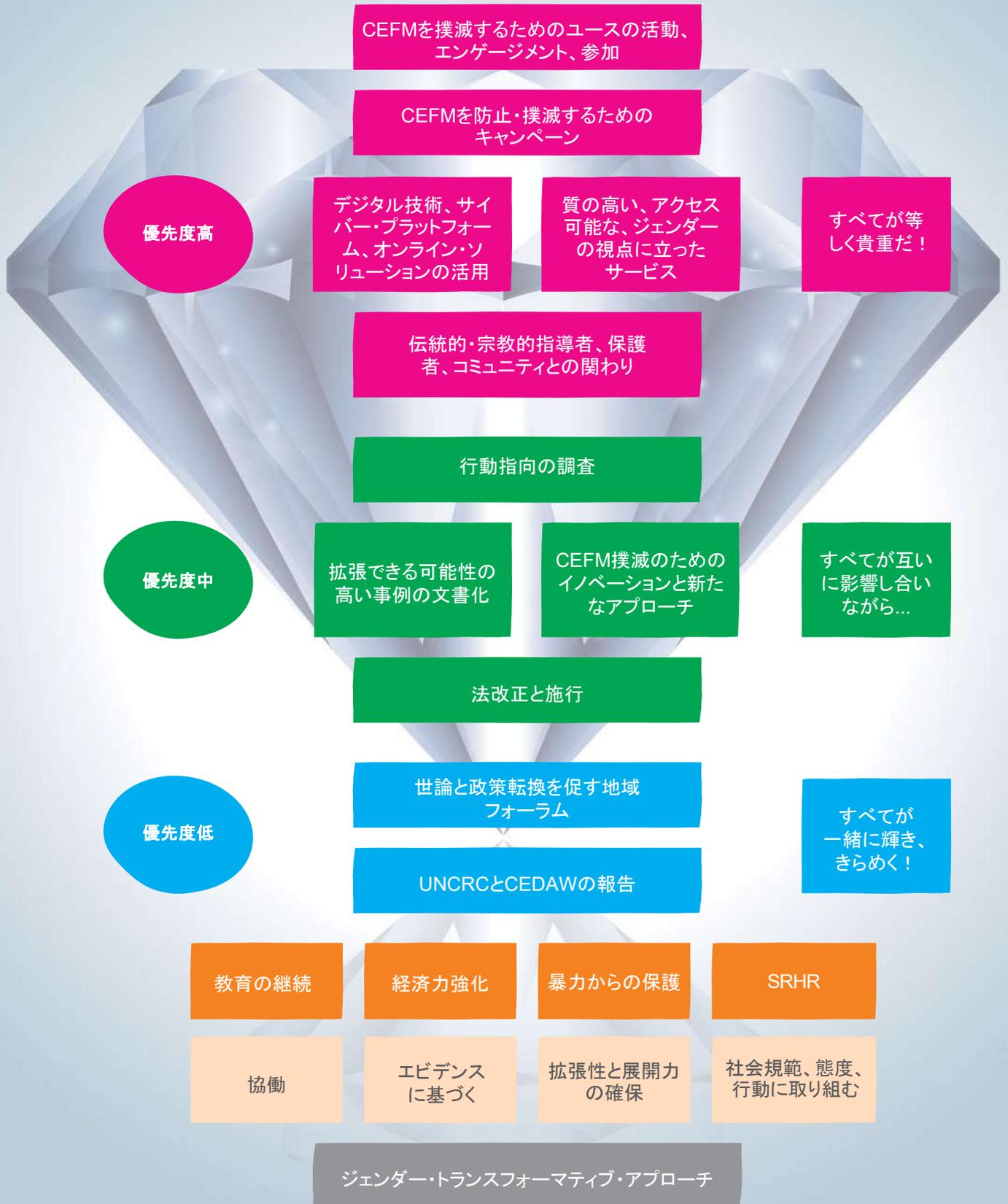
1. CEFMを撲滅するためのユースの活動、エンゲージメント、参加
2. CEFMを防止・撲滅のためのキャンペーン
3. デジタル技術、サイバー・プラットフォーム、オンライン・ソリューションの活用
4. 質の高い、アクセス可能な、ジェンダーの視点に立ったサービス
5. 伝統的・宗教的指導者、親、コミュニティとの関わり

CEFMダイヤモンドは、主に組織内部で優先順位付けを行うツールだが、地域に特化した活動や外部にも対応できるものとして想定されており、急速に変化する現実に対応して優先順位を見直すこともできる。このことは、2020年版のダイヤモンドで、デジタル技術、サイバー・プラットフォーム、オンライン・ソリューションの活用が、中程度の優先事項から最優先事項へと格上げされたことに顕著に表れている。優先順位が見直されたのは、COVID-19パンデミック下でサービスその他支援システムへのアクセスが物理的に制限された人々のために、代替手段とオンライン・ソリューションを見つける必要性が生まれたことに対応したものだ。また、最新のCEFMダイヤモンドでは、ジェンダーの視点に立ったサービスがより重視されているが、これはプラン・インターナショナルが対象集団とコミュニティに特化した活動を行う場合に最も効果が上がることを示すエビデンスが増えていることを示すものだ。

# CEFMダイヤモンド

アジア太平洋地域におけるCEFMと思春期の妊娠の撲滅に向けた  
プログラムとアドボカシー戦略

優先レベル



今こそ行動を！

## 今こそ行動を！ を現実に

アジア太平洋地域におけるCEFM撲滅に向けた活動において、プラン・インターナショナルAPACは、複数のプログラムアプローチと戦略を展開している。これらは常に、綿密な状況分析と関係者との緊密な協議を経て、個々の国と状況に合わせて調整されるが、全体を通してジェンダー平等の主流化が行われていることが、すべての活動に不可欠な要素になっている。最初のプロジェクト構想から始まり、協議、実施、評価に至るまで、私たちのプログラムはすべて**ジェンダー・トランスフォーマティブ**で、ジェンダー不平等への取り組みに大きく貢献するように設計されている。

プラン・インターナショナルAPACのアジア太平洋地域における活動では、**CEFM撲滅のためのユースの活動、エンゲージメント、参加**に大きな重点が置かれている。女の子とユース女性自身と関わりながら、彼女たちのスキルを育て、高めることで、彼女たちが自身の生活と将来について決定する力を身につけることが活動の中心である。また、より広くユース集団と関わり、ユース・フォーラム、スポーツイベント、その他の活動を開催して、教育、啓発、議論の活性化を図り、持続可能なユース主導の変化を促進するための同世代のグループや支援ネットワークを作っている。

「法の執行は、地球上のすべての社会に生きる一人ひとりの責任です...私たちの能力を高め、CEFMへの意識を高めるためには、この部屋にいるすべての人からの支援が必要です」。

女性ユース・アクティビスト、  
カンボジア(18歳)



さらに、子ども、ユース、親、意思決定者、指導者が集まってジェンダー平等をめぐる問題について話し合う世代間対話もすすめている。これは特に、ユースは年上の人々や彼らの意見に従うべきだと思われることが多いアジア太平洋の多くの国々では、ユース・アクティビストが声を上げることのできる場として大きな意味を持つ。

また、**CEFMを防止・撲滅**し、ジェンダー平等を促進**するため**、オン・オフラインを問わず、地域、国、国際的な**キャンペーン**に女の子とユースを積極的に参加させている。女の子の声は、プランがグローバルで展開する「**Girls Get Equal**」キャンペーンで中心的な役割を果たしており、女の子を傷つけ過小評価する人々に彼女たち自身が立ち向かい、権利・平等な機会・尊敬を求めて声を上げる姿とその声が強いメッセージとなって広がっている。一方で、プラン・インターナショナルAPACは、草の根レベルで人々を結集させる、キャンペーン能力を高める、技術的支援を提供する、助成金その他の財政的支援を提供するといった形で、小規模なキャンペーン活動に対する支援も行っている。

## CEFM撲滅を加速させる キャンペーンの活性化

アジア太平洋地域では、プラン・インターナショナルAPACの統括下でさまざまな活気あるキャンペーンが展開されている。その中には、全国を対象としたものもあれば、特定のコミュニティや特定の問題に変化をもたらすための草の根的なものもある。また、オンライン、オフライン、さらに両方のアプローチを組み合わせた形で行われているものもある。しかし、すべてのキャンペーンで要となるのは、私たちが何を達成しようとしているのか、誰を対象にしているのか、どんな方法でそれを行うのか、そしてもちろん、どのように確実に子どもとユースの声を増幅させるのか、ということをしっかり理解していることである。

ネパールでは、CEFMその他の有害な慣行に関する問題について人びとの意識を喚起するため、現地で戸別訪問、ステッカー・キャンペーン、請願、路上公演、集会、キャンドル集会などの草の根のキャンペーン活動を行った。タイで

は、CEFMに反対するキャンペーンとして、ワークショップ、ラジオ放送、ソーシャルメディア・メッセージなどの啓発活動を行い、助成金を提供し、「Teen Power for Better Life」プロジェクトでは、女の子主体の活動とキャンペーンに重点を置いている。一方、バングラデシュでは、女の子の中途退学を防ぎ、継続的な教育の重要性を訴える活動の一環として、1か月間オンラインで啓発キャンペーンを実施。約200人の親が参加して女の子の継続的な教育などの問題について活発な議論を交わした。



## 今こそ行動を！

一方、男の子と男性もジェンダー不平等を克服する上で不可欠な役割を担っており、CEFMの有害な影響について彼らに対する教育を積極的に行っている。その最も効果的な方法のひとつが、「Champion Fathers」(コミュニティで模範となって啓発し、他の親のサポート役を務める男性)の育成だ。CEFMを防止し、撲滅するためのキャンペーンを展開することで、男の子と男性が女性と女の子を劣った存在とみなして母親や世話役を担わせる有害なステレオタイプに挑戦する重要な役割を担うことになる。

CEFMを撲滅し、ジェンダー不平等をなくすための取り組みに、より広くコミュニティを参加させることも、重要な戦略的アプローチであり、特に、**伝統的・宗教的指導者、親、コミュニティを巻き込む**ことに注力している。コミュニティの人々にCEFMについて教え、女性と女の子に対する肯定的な態度を促すことのできる影響力と尊敬を集める人物を把握し、こうした人物と協働して、CEFMその他のリスクにさらされた子どもを監視し対応するための「コミュニティを基盤とした子ども保護メカニズム」を設立することができた。また、婚姻登録担当者、仲人、挙式に関わる者、出生登録担当者など、結婚の手続きに直接関わる人々とも緊密に連携し、彼らがCEFMの疑いがあるケースに介入し、防止するための知識と手段を身につけられるようにしている。

プラン・インターナショナルAPACは、**法改正と執行**の強化を目的としたさまざまな取り組みを行うという形で、草の根レベルの活動を支援している。法的基準の改善(特にCEFMを明確に禁止する法律)の提言や、CEFMの事例に対応・防止するために自治体職員、法執行官、司法関係者の研修などを通じて国家機関を強化することも、その1つだ。また、保健医療、教育、子どもの保護サービスなどの主なサービスへの十分な資金の確保など、省庁の壁を越えてCEFMに取り組むための具体的な予算を確保するため、政府と緊密に協力している。

もう一つの重要なアプローチは、プラン・インターナショナルAPACの全プログラムで**ジェンダーの視点に立った、利用しやすく質の高いサービス**支援を行うことだ。そのためには、プランが活動する個々の国と状況においてジェンダーが担う役割と不平等の実状を深く理解する必要があり、現地のパートナーとの緊密な協力や綿密な調査を通じて、その理解を深めている。こうした背景を理解することにより、私たちは、女の子、男の子、そしてユースの特定のニーズに確実に対応する内容、サービス、提供方法でプログラムを設計することができ、さまざまな形で交差する差別がもたらす可能性のある他の脆弱性にも配慮することができる。こうした深い背景理解は、私たちがジェンダー・トランスフォーマティブ戦略を開発する上で役立ち、すべてのプログラムとアドボカシー活動を確実にジェンダー平等に大きく貢献するものにするというプラン・インターナショナルのさらに広範な組織目

「児童婚を撲滅するために、指導者・保護者といったコミュニティの全員を巻き込み、彼らが前向きな姿勢で協力し合うことが成功を導くと感じています」。

女性ユース・アクティビスト、  
インドネシア(19歳)

標の基盤となっている。

CEFMを撲滅するための最も効果的な活動方法をさらに理解するため、プラン・インターナショナルAPACは、綿密な**行動指向の調査**アジェンダを策定した。地域調査の第一段階としてまとめられたのが、報告書『*Their Time is Now: Eliminating CEFM in Asia*』だ<sup>47</sup>。この報告書の主な目的は2つあった。(1)アジアでCEFMがどのように行われているかをより理解すること、(2)アジアにおけるCEFMを防止し対応するために活動と戦略の見直しを行い、前向きな慣行を把握することである。続いて第2段階の調査として、報告書『*Time to act! Accelerating Efforts to Eliminate CEFM in Asia - Emerging Effective Interventions and Strategies*』を発表した。この報告書では、政府その他の関係者が大規模に実施した場合に、CEFMを撲滅できる可能性が最も高い行動に焦点を当てている<sup>48</sup>。この作業の一環として行ってきたデジタル技術やオンライン・プラットフォームの利用など、CEFMを撲滅するための新しい革新的なアプローチのマッピングについては、本書の最初の部分で述べている。

## 伝統的・宗教的指導者との関わり

宗教的、伝統的、そしてコミュニティの指導者をアジア太平洋地域におけるCEFMを撲滅するための私たちの取り組みに参加させる必要性がますます高まっている。というのも、この地域の多くの国々では、こうした指導者はコミュニティで大きな影響力を持っており、その結果、CEFMの事例を防ぐために直接的な行動をとるというだけでなく、人々の考え方・姿勢を変える可能性があるからである。

2020年12月と2021年1月、プラン・インターナショナルAPACは、伝統的・宗教的指導者が参加している活動に関する地域マッピングを実施した。その結果、プラン・インターナショナルは、村長、部族長、村議会、呪術医、信仰治療師、村の長老など、さまざまな伝統的指導者・コミュニティ指導者に加え、さまざまな宗教指導者とも交流していることがわかった。多くの場合、私たちが関わる宗教指導者は伝統的指導者でもあった。

こうした交流は、臨時の会合やコミュニティでの話し合いといった非公式なものから、コミュニティを基盤とした子ども保護メカニズムの設置や村の規範の策定といった、より公式なものまで多岐にわたるが、多くの場合、女の子とユースは、宗教的指導者、伝統的指導者、コミュニティ指導者によって積極的な参加を阻まれていることが多い。そのためプランでは、女の子とユースのエンパワーメント(能力強化)に関する支援を重視し、世代間対話の後押しに取り組んでいる。

プラン・インターナショナルAPACでは、**CEFM撲滅のためのイノベーションと新しいアプローチ**を常に模索している。その一つが、**デジタル技術、サイバープラットフォーム、オンライン・ソリューション**のマッピング活用である。これは場所やプロジェクトの段階によってさまざまな形で行われている。たとえばフィリピンでは、遠隔地に住む女の子とユース女性が直面している主な課題の理解を目的とした参加型調査プロジェクトの一環として、デジタル・データ収集方法を試行している。バングラデシュでは、新郎新婦の年齢をリアルタイムで確認し、出生と死亡をデジタルで登録できるモバイルアプリを開発し、試験運用した。また、CEFMを防止・減少させるプログラムの支援に活用できる、さまざまなツールと技術について一部マッピングを行った。本報告書の第一部を参照。さらに、行動指向の提言も掲載しており、CEFM撲滅に向けた取り組みを加速させるためにデジタル技術の活用に向けた投資拡大の必要性についても述べている。

「私の村では、多くの男の子と女の子がネットで知り合い、バーチャルで恋に落ちます。そして、外で出会い、妊娠し、14歳か15歳で学校を中途退学します。そういうことが今ではとても一般的になっています。この問題を防ぐために、ソーシャルメディア上で児童婚の撲滅を呼びかけるなど、何かすべきだと思います」。

M.、プラン・インターナショナル・ベトナムユース・アドバイザリー委員会メンバー(21歳)

## イノベーションと新技術のマッピング

デジタルツールとオンライン・プラットフォームは、CEFM撲滅活動を支援する上で重要な役割を果たす可能性がある。プラン・インターナショナルは、このようなソリューションを活用する方法をいくつかマッピングし、本報告書の第一部で詳述している。それらには：

- ・たとえば、結婚前に新郎新婦の年齢をリアルタイムでオンライン照合するなどして、CEFMを防止・減少させる；
- ・人道的な環境など、CEFMのリスクが高い場合だけでなく、一般的にコミュニティ内でも啓発を行うことができる；
- ・情報、特にサービスや支援メカニズムに関する情報、国や州/県レベルの新しい規制や公的政策に関する情報を共有する；

- ・グループメッセージ・チャットやオンライン・チャンネルを利用するなど、コミュニケーションと連携を向上する。このアプローチは、コミュニティを基盤とする子ども保護メカニズムに特に有効である；
- ・調査の実施にあたり、特に大規模なデータを収集・処理できるようにする。

すでに使用されているデジタルツールとオンライン・プラットフォームは、テキストメッセージ、メッセージングアプリ、WhatsApp、Telegram、Viberなどのメッセージチャンネル、Facebook、Instagram、YouTubeなどのソーシャルメディア・プラットフォームである。

新しい、あるいは革新的なアプローチを試行する際には必ず、**規模を拡張できる可能性の高い方法の実証**に十分な時間とリソースを確保する。これには、政治的な意志と機会を評価する、しっかりとした連携と提携関係を築く、拡張を決定するための基盤となる明確なエビデンスを確保する、参

加型設計とプログラムを現地の状況に適応させる方法を探る中で持続可能性、コミュニティの当事者意識、参加を定着させることなどが含まれる。

## 教訓を学び、アイデアを共有する

プロジェクト報告は、可能性の高い方法を記録するために不可欠なものであり、豊富な情報を所蔵するCEFMライブラリーのおかげで、プラン・インターナショナルAPACは、この地域でCEFM撲滅のために行っているすべての活動を把握することができ、その存在は非常に重要だ。

プロジェクトの進捗状況は、新たに導入された地域モニタリング・評価・報告枠組みを通じて、毎年見直しが行われる。これにより、アジア太平洋地域の全体的な状況とCEFM撲滅に向けた進捗状況を監視し、国レベルでの貢献を把握することができる。また、中長期的な観点から、肯定的

なものも否定的なものも含めて、取り組みの成果を分析することもできる。

経験の共有とアイデアの相互活用を支援するため、プラン・インターナショナルAPACは、地域内の国々でCEFMに取り組んでいる仲間同士の対話と討論の場「CEFM Chatterbox」を毎週開催している。どのような問題やアイデアも議論の対象だ！

私たちの他のアプローチとして、**公開討論と政策転換を促すための地域フォーラム**を通じた活動がある。これには、アジア太平洋地域の2つの主要地域圏であるASEANとSAARCに対する働きかけを目的とした地域イベントへの参加も含まれる。たとえば、2020年9月には、第2回CEFM撤廃ASEAN地域フォーラムにおいて、東南アジアにおけるCEFMと思春期の妊娠を撲滅するための地域行動計画の導入を働きかけた。2020年4月には、UNFPAおよびユニセフと協力して南アジア地域三者対話に参加し、南アジアにおける児童婚撲滅のための地域行動計画の実施を求めて、現在SAARCおよびその加盟国に政策提言を行っている。

私たちはまた、アジア太平洋地域でほぼすべての国が批准している「子どもの権利条約」と「女性差別撤廃条約」の遵守状況を監視することを任務とする国連の2つの専門機関に最新情報を提供する**CRC報告とCEDAW報告**など、国連レベルでの国際的な提言活動も続けている。

## 私たちは何を提言しているのか

プラン・インターナショナルAPACは、この地域のCEFM撲滅に関連する多くの問題について、政策提言、キャンペーン、人材の招集などの働きかけに深く関わっている。具体的な要求は場所や国によって異なるが、普遍的なものもあり、導入されればCEFM撲滅の上で重要な役割を果たすだろう。それらは以下の通り：

- ✓ 女の子とユース女性が、自身の生活に影響を与える決定に必ず参加し、意見を求められるようにする。
- ✓ 性的搾取とGBV、特にCEFMを防止するために、十分な機能とリソースを備えて迅速に展開できる国の子ども保護システムを構築する。
- ✓ 国の教育省および部局は、すべての社会福祉寄宿学校に子ども保護メカニズムを設ける。
- ✓ SRHRとジェンダー平等に関する情報を国が定める教育課程に組み込み、公立学校、コミュニティ学習センター、マドラサその他の宗教学校を含む、公式および非公式の教育機関においても、こうしたテーマに関する教育が行われるようにする。
- ✓ 「児童婚ゼロ」の村、小地区、地区の設置を通じて、コミュニティと公的機関がCEFMを拒否する。
- ✓ 18歳を結婚の最低年齢とする結婚関連法の改正を含め、CEFMを禁止する強力な法的枠組みをつくる。
- ✓ 婚姻登録の義務化
- ✓ 児童婚から確実に保護するために、国および地方レベルでの規制および政策を採択または改正する。
- ✓ 企業と企業プラットフォームは、特定業務の職業訓練への投資についてユース女性を優先する。
- ✓ 子どもの保護、SRHRの尊重・保護・履行、ジェンダー平等に向けた、エビデンスに基づくアドボカシー戦略をとる。

# アジア太平洋地域における CEFMの撲滅と思春期の妊 娠の抑制に向けたプランの プログラム活動

現在、プラン・インターナショナルAPACは、アジア太平洋の10カ国(バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、ネパール、フィリピン、タイ、東ティモール、ベトナム)でCEFM撲滅に取り組んでいる。こうした国々における活動はそれぞれ異なるが、すべてのプログラムとアドボカシー活動は同じ戦略的枠組みに基づいており、継続的な教育の実現、ユースの経済的エンパワーメント、暴力からの保護、SRHRという4つのテーマが柱となっている。これらの柱は、CEFM撲滅に向けた取り組みの効果はジェンダー不平等、有害なジェンダーステレオタイプ、貧困と経済的困窮、教育水準の低さといった根本原因に取り組むときに最も高まるというエビデンスに基づいており、そのエビデンスの収集と分析は継続して行われている。

プラン・インターナショナルは1994年に**バングラデシュ**で活動を開始し、同国でCEFMに取り組んできた長い歴史がある。プラン・インターナショナルのCEFMプログラムは現在第4世代に入り、教育、保健、保護に対する女の子の権利の実現に焦点を当てている。現在、「バングラデシュにおける女の子のためのより良い未来の構築」と「早すぎる結婚との闘い」という2つのプロジェクトが実施されている。私たちは、特に男の子と男性がエンゲージメント(活動に参加し変革の担い手となり、自分自身にとっても良い結果をもたらす)し、義務者がそれを補完する活動をする形で、女の子の能力強化、社会・ジェンダー規範の変革を中心にした取り組みを行っている。学校だけでなく、不就学の女の子と男の子にも働きかけ、彼らのエージェンシー(知識・自信・批判的思考を身に着けること。声を上げ、社会を動かし影響を与える力を含む)を育み、経済力を強化する機会を創出する手助けをしている。これには、特定の技能に対する需要を特定するための市場調査、既存の訓練機会のマッピング、ライフスキルに関する訓練モジュールの開発などが含まれる。

「早すぎる結婚と妊娠は、女の子の心と体に悪影響を与えることに気づきました。それは、教育を修了する機会や、人生における他の多くの成長の機会をも奪ってしまいます。私たち女の子は、自分で選択することができ、私たちが嫌がることを強制する権利は誰にもないということを学び、自信が持てるようになりました」。

ユース・アクティビスト、  
タイ(16歳)



## バングラデシュ:女の子のためのより良い未来づくり 主力国プロジェクト概要

### 主な活動分野: 子どもの保護、SRHR

私たちの主力プロジェクト「Building Better Futures for Girls」は、ランプール県クリグラムで行われている。ランプール県は、バングラデシュで最もCEFMの割合が高い県のひとつであり、クリグラム県は、82.4%の女性が15～19歳、20～24歳で結婚し、15～49歳の女性の44.3%が15歳未満で結婚するという、同国で最も深刻な状況にある県のひとつである。このプロジェクトは、同国政府が2021年までに15歳未満の女の子の結婚を撲滅し、18歳未満の女の子の結婚を3分の1に減らすという目標を達成するために、他の地区にも拡張できるような地区モデルを試験的に導入するためのものである。

プロジェクトは3つの主要アプローチを展開しており、変革に向けた、より広範な同じ全体的戦略の下で互いに補強しあうように設計されている。第一のアプローチは、**CEFMに関する知識と認識の向上**である。そのために、学校に通う女の子と男の子、不就学の子ども、思春期の若者に、ジェンダー平等とSRHRに関する教育を行うなど、多くの活動を実施し、誰一人取り残さないようにしている。

2つ目のアプローチは、**地元コミュニティでジェンダーステレオタイプに挑戦し、人々の意識を変え、特に権力や影響力を持つ立場の者が結婚年齢を遅らせることを促すこと**である。また、ユース・フォーラムの設立を後押しし、彼らに生活技能訓練を実施し、女の子の誕生と成長を祝うイベントと活動を広めてきた。また、コミュニティ内でリーダーとして活動するChampion FathersとMothersも選んだ。

そして最後のアプローチは、特に児童婚と出生登録に重点を置いて、**既存の子ども保護メカニズムを強化すること**にある。これまでに、4,000人超の宗教指導者と仲人を対象に、SMSを利用した年齢確認について研修を行い、CEFMをリアルタイムで防止できるようにした。また、児童婚防止に関して、地方(県)や地区の役人と四半期ごとに定期的な会合を開いている。

**規模を拡張させる**という約束に沿って、プロジェクトは、政府が2021年までに15歳未満の女の子の結婚を撲滅し、18歳未満の女の子の結婚を3分の1に減らすという目標を達成できるよう、他の地区にも拡大できるよう特別に設計されている。同様に、女の子と若者がスキルを身に付け、自分を守るための戦略を学び、集団で行動することを後押しすることで能力を強化するとともに、既存の政府制度や委員会と協働してその能力を高めることで、持続可能性を確保している。

#### 主な業績一覧

- CEFM撲滅推進のため、2,736人の男の子と女の子で構成される組合レベルのユース・フォーラムを76設立した。
- 4,044人の宗教指導者、婚姻登録者、仲人たちが児童婚減少に役立つ研修を受けた。
- 684人のChampion Fatherが、児童婚阻止のための手本、インフルエンサーとなった。
- 10,944人のコミュニティを基盤とする子ども保護委員会のメンバー10,944人が、草の根レベルで児童婚を監視し、防止に努めている。
- 76の地方政府議会(Upazila Parishad)が児童婚の防止、確実な出生登録に取り組んでいる。



© Plan International/Hartmut Schwarzbach/argus

**カンボジア**で展開している3つのプロジェクトには、いくつかの異なる柱がある。カンボジアは貧困レベルが高いため、ユースの経済力強化に重点を置いた取り組みで、ユース女性と男性、特に不就学の先住民の思春期の若者が将来的にディーセントな仕事に就けるよう、彼らのスキル習得と能力開発を支援している。活動には、技術的スキルとコミュニケーションスキルを含む雇用関連スキルに関する研修の実施、研修やインターンシップ期間中の研修生への健康管理その他サポートの提供、就職斡旋サービスの提供などが含まれる。包摂性はこの活動の重要な側面であり、私たちは障害のある研修生に対し、研修コースを彼らの特定のニーズに合わせるなど、特別な支援を行う。

ラタナック・キリ県では、先住民の思春期の女の子と遠隔地のユース女性のCEFMと早すぎる妊娠の減少につながるプロジェクトとして、少人数のグループに文章作成、コミュニケーション、ジャーナリズムのスキルを教えている。彼女たちはこうしたスキルを使って記事、報告書、ビデオ、ドキュメンタリーを作成し、同世代の仲間の間でCEFMに対する啓発を行い、コミュニティ内外の意識改革に努めている。また全国各地で、市民社会のパートナーと協力してSRHRを推進し、村長、親、教師、宗教指導者、警察官を対

象に、子どもの保護に関する研修を実施している。

**インド**では、教育と職業技能の習得による女の子の能力強化プログラムに重点を置いたプロジェクトを展開している。対象地域に学習センターを設置し、不就学の女の子の復学を後押しするため、同級生についていくための補習コースを設けている。思春期の女の子が将来雇用されるための準備として、職業訓練に備えたコンピューター・リテラシーやライフスキルに関する研修を実施。また、ユース女性が金融その他のスキルを身につけて起業できるよう支援している。また教育部門と緊密に協力し、女の子の就学率向上を促進している。

## インド：女の子のアドボカシー同盟 主力国プロジェクト概要

# 主な活動分野：教育の継続、子どもの保護、ユース雇用

主力プロジェクトである女の子のアドボカシー同盟は、インド南部の2つの州（アーンドラ・プラデシュ州とテランガナ州）で実施されており、約15の県を網羅している。このプロジェクトは多面的で、子ども保護メカニズムの強化を通じて児童婚と人身取引を減少させると同時に、中等教育と職業志向の職業訓練へのアクセスを増やすことに重点を置いている。

このプロジェクトでは、**宗教指導者その他の伝統的指導者との関わり**が中核を成している。社会や文化のあり方に挑んだり物申したりするような場合は特に、こうした人々のコミュニティ内での影響力は絶大だ。彼らは結婚の手続きに直接かかわることも多く、つまりコミュニティでCEFMの防止に向けた活動をする際に鍵となる可能性を秘めている。これまでに彼らと協力の下、CEFMと子どもの人身取引とその防止方法に関する研修を実施し、CEFMの有害な影響だけでなく法律に関する啓発をすすめるため、ポスターなどの現地語教材を開発した。研修は、結婚式場の経営者、写真家、仮設テント（結婚式に使用される）業者、印刷業者、装飾業者など、結婚に関わる人々にまで広がっている。

もう一つの重要な分野は**ユースの経済力強化**で、私たちはCSOsのパートナーや企業、民間セクターと協力して、職業志向の職業訓練を提供してきた。ユースの経済力を強化できる機会の現状をよく理解するため、アーンドラ・プラデシュ州とテランガナ州の職業訓練センターのマッピングを行った。また、ユース女性が職業訓練の機会にアクセスする際の障壁に関する調査と、国や州の教育に対する予算配分の評価も行った。CEFMに反対し、中等教育の重要性を訴えるキャンペーンの一環として、一流女優と一流テニス選手という2人の有名人を起用してビデオを制作した。

ユースのエンゲージメントとエンパワメントもまた、このプロジェクトの中心であり、持続可能性を確保するための取り組みのひとつである。そのために私たちは、女の子とユース女性たちが自身の権利について発言し、主張できるように、コミュニティと国の両方のレベルで研修を実施し、支援してきた。

### 主な業績一覧

- ・ 334人の宗教指導者とコミュニティリーダーが、コミュニティ内の児童婚と子どもの人身取引の防止策を講じた。
- ・ 450人超の女の子がアドボカシー研修を受けた。
- ・ アドボカシー活動をするユース31人を対象にプラン・インターナショナルのユース・アドボカシー・ツールキットに関する4日間の特別研修を実施。
- ・ 100の子どもの権利NGOが、子どものセーフガーディングとジェンダー平等に関する組織方針を強化するための支援を受けた。

## 今こそ行動を！

インドネシアでは、プラン・インターナショナルは「Yes I Do」、「BLOOM」、「Let's Talk!」プロジェクトなど、いくつかの異なるプログラムを実施している。インドネシア中部と東部では、SRHRに関する知識とアクセスの向上を目指して、特にコミュニティのお目付け役と話し合いを重ねることで、CEFMと10代の妊娠のリスクに関する啓発をすすめている。

また、地元の変革の担い手をつなぐネットワークが運営する、12のコミュニティを基盤とした子ども保護メカニズムの設置に向けた支援を続けており、このネットワークがコミュニティの話し合いで推進役となって事例対応と被害者支援に当たっている。また、国と地方レベルでも働きかけを行い、地区や村レベルでのCEFM防止策の実施を加速させるよう、政府高官に求めている。



## インドネシア: Yes I Do 主力国プロジェクト概要

# 主な活動分野: 子どもの保護、 SRHR、ユースの経済的力づけ

インドネシアでは、主力プロジェクト「Yes I Do」を3カ所で展開している: 西ジャワ州スカブミ市、中部ジャワ州レンバン県、西ヌサ・トゥンガラ州ロンボク県バラットである。特にSRHRに強い重点が置かれ、思春期の女の子と男の子が自身の身体、生活、将来について十分な情報を得た上で決定できるように、知識と情報を身につけさせる取り組みを行っている。これには、女性性器切除(インドネシアではしばしば「女性割礼」と呼ばれる)、その他の有害な慣行についての議論も含まれる。

彼らの権利について教育するだけでなく、**教育や個人のエンパワーメント(能力強化)**を通じて、思春期の女の子が児童婚以外の選択肢を持てるように取り組んでいる。これには、起業に関する授業やワークショップ、事前職業訓練などが含まれる。また、511人のユースが仕事や将来の職業について計画を立て、職業に関する明確な目標と達成方法を持てるように支援している。

地元コミュニティにおける**子どもの保護**は、Yes I Doプロジェクトのもうひとつの柱であり、草の根レベルでより強力な保護環境を作ること为目标にいくつかの取り組みを行っている。その鍵となるのが、たとえばコミュニティでの話し合いの開催など、親やコミュニティのお目付け役の賛同と後押しを得ることだ。地元の変革の担い手をつなぐネットワークが運営する、12のコミュニティを基盤とした子ども保護メカニズム(CBCPM)の設立に対する支援ができるのもそのおかげで、ネットワークが話し合いの推進役となって事例対応と被害者支援に当たっている。

すでに良い影響が出始めている。現在までに、子どもに対する暴力の事例が175件CBCPMに報告されており、そのうち111件が児童婚の事例であった。このうち22件で、結婚が取り消された。微々たるものとはいえ、この数字は、CBCPMがCEFMを防止、減少させ、最終的には撲滅し得る可能性を示している。CBCPMモデルは、現地の状況やコミュニティに適応させることで、CEFMと、さらに広くジェンダー不平等の撲滅に向けた今後の取り組みに、有望で持続可能かつ拡張可能なモデルを提供するものだ。

私たちのコミュニティレベルでの活動を支えているのが、国や地方レベルでの提言活動である。政府高官を関与させ、特に地区や村レベルでの児童婚防止策の実施に向けた支援の確保を目指して働きかけを行っている。さらに、NGOやCSOのパートナーと緊密に協力し、婚姻法改正を求める提言を成功させた。

### 主な業績一覧

- ・ 3,506人のユースが経済力強化研修や起業家養成ワークショップ、事前職業訓練に参加した。
- ・ プラン・インターナショナルの「変革の担い手」学習モジュールを用いて、3つの地区のユース155人が、児童婚防止に関するキャンペーンや提言活動を実施するための研修を受けた。
- ・ 12のCBCPMが創設された。
- ・ 175件の子どもに対する暴力がCBCPMに報告された。このうち111件が児童婚事例であった。
- ・ 児童婚に関する68の政策が定められており、これには村、執政官、地区の規則、村長からの政令や回覧文書、コミュニティを基盤とした子ども保護や子どもにやさしい学校づくりのための予算配分などが含まれる。
- ・ 村の活動、短編映画、新聞記事、オンラインメディア、全国テレビなどを通じて400万人超にリーチするなど、115のキャンペーン活動を実施。

## 今こそ行動を！

ラオスでは、女の子が教育を継続し、SRHRの実現の土台となる能力を身に着けるための支援に重点を置いて3つのプロジェクトを展開している。学校での活動が中心となり、ライフスキルを身に着けながらSRHRとジェンダー平等について学ぶ場として生徒クラブの創設を支援。また、女の子が5つの重要な分野(発言(主張)、意思決定、自信、組織化、ビジョン(人を動かす))でリーダーシップを高められるよう後押しを行っている。地域によってはデリケートな話題について話すことが難しいこともあるため、私たちは「Anakhot Kong Koi」(My Future)プロジェクトの一環として、学校内に議論できる安全な空間づくりを支援。また、教師や保健センター職員などのサービス提供者だけでなく、プラン職員や自治体職員、市民社会のパートナーの能力向上にも取り組んでいる。

**ネパール**での活動は、国家レベルでの働きかけが中心となり、児童婚撲滅に向けた国家戦略の改訂をすすめるとともに、この戦略のための費用を計上した行動計画を政府が承認するよう働きかけている。政府との直接的な関わりを通じて行う働きかけが中心となるが、草の根レベルでも活動し、CEFMの有害な影響について影響力のある立場の人びとを教育し、関与させている。これには、宗教指導者、コミュニティ指導者、PTA、さらに婚姻登録者や挙式に関わる者など婚姻プロセスに直接かかわる人々も含まれる。国レベルの2つのプロジェクトでは、女の子主導のキャンペーン、親を対象とする啓発イベント、学校での課外活動も支援している。また、63人の子ども(女の子33人、男の子30人)にラジオ報道の訓練を行い、子どもの保護とCEFMに関する問題への意識を喚起する放送をコミュニティ・ラジオで制作できるように支援している。



**フィリピン**では、CEFMに関する取り組みはまだ初期段階にあり、現在は人道的環境、特に避難生活の中で何が児童婚の要因になっているかエビデンスを集めるプロジェクトに注力している。今後、この調査を基に児童婚の防止・対応に関する手順の説明が行われることになる。他の調査でもそうであるように、私たちは他の関係者に加え、女の子とユース女性、その家族、コミュニティとの話し合いを重視しているが、携帯電話やタブレット端末を使った新しいデジタル・リサーチツールも活用することで大量のデータを収集・分析することが可能になるため、この調査には約2,000件のインタビューが反映されることになる。また、このツールによって、調査員その他データ収集者の解釈や文化的バイアスに左右されることなく、人びとの体験の中にある小さなストーリーを集めることができる。



**タイ**では、2つの活動を柱にプロジェクトを展開している。ひとつはユースの経済力強化で、ユースと親を対象に起業に関する研修を実施し、コミュニティで事業をしているグループに財政支援を行っている。もう1つは、SRHRに関する情報提供でジェンダーステレオタイプに挑戦するというものだ。また、ユースが知識とともに他のユース活動家を育てる能力を身に付けて児童婚と10代の妊娠をなくせるように、ユースをコミュニティ・ボランティアとして養成している。この活動の成果はすでに表れつつあり、昨年、コミュニティ・ユース・ボランティアのいる村の数は、10から16に増加した。

また、タイとミャンマーの国境にある、社会的・経済的に困難な状況下にある避難民の貧困コミュニティにSRHR教育、研修、ワークショップを実施している。避難民コミュニティに直接働きかけることの重要性を踏まえ、ビルマ語/ミャンマー語で教育、その他情報資料を作成することに重点を置いている。私たちは避難民に焦点を当てた活動をしているCSOsと緊密に提携し、特に村長、保健ボランティア、教職員、PTAなどのコミュニティ指導者に働きかけて地域レベルでの意識変革を促せるよう、支援している。やがて、こうした提言活動の規模を拡大し、全国レベルでの変化につなげていきたいと考えている。

## 今こそ行動を！

**東ティモール**では、プラン・インターナショナルは現在3つのプロジェクトを実施しており、SRHR推進とGBVへの取り組み、そして児童婚の防止を一体化した戦略ですすめている。SRHRに関する活動の柱は、子どもとユース、特に女の子とユース女性がこれらの権利に関する知識を深められるよう、市民社会を支援することなどがある。また、ジェンダー平等と意思決定プロセスに女性と女の子が参加する重要性について人々の意識を変え、知識を深めるため、男性組織や信仰その他伝統的指導者が関与するよう取り組んでいる。さらに、「Say no to GBV」プロジェクトでは、男性と男の子を巻き込んで学校での教育や訓練を提供し、子どもとユースがコミュニティのロールモデルとなってコミュニティでGBVに関する世代間対話の推進役を務められるよう働きかけている。このプロジェクトは、デジタル技術を積極的に取り入れており、GBVを監視しながらCEFM事例の記録もできる革新的なデータ収集システムを使用し、市民社会や住民参加型の組織と協力して活動している。



**ベトナム**では現在、「EMPoWR」と「Girls are ready to shape their future」という2つのプロジェクトに取り組んでいる。CEFMのリスクにさらされている女の子の教育機会を向上し、将来の雇用機会に関する情報を提供することで彼女たちを支援するのが活動の中心である。そのために、私たちは進路指導教材を作成し、コーチングやメンタリング（対話を通して気づきを促す手法）に関する研修を実施し、教師がアドバイスや指導ができるよう、教師研修も行っている。また、労働市場調査活動を実施して、雇用機会やその分野で働くために必要なスキルを把握し、その調査結果をパートナー組織や関係者に広めている。

## ベトナム：EMPoWR 主力国プロジェクト概要

# 主な活動分野：子どもの保護、継続的 教育、SRHR、ユースの経済力強化

ベトナムでは、私たちの主力プロジェクトである EMPoWR を最北部のハザン省、ライチャウ省、中部のクアンビン省、クアンチ省の4つの省で展開している。同国では少数民族のコミュニティで CEFM が非常に多く行われているため<sup>49</sup>、10～24歳の少数民族の女の子、男の子、ユースがデジタル空間を利用することで自分の権利を理解し主張し、支援サービスにアクセスし、政策立案者に向けて声を上げることができるよう支援することに注力している。

特別に開発した研修パッケージや、オンラインで共有できる教育ビデオを作成することで、**デジタル・リテラシーとオンライン・セーフティスキルのレベルを向上させる**こともその1つである。こうしたオンライン活動を支えているのが、GBVやCEFM、その他虐待に関する意識喚起を促すオフライン活動で、たとえば、同世代同士で支え合うピアツーピア・サポート・グループや学校が運営するユースクラブを設立し、女の子も男の子も参加できるようにした。

また、**デジタル技術を活用**してオンライン・プラットフォーム「Girls' Rights Platform (GRP)」を開発し、女の子と女性の権利に関する対話、情報提供、交流を促進している。GRPは対話を促進するツールであるだけでなく、少数民族の女の子と男の子、ユース女性と男性を人身取引や児童婚から保護する上でも役立つように設計されている。プランは、こうした集団がオンライン討論に参加するよう、最も活動的なユーザーに認定書を発行したり、オンラインゲーム、クイズ、賞品付き大会、表彰などを活用している。

このプラットフォームを**持続可能なものにする**ために行っているのが、**現地のパートナーCSOsとの緊密な連携**だ。連携することで、プラットフォームへのアクセスが広がり、彼らが情報コンテンツや利用可能なサービスを管理し、ビデオその他の情報をアップロードする能力を身につけていくことを目指している。また、人権を保護し、CEFMと人身取引に立ち向かうCSOsとメディアの間で協力がすすむよう、ネットワークづくりに関するワークショップも実施している。

人身取引と児童婚の問題、特に少数民族の子どもの問題について**政府内の認識と知識を高める**ことも、もう一つの重要な目的である。たとえば、国レベルの政府機関を対象に啓発ワークショップを開催したり、政府の代表者にGRPを紹介して、彼らがリソースとしてGRPを利用できるようにしたり、主要関係者との会合を定期的に開いたりするなど、さまざまな方法で追求している。

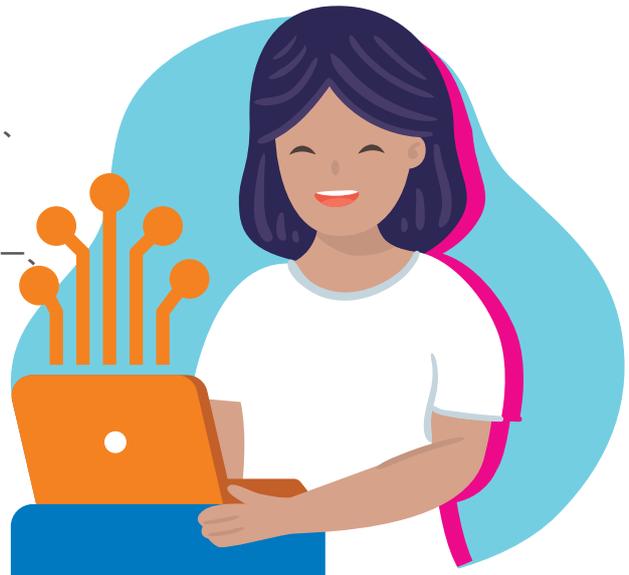
### 主な業績一覧

- ・子どもが使いやすい設計をするためのニーズ調査を含め、適切にGRPを設計・導入することができた。
- ・GRPを通じて1,731人の子ども、思春期の若者、ユース(1,022人が女の子とユース女性)が支援を受けることができた。
- ・CEFM、人身取引、デジタル・リテラシー、オンライン・セーフティスキルに関する、子どもに配慮した研修・コミュニケーション・コンテンツを継続的に開発し、アニメ化・ゲーム化する。
- ・現地のNGOパートナー組織は、プロジェクト終了後もGRPを維持する能力と自信を持っている。
- ・主要政府機関との提携関係の構築
- ・オンライン・セーフガーディングのためのNGOパートナーとの強力な提携とネットワークの構築。

# 彼女たちの声を増幅する： 女の子の能力を強化し、ユース 主導のアクティビズムを支援する

子どもの権利が尊重され保護され、女の子が差別なく平等に扱われる世界というプラン・インターナショナルのビジョンを支える中心的役割を担っているのは、女の子とユースだ。プランは、ユースとともにユースのために、ユースにとって重要な問題に取り組み、彼らに意見とアイデアを求め、自分自身の生活に関する意思決定だけでなく、コミュニティやより広い社会の変革の担い手となる力を与えている。ユースへの投資は、将来のリーダー、意思決定者、インフルエンサーへの投資でもある。

アジア太平洋地域では多くの国で、子どもとユースは年長者の意見や決定に従うべきだと考えられているため、ユースの能力強化戦略は特に重要である。この地域はまた、きわめて多様性に富み、プラン・インターナショナルでは、ユースを同質な集団として一括りにせず、さまざまな背景やコミュニティを持つユースとの関わりを重視している。だが、現実には、複数のアイデンティティを持つことで、彼らはさまざまな形で交差しあう差別、疎外、排除にさらされている可能性がある。



「もっと多くのユースが参加することが、すべての人が児童婚を防止・撲滅させる活動を後押しすることにつながり、ユースの能力が向上して信頼を勝ち取り、児童婚対策に関わる組織、コミュニティ、その他の団体でユースが戦略的な役割を担うことになるのです」。

ユース活動家、インドネシア  
(17歳)

CEFMIに取り組む上で、ユースとの関わりは特に重要である。というのも、この有害な慣行の影響を最も受けているのはユースで、彼らは自身の体験を通して、あるいは、友人や同世代、そしてより広い社会に害が及ぶのを目の当たりにしているからである。CEFMIを助長し永続させている状況をより理解し、新たな傾向を把握し、この慣行を撲滅するための新しく革新的な戦略を生み出すために、彼らの意見と見解は不可欠なのだ。ユースが意味のある形で参加・関与し、それを土台に意思決定が行われることで、より有益で効果的な結果が生まれることを裏付ける証拠は増え続けている。

これまでCEFMIの直接的な影響を受けてきた女の子とユース女性は、権利とエイジェンシー（自由に選択と意思決定をし、自分の目標に向かって行動ができる力）を認められず、力を奪われたポジション（地位）に置き去りにされ、自分の生活に関する決定ができない場合が多い。プラン・インターナショナルは、彼女たちと直接関わることで、彼女たちがエイジェンシーを取り戻し、自らの権利と他者の権利を要求できるよう支援したいと考えている。



## 女の子が結婚を阻止できるよう、ネパールのユースクラブが採った方法

「女の子の能力を高めなければなりません。自身の権利について知識のある女の子が増えれば、彼女たちの状況は改善するでしょう」。  
-L、16歳、ネパール

Lは16歳の時、両親から結婚相手にふさわしい男の子を見つけたと告げられた。この知らせを聞いてショックを受けた彼女は、すぐにプラン・インターナショナルの子どもクラブで友達に話した。「こんなに若いうちに結婚していたら、自殺したのも同然だったでしょう」と彼女は語る。「妊娠する

かもしれないし、出産も簡単じゃない。身体の健康にもリスクがあるし、精神的にも良くない。義理の両親にも従わなければならないし、私の運命は彼ら次第になる。暗く孤独な人生だと感じたでしょう」<sup>50</sup>。クラブの世話役は、ネパールにおけるプラン・インターナショナルのパートナーの1つであるNGOのFOHREに彼女を紹介し、その後押しで、結婚予定日直前に結婚を取りやめるよう両親を説得することができた。

アジア太平洋地域全体で、プランはさまざまな形でユースを活動とプログラムに参加させている。ユースが参加するということは、少なくとも、社会や開発のプロセスにはユースが自由に参加できるということだ。彼らの参加は自由意思と十分な情報に基づいて行われ、包摂的かつ前向きなものである。倫理にかなった、質の高い、意味のある参加ができるよう、プラン・インターナショナルは若者の知識とスキルと構築・強化し、彼ら自身のアイデアと解決策に基づいて特定した活動を効果的に実施できるよう、具体的な取り組みを行っている。

私たちが主に注力している分野は、女の子の能力強化とリーダーシップである。こうした取り組みを支援するため、私たちは2020年に「Asia Girls' Leadership Index」を創設した<sup>51</sup>。この指数は、アジア太平洋 19カ国における女の子のリーダーシップの現状を示すために、国際的で信頼できる既存のデータをまとめた初めてのものである<sup>52</sup>。教育、健康、経済的機会、保護、政治的発言力と代表、法律と政策という6つの主な領域を調査したこの指標を基に、思春期の女の子とユース女性の能力強化とリーダーシップを実現あるいは制限している主な傾向と問題について考察することができる。この指標の目的は、女の子の成長、能力強化、自らの権利を実現し行使する能力を後押しするための行動について認識を高め、それを提言することだ。特に、特定の分野への投資がどのようにジェンダー不平等の格差を解消し、「誰一人取り残さない」ことにつながるかについて、政府、学界、援助、開発に携わる者が理解を深める手助けをすることを目的としている。

草の根レベルでは、ユースのエンゲージメントは、CEFMの防止・撲滅の必要性に関するコミュニティの意識喚起からコミュニティ・フォーラムの開催やCEFMのリスクにさらされている同世代の仲間やその親との直接議論まで多岐にわたる。インドでは、戸別訪問キャンペーン、街頭劇、市民集会などを通じて、ユースグループがCEFM反対を訴え、CEFM事例を当局（村レベル）に報告している。ネパールでも同様の形でユースのエンゲージメントが行われ、ユースによる提言活動によって何十もの村が「CEFMゼロ区域」を宣言した。バングラデシュでは、農村部のユースが「結婚をつぶす」根回しをして、CEFMが行われる寸前で阻止したり、他にも多くの事例を未然に防いでいる。

先に強調したように、SRHRに関する理解が深まるのがCEFMに対する取り組みの鍵になる。ラオス、タイ、東ティモールでは、SRHRがピアツーピアの議論の中心となっている。カンボジアでは、中途退学したユースが教育を再開する意欲を持てるよう、ユースグループがピアツーピア教育に取り組んでいる。ベトナムでは、中途退学したユースに経済力強化の具体的な機会を提供する活動まで行っている。ユースネットワークはまた、GBVやSRHサービスへのアクセス改善など、CEFMをめぐる話題に関する世論も活用している。

また、バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、ネパール、東ティモール、タイ、ベトナムでは、ユース・生徒クラブ、フォーラム、プラットフォームを立ち上げ、その活動を支援している。こうしたグループは、ユースがCEFMの有害な影響について理解を深めながら、自身の権利とその行使方法について学ぶ機会を創出している。集団活動や集団的な取り組みでは、解決策を求めて建設的な形でエンゲージメントすることが、自身の権利を主張し、伝統的なジェンダー規範に挑む自信と能力を養うのに役立つ。また、ユース集団は草の根レベルを超えたエンゲージメントも行っている：国内の子どもの権利連合の支援を通じて、CEFMをめぐる彼らの懸念が、各国の議会や国際的な政策立案者の目に直接触れるようになりつつある。

「児童婚撲滅のためには、女の子と男の子の教育に注力する必要がある」。

C.、ユースレポーター、ネパール

## 政策の議論に子どもとユースを参加させる

私たちが、女の子と男の子、そしてユース女性と男性が、自らの人生に関する議論と決定に参加すべきだと提言するのは、単に彼らに席を与えるべきだと考えるからでなく、参加するのが当然だからだ。私たちの経験によれば、子どもとユースが協議に参加することで、彼らのニーズに合った提案がなされ、その取り組みが成功する可能性が高まる。

タイでは、「Voice of Children」フォーラムの一環として、子どもとユースが自分たちの意見を発信できるよう支援した。これは、CEFMを撲滅し、思春期の妊娠を減らすためのアイデアや解決策を共有することを目的とした取り組みで、その結果、地区、小地区、自治体レベルの各行政機関に提言が提出された。その中で要求された内容は以下の通りである。

- ・ SRHRとCEFM・思春期の妊娠の影響に関する研修に予算を割り当てる；
- ・ 子どもとその家族のための職業訓練を推進する；
- ・ 教育の重要性を訴え、子どもとユースが教育システムに留まるよう働きかけを促す；
- ・ 課外活動を推進し、スポーツや職業訓練など、自由時間を有効に活用する。

CEFM撲滅に向けたユースのアイデア、解決策、行動は、アジア太平洋地域全体で大きなうねりになりつつある。プラン・インターナショナルAPACでは、この創造性、大胆さ、エネルギーを支え、効果的につなげ、構築・拡張し、持続していくことを目指している。

# 次の課題は？今後の課題とイノベーション

CEFM撲滅の取り組みにはさまざまな課題があるにもかかわらず、過去10年間で大きな進展が見られた。この10年間で、世界全体で推定2,500万件の児童婚が阻止された<sup>53</sup>。この間、児童婚の発生率が最も減少したのは南アジアで、49%から30%に減少した<sup>54</sup>。だが、2030年までに児童婚を撲滅するという野心的な目標を達成するには、この10年間の17倍のスピードで前進する必要がある<sup>55</sup>。取り組みを加速させる必要があるのは明らかで、児童婚の発生率が現在と同じままであれば、10年後までに新たに1億7,000万人以上の女の子が早すぎる結婚をすることになる<sup>56</sup>。

プラン・インターナショナルでは、CEFM撲滅の取り組みへのさらなる注力を誓い、そのために2021年以降にさまざまな行動と活動を計画している。これには、CEFM撲滅に向けた取り組みの加速を呼びかける大規模な地域キャンペーンのスタートや、主な関係者と意思決定者を動かして意識を喚起する行動月間の実施などが含まれる。

また私たちは、CEFMがこの地域の国々にとって優先事項であり続けるよう、私たちの提言能力、そして女の子とユース女性、パートナー組織の能力を強化するための行動をとる。そのために、CEFM撲滅活動に携わる人々の助けとなる新しいツールキットを開発中である。

プラン・インターナショナルAPACでは、エビデンスに基づくバランスの取れた取り組みを引き続き重点的に行う。そのため、CEFMに関連する問題、特に新しく現われつつある傾向について、綿密な調査を継続し、プログラムを現場の現実に対応できる内容にしていく。COVID-19パンデミックの長期的な影響が明らかになるのに応じて、戦略的活動アプローチを修正・適応させ、必要に応じて優先順位の見直しを行っていく。

デジタル技術とオンライン・プラットフォームがCEFMの防止と撲滅に果たす役割を認識し、新しく革新的なオンライン・ソリューションへの投資も増やす予定だ。たとえば、即効性のある防止メカニズムの支援、オンライン討議や啓発活動の促進、教育・雇用機会を増やすためのユースのデジタルスキルの習得など、活動の現場で役立つ最先端のツールも含まれる。また、内部の調査、モニタリング、評価プロセスを強化するために新しい技術を活用する方法も模索していく。

「情報の重要性は高く、情報は私たちが解決策と機会をつかむ助けになります。小さくて簡単な一步一步が、遠い夢の実現への道となるのです」。

ユース・アクティビスト、ベトナム  
(18歳)

私たちはハイレベルでの提言活動を継続し、特に国会議員との関わりを増やすなど、権力のある立場にあるグループ・個人と関わる活動を拡大する予定である。国会議員は、国レベルの政策変更の先頭に立つだけでなく、選挙区内でも影響力のある人物であり、CEFMだけでなく、さらに広くジェンダー不平等に対する人々の態度を変える可能性を秘めている。もちろん、ユースの能力強化とユース主導のアクティビズムを継続的に支援していくことが、今後も私たちのすべての活動の中核であり続ける。

こうした活動はすべて多大な時間と資源を要する。そのため今後、戦略的提携を強化する方法を検討し、資金調達活動を通じて財源を増やしていく予定だ。私たちの取り組みが長期的計画に基づき、最大限の効果をもたらすものであり続けるよう、多部門による総合的な(社会変革につながる)ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを引き続き展開していく。

# 巻末資料

- <sup>1</sup> UNICEF, Child marriage around the world, Infographic, March 2020, <https://www.unicef.org/stories/child-marriage-around-world>.
- <sup>2</sup> UNICEF, Child marriage around the world, Infographic, March 2020, <https://www.unicef.org/stories/child-marriage-around-world>.
- <sup>3</sup> UNFPA, Impact of the COVID-19 Pandemic on Family Planning and Ending Gender-Based Violence, Female Genital Mutilation and Child Marriage, 27 April 2020), [https://www.unfpa.org/sites/default/files/resource-pdf/COVID-19\\_impact\\_brief\\_for\\_UNFPA\\_24\\_April\\_2020\\_1.pdf](https://www.unfpa.org/sites/default/files/resource-pdf/COVID-19_impact_brief_for_UNFPA_24_April_2020_1.pdf).
- <sup>4</sup> World Atlas, Prevalence Of Child Marriage Around The World, <https://www.worldatlas.com/articles/prevalence-of-child-marriage-in-various-regions-of-the-world.html>, accessed 17 March 2021; and Girls Not Brides, <https://atlas.girlsnotbrides.org/map/>, accessed 20 March 2021.
- <sup>5</sup> UNICEF, Ending Child Marriage: A profile of progress in India, February 2019 p. 6.
- <sup>6</sup> World Atlas, Prevalence Of Child Marriage Around The World, <https://www.worldatlas.com/articles/prevalence-of-child-marriage-in-various-regions-of-the-world.html>, accessed 17 March 2021.
- <sup>7</sup> Girls Not Brides, <https://atlas.girlsnotbrides.org/map/>, accessed 20 March 2021.
- <sup>8</sup> World Atlas, Prevalence Of Child Marriage Around The World, <https://www.worldatlas.com/articles/prevalence-of-child-marriage-in-various-regions-of-the-world.html>, accessed 17 March 2021.
- <sup>9</sup> Plan International, Their Time is Now; Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia, Integral Technical Report, 2018, p. 7.
- <sup>10</sup> Report of the Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights, Preventing and eliminating child, early and forced marriage, 2 April 2014, UN Doc. A/HRC/26/22, paras. 4-6.を参照のこと。
- <sup>11</sup> “Their time is now”: Eliminating child, early and forced marriage in Asia – Integral Technical Report, 1 August 2018. August 2018, p. 32.
- <sup>12</sup> Plan International, Their time is now: Eliminating child, early and forced marriage in Asia – Integral Technical Report, 1 August 2018, p. 42.
- <sup>13</sup> Plan International, Their time is now: Eliminating child, early and forced marriage in Asia – a Summary Report, 1 August 2018, p. 27.
- <sup>14</sup> Plan International, Their time is now: Eliminating child, early and forced marriage in Asia – a Summary Report, 1 August 2018, p.12, 18, 20, 23, 26, 27, and 42.
- <sup>15</sup> Wodon, Q., C. Male, A. Nayihouba, A. Onagoruwa, A. Savadogo, A. Yedan, J. Edmeades, A. Kes, N. John, L. Murithi, M. Steinhaus and S. Petroni, Economic Impacts of Child Marriage: Global Synthesis Report, The World Bank and International Center for Research on Women, 27 June 2017, (World Bank and ICRW, Economic Impacts of Child Marriage: Global Synthesis Report), <http://documents1.worldbank.org/curated/en/530891498511398503/pdf/116829-WP-P151842-PUBLIC-EICM-Global-Conference-Edition-June-27.pdf>.
- <sup>16</sup> World Bank and ICRW, Economic Impacts of Child Marriage: Global Synthesis Report, p. 8.
- <sup>17</sup> World Bank and ICRW, Economic Impacts of Child Marriage: Global Synthesis Report, p. 9.
- <sup>18</sup> World Bank and ICRW, Economic Impacts of Child Marriage: Global Synthesis Report, p. 9.
- <sup>19</sup> SDG 5.3 outlines the commitment to “Eliminate all harmful practices, such as child, early and forced marriage and female genital mutilation (FGM)”.
- <sup>20</sup> UNICEF, Looking ahead towards 2030, Eliminating child marriage through a decade of action, 3 September 2020.
- <sup>21</sup> UNICEF, Looking ahead towards 2030, Eliminating child marriage through a decade of action, 3 September 2020.
- <sup>22</sup> David Davide Strusani and Georges V. Hounghono, What COVID-19 Means for Digital Infrastructure in Emerging Markets, International Finance Corporation, May 2020, [https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/8f9237d2-eece-433f-a2d0-300907808722/EMCompass\\_Note\\_83-for+web.pdf?MOD=AJPERES&CVID=n7M5wS](https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/8f9237d2-eece-433f-a2d0-300907808722/EMCompass_Note_83-for+web.pdf?MOD=AJPERES&CVID=n7M5wS).
- <sup>23</sup> UNICEF, COVID-19: Digital and Remote Approaches in Eliminating Female Genital Mutilation and Child Marriage, 20 October 2020, <https://reliefweb.int/report/world/covid-19-digital-and-remote-approaches-eliminating-female-genital-mutilation-and-child>.
- <sup>24</sup> UNICEF, COVID-19: Digital and Remote Approaches in Eliminating Female Genital Mutilation and Child Marriage, 20 October 2020.
- <sup>25</sup> UNFPA and UNICEF UNICEF, Adapting to COVID-19: Pivoting the UNFPA–UNICEF Global Programme to End Child Marriage to Respond to the Pandemic, September 2020, [https://www.unfpa.org/sites/default/files/resource-pdf/Responding\\_to\\_COVID-19\\_Pivoting\\_the\\_GPECM\\_to\\_the\\_pandemic.pdf](https://www.unfpa.org/sites/default/files/resource-pdf/Responding_to_COVID-19_Pivoting_the_GPECM_to_the_pandemic.pdf).
- <sup>26</sup> Frances Ferreira, GIRLS Inspire Final Report: Preventing Child, Early and Forced Marriage (CEFM) Through Open, Distance and Technology-Based Education, Report, Commonwealth of Learning, 12 July 2019, <http://oasis.col.org/handle/11599/3222>.

- <sup>27</sup> Girls Not Brides, Ending Child, Early and Forced Marriage Is Crucial to Gender Equality, 31 July 2020, <https://beta.girlsnotbrides.org/learning-resources/resource-centre/ending-child-marriage-is-crucial-to-gender-equality/>.
- <sup>28</sup> OpenCRVS in Bangladesh, <https://www.opencrvs.org/case-studies>.
- <sup>29</sup> UNICEF, How to Include Girls in Digital Product User Testing, <https://www.unicef.org/eap/media/7231/file/User%20testing%20with%20girls.pdf>, accessed 25 March 2021.
- <sup>30</sup> UNICEF, How to Include Girls in Digital Product User Testing.
- <sup>31</sup> DIAL, Dial Principles for Digital Development, <https://digitalprinciples.org/>, accessed 25 March 2021.
- <sup>32</sup> Plan Indonesia Official YouTubeChannel, Suara Kirana (2020) - Official short movie, 2020, <https://www.youtube.com/watch?v=tD1JF7iqsjs>.
- <sup>33</sup> Mayo Clinic, Helping Kids Cope with Loneliness during COVID-19, <https://www.mayoclinic.org/diseases-conditions/coronavirus/in-depth/help-kids-cope-with-loneliness-covid19/art-20490135>, accessed 25 March 2021.
- <sup>34</sup> OECD, Bridging the Digital Gender Divide: Include, Upskill, Innovate, 2018.
- <sup>35</sup> Matt Shanahan, The Mobile Gender Gap in Asia: A Region of Rapid but Unequal Growth, Mobile for Development, 23 September 2019, <https://www.gsma.com/mobilefordevelopment/region/east-asia-and-pacific/the-mobile-gender-gap-in-asia-a-region-of-rapid-but-unequal-growth/>.
- <sup>36</sup> UNICEF, 'Building Back Equal' for Girls' Education, 14 October 2020.
- <sup>37</sup> Plan International, ICT4D Parenting Solutions, July 2020.
- <sup>38</sup> Plan International, ICT4D Connectivity Landscape, July 2020.
- <sup>39</sup> UNICEF, Building Digital Solutions for Girls' Digital Realities, <https://www.unicef.org/eap/media/7236/file/Girls%20digital%20realities.pdf>, accessed 25 March 2021.
- <sup>40</sup> スリランカのCare Internationalとの電話インタビューによる。
- <sup>41</sup> Plan International, Safeguarding Children and Young People Policy Guidance: Safety on Online Platforms, November 2017, <https://plan-international.org/publications/global-policy-safeguarding-children-and-young-people>.
- <sup>42</sup> UNICEF, Building Digital Solutions for Girls' Digital Realities.
- <sup>43</sup> プラン・インターナショナルの全事業にわたりジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを主流とする決定については、プラン・インターナショナル、Our gender transformative approachを参照のこと: Tackling the root causes of gender inequality, 24 January 2019, <https://plan-international.org/eu/blog-alex-munive-gender-transformative-approach>.
- <sup>44</sup> UNICEF, 'Building Back Equal' for Girls' Education, 14 October 2020, <https://www.unicef.org/eap/stories/building-back-equal-girls-education>.
- <sup>45</sup> Rhiannon Carroll, The "New Normal" – How Technology Is Helping CESOCODE Prevent Child Marriage during COVID-19, Girls Not Brides, 10 June 2020, <https://www.girlsnotbrides.org/the-new-normal-how-technology-is-helping-cesocode-fight-child-marriage-during-covid-19/>.
- <sup>46</sup> World Economic Forum (WEF), Coronavirus Could Put 4 Million Girls at Risk of Child Marriage, 20 May 2020, <https://www.weforum.org/agenda/2020/05/coronavirus-early-child-marriage-covid19-pandemic/>; および Rhiannon Carroll, The "New Normal" – How Technology Is Helping CESOCODE Prevent Child Marriage during COVID-19, Girls Not Brides, 10 June 2020を参照のこと。
- <sup>47</sup> Plan International, Their Time is Now: Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia, 1 August 2018.
- <sup>48</sup> Plan International, Time to Act! Accelerating Efforts to Eliminate Child, Early and Forced Marriage in Asia – Emerging Effective Interventions and Strategies, 7 November 2019.
- <sup>49</sup> UNICEF and UNFPA, Ending child marriage empowering girls: Understanding child marriage in Vietnam, 21 March 2018, <https://www.unicef.org/vietnam/reports/ending-child-marriage-empowering-girls>, p. 5.
- <sup>50</sup> Plan International website: <https://plan-international.org>.
- <sup>51</sup> Plan International, The 2020 Asia Girls report: Introducing the Asia Girls' Leadership Index, 2019.
- <sup>52</sup> They are Afghanistan, Bangladesh, Bhutan, Brunei Darussalam, Cambodia, India, Indonesia, Laos, Malaysia, Maldives, Myanmar, Nepal, Pakistan, Philippines, Singapore, Sri Lanka, Thailand, Timor-Leste, and Vietnam.
- <sup>53</sup> UNICEF, Protect the progress: Rise, refocus, recover - 2020 Progress Report on Every Woman Every Child Global Strategy, September 2020, p. x.
- <sup>54</sup> UNICEF, Child marriage around the world: Infographic, March 2020, <https://www.unicef.org/stories/child-marriage-around-world>.
- <sup>55</sup> UNICEF, Looking ahead towards 2030, Eliminating child marriage through a decade of action, 3 September 2020.
- <sup>56</sup> UNICEF, Looking ahead towards 2030, Eliminating child marriage through a decade of action, 3 September 2020.

# 付録

# 付録1-A: Key informant interviews with Plan International APAC staff

Name	Titles	Location
1. Ms. Chankrisna Sawada	Programme Quality and Influencing Manager	Plan Cambodia
2. Mr. Tushar Anchal	Child Protection Technical Adviser	Plan India
3. Ms. Rani Hastari	Gender Equality and Social Inclusion Specialist	Plan Indonesia
4. Ms. Israt Baki	Adolescent Programme Manager	Plan Laos
5. Ms. Shanti Upadhyaya	Senior Technical Advisor – Thrive	Plan Nepal
6. Ms. Selena Fortich	Country Programme Manager for Child Protection	Plan Philippines
7. Ms. Cirez de Leon	Programme Specialist	Plan Philippines
8. Ms. Nipaphun Torsound	Child Protection Specialist	Plan Thailand
9. Ms. Etha Mota	Programme Manager of Girls Empowerment and Gender Equality	Plan Timor-Leste
10. Ms. Phan Thanh Ngoc	Project Coordinator	Plan Vietnam
11. Ms. Neelima Yasmeen	OpenCRVS Project Manager	Plan Bangladesh
12. Mr. Nazrul Islam Chowdhury	Project Manager	Plan Bangladesh
13. Mr. Raša Sekulović	Regional Head of Child Protection and Partnerships	Plan International Asia Pacific Regional Hub
14. Ms. Nora Lindstrom	Senior Global Lead for Digital Programmes and Influencing	Plan International

# 付録1-B: Internal mapping of digital technologies

## BANGLADESH

Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

### SMS/USSD and mobile application – Age verification

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Reducing child marriage: enables the verification of the age of the bride and groom prior to performing a marriage. SMS or USSD is used in areas with a poor network, limited, or no Internet.
Who is the target audience or intended user?	Matchmakers, marriage registrars, informal marriage solemnisers
What is your stage of technology development?	Scale up
What was the process to design and deploy the technology?	An administrative office of government from the northern part of the country innovated this mobile-based solution, which was later scaled up by Plan International Bangladesh. Plan trained all formal and informal marriage solemnisers and matchmakers with relevant government departments in its usage.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Governance Innovation Unit (GiU) and Access to Information Unit (a2i) sitting under Prime Minister's Office (PMO). However, both these agencies moved to a new role and their priority has been changed, so we are reviewing existing strategy.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Sub-national, with scale-up to national underway.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	<p>It was possible to scale-up the District prevention strategy within a very short time (3 months). Not only to cover one District but to cover three additional districts through government ownership. The GO-NGO intervention benefitted other government and CSO actors with stop child marriage programmes in those Districts. IT created a demand for similar interventions in the remaining Districts within the same administrative control mechanism (other Districts of Rangpur Division).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The government has formally expressed its interest in scaling up the intervention nationally and making the ICT-based age verification and marriage registration systems as the national standard.</li> </ul>
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	This app, or USSD/SMS technology allows for the verification of a groom's age or bride's age in real time. In the past, a physical copy of a birth certificate, school leaving certificate or national ID card was all that was required as proof of age, but these documents can all be easily forged. This led to many marriages being legally consecrated when the bride or groom was under age. With the new app, this is no longer a possibility, as the marriage registrar and solemniser can digitally verify the document, thereby significantly reducing chances of fraud.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Shifts within the government's office made scale challenging. Also need regulatory approval for scale.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	The app stopped over 3,700 underage marriages during its 6-month pilot period alone.

## BANGLADESH (Continued)

### SMS/USSD and mobile application – Age verification

Question	Response
What are your plans for sustainability in the future?	Based on lessons learned, Plan Bangladesh designed a nation-wide scale up programme with Governance Innovation Unite (GiU) and Access to Information Unite (a2i) sitting under Prime Minister's Office (PMO) to reach out to all the formal and informal marriage registers, solomnisers, matchmakers and other religious leaders who perform marriages, in order to meet prime ministers target 2021 (full elimination below 15 and one third of below 18) and 2041 (full elimination). The GiU has a list of informal people country wide performing marriages, a2i has got the technical expertise to establish and maintain the technological operations.

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Open Civil Registration System (CRVS)

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Used to support the digital and active registration of births and deaths
Who is the target audience or intended user?	Birth and death registrars of local government, health workers in pilot locations.
What is your stage of technology development?	Piloted in two regions, urban and rural contexts
What was the process to design and deploy the technology?	Wide array of research methods were used at the start of the programme to inform the design of the digital technology. This includes a household survey, FGD, stakeholder consultations, observation and an in-depth desk reviews that were conducted to understand the existing CRVS landscape. Areas of weakness and potential opportunities for system strengthening are then identified using the UN definitions of Civil Registration and Vital Statistics as a guide. Perspectives were taken from all stakeholders including policy makers, system users and end users.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Partnering with the government of Bangladesh to design and deploy the technology. The Government had several goals around the universal civil registration of births, deaths and other vital events. Development of OpenCRVS solutions depends on partnerships with registration authorities, leading health system providers, expert software developers, and communities to design and build a global digital product that will serve the needs of end users and those being registered.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Two districts
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Aim to scale up nationally in the future.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Registration can occur in the communities where events take place (e.g., birth and death) and can happen quickly and cost effectively. Birth registration is the first step in securing legal identity and accessing other basic rights like education, healthcare and social protection. OpenCRVS are also more inclusive than traditional systems, as they have been designed to facilitate offline registration in some of the most remote areas. Open CRVS integrated with health systems in Bangladesh and event notification (birth and death) can be generated instantly from hospital.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Getting permission from regulatory authorities to test and scale is a lengthy process.

## BANGLADESH (Continued)

### Open civil registration system (CRVS)

Question	Response
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Part of a broader global effort to design open CRVS systems. Some key achievements include following international standards, digital principles for development, human-centred design and agile methodologies in the design process.
What are your plans for sustainability in the future?	Government and a broader community of developers to continue building and scaling the technology.

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Facebook and online newspaper, and use of cable TV

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Disseminating awareness raising messages on stopping child marriage, maintaining healthy relationships in the family as well as taking care of the mental health during times of disaster and crisis such as Cyclone Amphan and COVID-19.
Who is the target audience or intended user?	Youth
What is your stage of technology development?	Pilot/Testing
What was the process to design and deploy the technology?	<p>The idea of a targeted group 'Digital Marketing Campaign' was developed by the County Office Communications Team, which was done for the first time within the Plan Bangladesh Country Programme. This is a 10-day campaign, running in the online paper of the leading national daily <i>Prothom Alo</i> and also in the official Facebook pages of Plan International Bangladesh and <i>Prothom Alo</i>. Plan International Bangladesh (PIB) provided the content and <i>Prothom Alo</i> converted this into digital ads. The ads are presented in COVID-19 related articles and as banner ads. The landing page of the ads was PIB's Facebook page. The target was to increase the reach of the page, while promoting the messages and branding of the organisation too.</p> <p>For the Facebook Campaign, the contents are being posted in <i>Prothom Alo</i>'s Facebook page, while PIB's Facebook page was tagged. PIB also has re-posted to share the reach. The total audience reach through this campaign is around 20 Lakhs (2 Million) through <i>Prothom Alo</i> online newspaper and around 15 lakhs (1.5 Million) through their Facebook page.</p>
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Girls Not Brides (GNB) Bangladesh Network
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Girls Not Brides (GNB)
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Girls Not Brides (GNB)
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	National. The initiative was successful and can be considered for replication for further similar campaigns.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	<p>For the digital ads, the 'Landing Page' was PIB's official Facebook page to get the wider reach without spending on boosting the page. From 21-27 May the page got around 300 new followers and page views were 2,701, which is 270% higher than the previous week.</p> <p>Along with reaching the audience through digital marketing, tagging Plan's social media platform/website could bring multiplier impact.</p>

## BANGLADESH (Continued)

### Facebook and online newspaper, and use of cable TV

Question	Response
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	During the time of staying at home due to the outbreak of the Covid-19 pandemic, people are mostly dependent on social media and online news portals. The leading dailies, such as Prothom Alo, have created outreach for both online and social media platforms. In partnering with them through this digital marketing campaign, PIB reached a wider audience with awareness messages whenever they read the news on Covid-19. The audiences also got to see the messages when they explored social media. So, this was an effort that covered the platforms people are using most frequently in this crisis situation and, thus, the impact was greater.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## CAMBODIA

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

## Telegram forum and Facebook platform

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Telegram forum established to share information during Covid-19 pandemic on child protection, different forms of violence, e-posters on preventing epidemic, psychological support etc.
Who is the target audience or intended user?	Not answered
What is your stage of technology development?	Preparatory/initial stage. This telegram platform will be continuously used for future information sharing and updates from the field that could benefit children and young people – especially child protection concerns, reporting cases of violence against children (VAC) including CEFM incidence, SRHR related information etc.
What was the process to design and deploy the technology?	NGO partners
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	The existing NGOs partners: CRC Cambodia, KYA, NTFP and PSOD
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	No
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	It is in preparation for use at the local level. The platform will enable local authorities to better respond to all forms of violence against children including CEFM. It will encourage children and young people to report child protection concerns, and exercise their rights to safe and free online space.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	It is challenging to launch the platform during Covid19 crisis and difficult to get in touch with children and young people at the community level. This online platform is therefore important for continuous sharing, keeping in contact and providing support to report and update situation. A safeguarding and online safety guide had been introduced to our NGO partners as well.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a d different angle?	It creates safe space for children and young people to get in touch, keep sharing and learning. In the future, it will continue for specific purposes of reporting cases of violence against children and CEFM, while following the safeguarding and safety online standard guide to ensure best interests of children and young people.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## INDIA

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

## Social media, WhatsApp, radio, and app on sexual and reproductive health

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Not currently using any digital platform on a regular basis. Some use of mapping tools to understand unsafe spaces for girls and young women, which rely heavily on social media platforms. Capacity building on social and media platform. Promoting challenges associated with CEFM. Girls trained are using twitter and other forms of social media. Plan International (PI) India also uses video clips as messaging to make clear impact for CEFM. These are regularly shared with WhatsApp group. Also use of radio in areas where there is limited connectivity to reach girls. In the future, looking at integrating a unique ID to verify child marriages and working with the government to create technology enabled solutions.
Who is the target audience or intended user?	Radio programmes, entire community. Social media, girls and young women. App is focused on religious leaders to verify marriages.
What is your stage of technology development?	Various, from testing (app) to live solutions (social media, WhatsApp, radio).
What was the process to design and deploy the technology?	Knew that there was need for voices for youth and saw high uptake and usage of social media amongst target segment. No standard protocol and assessment to design technology.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Hired technology agency that provides training to the girls on digital safety for social media.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Major challenge for programme delivery is getting access to devices (handset or tablet) to access social media. These are not very expensive, but funding needed to support this effort.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Twitter and Facebook have been partners, with Twitter supporting us in training 15 girls on social blogging. Facebook is a member of a group where we design programmes that report violence against girls. Both are active in creating safe online digital environments. Facebook is interested in AI and how key words are caught by algorithms, but so far words only in English. Facebook wants PI India to propose a solution.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Have reached millions, especially with social media. One campaign can have more than 700,000 views. Youth are first adopters of technology, and very responsive to social media efforts.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Delhi, Hyderabad, Mumbai, and other metro cities. Also, some national initiatives.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Many campaigns are set for a specific time period. Need to find ways to regularly engage youth. Also, want to find a way to reach the most vulnerable and marginalised girls, but this is challenging as many do not have access to technology, and given that many communities have patriarchal structures. Digital safety is also a challenge for some of these girls with online digital harm an issue. Financial crime also an issue for girls online.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	A major challenge is the lack of Internet connection in some areas where girls reside. Also challenges with mobile phone ownership amongst women, and many times these phones are shared.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not tracking impact at the moment.
What are your plans for sustainability in the future?	Not any plans currently for sustainability but something that is worth looking at in the future.

## INDONESIA

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

## WhatsApp

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Learning and sharing of information with partners or members of CBCPM, including: <ul style="list-style-type: none"> <li>- Holding lecture sessions on issues related to child marriage prevention, for example lectures on gender, inclusion and child protection.</li> <li>- Discussion platform around new regulations at the national or regional level.</li> <li>- Response to any reports/cases/incidents, including on violence against children and child marriage</li> </ul>
Who is the target audience or intended user?	Young people and partners
What is your stage of technology development?	Implementation
What was the process to design and deploy the technology?	Yes I Do (YID) project gathered information from target groups (especially young people) before conducting e-learning sessions so that the topics could be designed based on their needs. Then, GESI Specialist and Child Protection Advisor designed e-presentation and delivered the materials on WhatsApp. The e-learning sessions were facilitated by project staff and YID partners.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Not answered
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Three different districts/provinces.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Several cases of prevention of child marriage and trafficking cases were foiled by communicating these cases in the WhatsApp group and forwarding to relevant parties.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	WhatsApp is cheaper and allows Plan to reach young people at scale.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Have young people coming in and out of the group.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## INDONESIA (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Interactive Voice recorder (IVR) devices: Mobile survey model using telephone equipment

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Information services related to CEFM and to strengthen the referral system.
Who is the target audience or intended user?	Not answered
What is your stage of technology development?	Planning
What was the process to design and deploy the technology?	Plan to develop digital campaign strategy with support from a third party.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Not answered
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Not answered
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	<p>Connectivity and accessibility: There are still many remote areas in Indonesia that are not connected to the Internet but can access through landline telephones.</p> <p>Safety: The CO plans to involve a Girl Champion from West Lombok (one of Yes I Do project areas) who aspires to raise the voices of her peer girls in her village who are at risk of child marriage. A digital platform would be a safe space for girls to raise their voices.</p>
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## INDONESIA (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Instagram and Facebook

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Campaign for the prevention of child marriage and gender-based violence. Sharing information related to the activities and efforts that we do to prevent child marriages. Running Yes I do campaigns and disseminating relevant content.
Who is the target audience or intended user?	Young people
What is your stage of technology development?	Implementation
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Not answered
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Part of programmatic funding.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	12,000 followers
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	National
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Pages are not very active. We did not design it well and we did not assign anyone to administer the account. Administrative staff will update periodically.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## INDONESIA (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Short film disseminated via YouTube

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Raise awareness of child marriage.
Who is the target audience or intended user?	Young people
What is your stage of technology development?	Implemented
What was the process to design and deploy the technology?	A production house that produces popular films in Indonesia.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Hired filmmakers to create the movie.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	680,000 views of the movie. But not the intended audience. Interviews from target groups not reach.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	National.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	We were able to effectively engage young people with powerful content, and realistic stories. Actors from the movie are also famous in Indonesia and managed to attract a critical mass of viewers. Wide audience reached, and this is needed to affect change within communities. Now other organisations have followed suit and also introduced short movies that portray real situations for young people.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	The films are interesting for young people and involve young artists who become influencers among young people.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Challenge in the content was upholding the values of gender inclusion. Created storyline to ensure that girls were empowered. Conducted a lot of discussion with girls and young women to ensure that storyline was appropriate to empowering girls and young women.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Scale as a key achievement. Did not assess impact of this movie directly on behavioural change of young people. But some early evidence of increased awareness CEFM issues.
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## INDONESIA (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Girls Leadership Programme (GLP) through online platforms (Zoom and WhatsApp)

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Providing platform for an intense mentoring session from mentors to girls as mentees, facilitation of peer learning, and dialog with top policy makers at national and international levels.
Who is the target audience or intended user?	Girls aged 15-24 years old, who are the participants of Girls Leadership Programme. At the beginning, there were about 600 girl registrants for the programme, and then the number was reduced to 31 girls through a competitive process.
What is your stage of technology development?	We use available platforms in public domain (Zoom and WhatsApp) as these are most convenient and reachable for girls even in remote areas.
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Not answered
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	<p>We allocate budget for GLP, not for the digital application/platform. It would be good to have an online application designed for GLP where girls can access a capacity building programme, sharing and learning, interaction with their peers and engage decision makers through the application.</p> <p>Some GLP participants also have ideas about using technology to create changes in their communities and tackle wicked issues. It will be good to get more ways for girls to up-skill and seed funding to realise their ideas in using technology.</p>
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Yes, six companies to support GLP.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	National
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Online platforms (Zoom and WhatsApp) help reduce cost and allow wide coverage to girls across districts throughout Indonesia.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	During the COVID-19 pandemic, Zoom and WhatsApp are heavily used to communicate and interact. It is really useful for engaging girls aged 15-24.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Lack of Internet infrastructure in some villages.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	We hope we can provide further support for the girls to realise their ideas in using technology to tackle wicked issues in their communities. There are 31 girl participants and some of them have ideas for using digital technologies. We just provide very small funding, but it is not enough to implement their ideas.

# LAOS

**Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?**

**Merlin Phahoo social media platforms (resource materials for adolescents on SRHR): Facebook, YouTube, Google site**

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Providing information on SRHR for adolescents
Who is the target audience or intended user?	Young people, especially girls
What is your stage of technology development?	Implementation
What was the process to design and deploy the technology?	Butterfly Works, Stella
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	CSO partners, adolescents and teachers
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Need additional funds to continue project. Need to hire content creator internally.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	This was developed under My Body My Future programme funded by Ministry of Foreign Affairs of Finland (coordinated by FLNO), Girls Leadership and Development Project (Girls Lead fund) coordinated by GNO and Ethnic Girls Rights Advocacy project funded by EU (coordinated by FLNO)
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	National
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	It is at the early stages of implementation, and the outcomes are yet to be assessed.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	The content was designed using the human-centred approach. There is a lack of resource materials on SRHR in Lao language for adolescents. The Facebook page was designed to generate discussion and provide a platform for adolescents to engage in conversation on SRHR and ask questions that are answered by experts from CSOs (this aspect is yet to be made functional). The Google site has resources for facilitators that they can use to design new content on SRHR.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	People that we try to reach are in rural areas and have limited access to mobile networks, and some do not have phones. Also, there are issues with content and language. There are 42 ethnic groups across country; many have their own language. Also, content creation takes a lot of effort. Need to get someone to create impactful content regularly. Need to also upskill our own staff when it comes to technology.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## MYANMAR

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

**Adolescent and Youth-Led Virtual Education and Protection Campaign: Mobile app (Viber, or another app of youth leaders' choice). Facebook closed groups might also be used for girl leaders to interact and share experiences and concerns.**

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Empower adolescents and youth to take control of the situation and become leaders in educating their peers and then communities about the Covid-19 pandemic;</li> <li>2) Support and protect each other, especially girls, young women and women, from violence and abuse during social isolation.</li> </ol>
Who is the target audience or intended user?	Youth, especially girls and young women
What is your stage of technology development?	Pilot
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	UNICEF
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	<p>Sub-national.</p> <p>To be piloted in Kachin State, as well as in Mandalay Region, with potential to scale to other locations such as Rakhine State, Kayin State and Yangon Region.</p>
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	<p>This campaign will produce content, as informational, educational, communications (IEC) materials or through engagement of national media partners, calling for communities to create safe spaces for girls and young women in times of pandemic and work together to support them.</p> <p>Youth leaders in IDP camps and sponsorship areas will be equipped with training and online/phone capabilities to form sub-groups within their camps. Together they will disseminate health including SRHR information (under guidance of Plan's health team and in consultation with UNICEF) with wider networks within their locations and track and report cases of violence.</p> <p>Youth leaders will be trained through webinars in various sectors to use IEC materials uploaded onto their phones (and more to be shared through online platforms based on needs) and subsequent mentoring so that they can effectively disseminate and share information with peers and communities through social media and digital platforms.</p>
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## MYANMAR (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Child Protection Incident Reporting System (CPIRS): Website and mobile app

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Enables anyone to submit a child protection incident report. It supports the national-level case management system strengthening, which is led by the Department of Social Welfare.
Who is the target audience or intended user?	Not answered
What is your stage of technology development?	Pilot
What was the process to design and deploy the technology?	The concept was generated by Plan International Myanmar and a website and application developer was hired from Myanmar Institute for Peace and Security (MIPS). This institute is also Plan International Myanmar's strategic partner in some thematic areas.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Department of Social Welfare
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	The current scope of application is sub-national. If this pilot project has accomplishments, we have a plan to expand other townships.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	CPIRS website and application have been developed. The target community knows about the CPIRS application. Community Development Officers and Department of Social Welfare staff have received website and application user training. A child protection incident report has been submitted through this application and was referred to a DSW case manager. A user brochure has been developed.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	It is an innovative online reporting system for child protection cases. People from communities can submit the child protection incident report easily via the website or application. In the future, Plan International Myanmar will hand this website and application over to the Department of Social Welfare.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## NEPAL

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

## IVR-VIAMO

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Key messages on critical issues recorded so people can listen and learn.
Who is the target audience or intended user?	General community being targeted but also includes girls and young women
What is your stage of technology development?	Deployed
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Viamo, technology provider and Nepal Telecom
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Using unspent project funds at country level to continue work
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Viamo helped to design the content
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Unsure
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Tested in few target areas
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	No documented outcomes
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Solution allows for the dissemination of critical information at scale and low cost
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not all girls and young women have phones, so a large portion of potential users excluded. Also, network issues in remote locations where girls live.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Unsure

## NEPAL (Continued)

Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?	
Mobile app	
Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Reducing CEFM through broader youth engagement, including linking them to decision-makers.
Who is the target audience or intended user?	Not answered
What is your stage of technology development?	Ideation stage. IMPORTANT NOTE: This is not yet a planned activity but just an idea. Plan Nepal is keen to see successful innovations from other COs to help inform whether this is worth pursuing.
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Not answered
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Not answered
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## NEPAL (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Facebook and other social media

Question	Response
<b>What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?</b>	There is a "Girls out loud" project which has created a Facebook page for adolescent girls and young women (ages 13-24 years). They are provided with a space and platform to discuss issues that matter to them. The most commonly discussed issues are SRHR, violence against women and girls, menstruation hygiene management, CEFM etc. This page provides a safe platform for girls to discuss various issues, myths and misconceptions, and provides support for greater understanding of issues and solutions to their concern and questions.
<b>Who is the target audience or intended user?</b>	Exclusively adolescent girls and young women between the ages of 13-24 years.
<b>What is your stage of technology development?</b>	Started in Colombia and scaled up in other countries including Nepal. Started with participation of 50 girls now reaches up to 600 girls in six months.
<b>What was the process to design and deploy the technology?</b>	Designed by Plan international Colombia and supported by GOL Global team of experts and scaled up in Nepal.
<b>Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?</b>	Global GOL team
<b>How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?</b>	Currently being funding through the ongoing project supported by JNO. But this will last only until June 2021. Thus, additional funding will be definitely required.
<b>Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?</b>	Some component of ongoing projects is being used for this particular project.
<b>How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)</b>	Currently the Facebook page has 600 members and around 350 girls have requested to join and are in the process of being verified. Out of 600 girls around 80% are active meaning they are sending likes, sharing comments, inviting friends, participating in polls etc.
<b>What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?</b>	It is being automatically scaled up to cover many districts.
<b>Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?</b>	Girls have increased networking, have initiated radio programmes, participated in the Art is power campaign etc.
<b>What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a d different angle?</b>	It provides 24/7 support in terms of responding to queries of girls.
<b>What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?</b>	100% engagement can't be measured as some members tend to only view and read posts but not respond. So, the level of engagement and understanding is hard to measure. Managing a high number of members and verification of each individual's identity is a challenge. The other key challenge is to reach out to the most marginalised girls who don't have access to the Internet and smart phones. They are completely left out in this programme.
<b>What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?</b>	Reaching out to a high number of girls in around six months with very minimum cost is a great achievement. This has become one of the great platforms for girls to share their opinions, solve concerns and issues and showcase their talents as well.
<b>What are your plans for sustainability in the future?</b>	The plan for sustainability is to handover this platform to the Youth hub of Plan International, which will be leading this group and engaging more and more group of adolescents and young women.

**NEPAL** (Continued)

Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?	
YouTube channel	
Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	An adolescent girls club from one of the project locations has created a YouTube channel and are providing massive awareness against CEFM.
Who is the target audience or intended user?	The focus of this intervention is to raise awareness against CEFM and to reduce the incidence of the CEFM in their community. Adolescents, young people, their parents and caretakers, and local government
What is your stage of technology development?	-
What was the process to design and deploy the technology?	-
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	-
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Supported by JNO in one of the districts named Banke.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Yes, financial and technical support
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Ongoing currently
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Reduction in the CEFM cases
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## NEPAL (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Radio programme

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Weekly radio programme is being broadcasted from the Association of the Community Radio Broadcasters Nepal (ACORAB) in seven of the working districts of Plan Nepal Create awareness among community people against CEFM
Who is the target audience or intended user?	General community, everyone listening to the radio
What is your stage of technology development?	-
What was the process to design and deploy the technology?	-
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Association of the Community Radio Broadcasters Nepal who has its catchment in all 77 districts of Nepal through community radios.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	JNO and sponsorship programme
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Yes, financial and technical support
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Earlier the radio programme was focused in one district but now this is expanded to additional six districts, making a total of seven districts.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	More people are aware and sensitise
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## NEPAL (Continued)

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

#### Outbound Interactive Voice Response Survey

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	The purpose of this survey is to identify the incidence of child marriage as a result of the lockdown situation.
Who is the target audience or intended user?	Identify the impact of COVID and lockdown situation on increasing cases of CEFM. Girls from 18 – 24 years old
What is your stage of technology development?	-
What was the process to design and deploy the technology?	-
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Partnering with Viamo for development and roll out of this survey.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Not answered
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Not answered
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Not answered
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Data collection will begin in March
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Not answered
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## THE PHILIPPINES

### Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

**Sensemaker is a digital tablet that facilitates participatory research with girls and young women. Research informants can openly discuss their experience and these experiences are captured on a dashboard to allow Plan International (PI) to see real time trends in the data collected.**

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Sensemaker was deployed because Plan Philippines wanted to understand and address key challenges that girls and women faced in their community. CEFM is a key challenge. PI used research findings to develop a two-year project plan to address these challenges.
Who is the target audience or intended user?	Enumerators and girls (ages 13-19) who fill in the tablet responses. Survey was translated into local language.
What is your stage of technology development?	2,000+ interviews completed through tablet. Now at stage of analysing the data.
What was the process to design and deploy the technology?	Not answered
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Women refugee commission helped to design the research and Cognitive Edge was the software and technology provider that deployed the research.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Already integrated into current programming and budget.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	Cognitive Edge as key software and private-sector partner.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	One time survey so this is not applicable.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Research was deployed across four regions in the Philippines.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Very interesting research outcomes facilitated by tech-enabled participatory methods. Amazed by the reach of 2,000+ participants in just two weeks. Much easier to analyse data and get quick insights on data with the dashboard.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	<p>Sensemaker is a narrative-based research methodology that allows respondents to give meaning to their stories through responding to a series of pre-identified story prompts or questions on a tablet/device and enables the capture and analysis of a large quantity of stories. Sensemaker data collection veers away from the typical questionnaire type survey and instead uses interactive images/shapes and buttons as methods for respondents to provide their answers and interpretations. This innovative approach reduces the potential for interpretive bias as it allows storytellers/respondents to share stories of their own choosing and enable researchers to collect a variety of perspectives without injecting their own interpretation/bias.</p> <p>Data is transmitted from the device/tablets straight to a web portal that displays it on a dashboard. This allows for regular monitoring of data quality (despite members of the research team being at different locations and time zones) and informs adjustments in the data collection strategy (if needed). The dashboard is also where the research team can explore data, look at patterns and trends, cross reference story patterns with various demographic characteristics of respondents, and deep dive into analysis.</p>
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Problems with tablets and some of them crashing. Some areas do not have good Internet, which made it tough to deploy the research. But Cognitive Edge was very helpful in supporting challenges. Another challenge, due to COVID-19, was that many of the surveys were online instead of having the enumerators administer them.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Ability to get high quality data insights, at scale and low cost.
What are your plans for sustainability in the future?	Plan to have concrete set of recommendations, which they will fundraise for in the future.

## THAILAND

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

**Facebook, YouTube, Line application (communications platforms such as WhatsApp), Facebook Messenger, online surveys, website with online course.**

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Facebook used to provide education and quality on sexual and reproductive health, consequences of child marriage. YouTube used for awareness raising on CEFM, and education on safe Internet education. Linked to sexual and reproductive health programming.
Who is the target audience or intended user?	Youth and adolescence (younger than age 24 years)
What is your stage of technology development?	Implemented and ongoing
What was the process to design and deploy the technology?	For YouTube worked with a youth group and youth created the content related to SRHR. For Facebook page, worked with youth leaders to develop appropriate content. Youth can add to the content by posting comments. Facebook page owned by Plan International.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	Local public health departments in targeted communities. Youth leaders in targeted communities.  Worked with Telenor for the website and to create courses to educate youth and adolescence. Telenor was administrator of the website and has data on youth who registered for the online course.
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	For digital technologies no specific budget but integrated into current budgets for the CEFM project.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	In existing budgets.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	For the website, 3,000 have registered and for Facebook and YouTube over 2,100.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Sub-national and local level with plans to scale up to the national level.
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Not answered
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	Other than providing and sharing information on SRHR and health related topics, there are also Q&A sessions organised by a qualified local public health officer along with our youth leaders which they answer health related questions (mainly on SRHR) asked by audience.
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Expected a larger audience for social media, especially. Need additional resources to scale up some of these efforts. Donors are putting efforts elsewhere currently. Also, not right resources internally with digital skills, especially for optimising social media. ICT person who is supporting digital work is based in Laos. Also, risk of online risks or harms that must be understood and addressed in programming (e.g., harmful content, data privacy).
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Outreach is key achievement. On YouTube videos, young people started to post their own content on CEFM-related issues.
What are your plans for sustainability in the future?	Plan International now the owner of the Facebook page but the plan is to eventually is to hand over the page to a youth group to manage in the future.

## TIMOR-LESTE

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

Mobile app: *Reproductiva*

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	<p>To increase the access to quality SRHR information and services for young girls. It aligns to goals at a country level to change social norms within communities.</p> <p>The app creates a safe and confidential space for girls to ask questions about SRHR that are answered by a trained professional. Plan Timor-Leste partners with Marie Stopes Timor-Leste to implement this project. Marie Stopes periodically shares useful tips to the group chat, and manages the Questions and Answer section within the applications. A bank of Q&amp;As is gradually developing for girls to search first for an answer to their questions before approaching the moderators. This approach helps to increase girls' and young women's knowledge about SRH, and gives them the confidence to ask questions and access youth-friendly services, including family planning.</p>
Who is the target audience or intended user?	Young people, especially girls in the age range of 13-18 years.
What is your stage of technology development?	Have been implementing this technology for 1.5 years. Piloting/testing occurred in two high schools in Dili and two in Aileu municipality. It is currently under improvement based on feedback from young people and evaluation.
What was the process to design and deploy the technology?	<p>Consulted with young people and their teachers to originally design the technology. Plan Timor-Leste has worked with a developer from Indonesia, Tedi Kurnia, to develop and improve the app. The project has also continued to work with government institutions such as the Ministry of Health (MoH) and Ministry of Education (MoE).</p> <p>The app has already undergone several improvements and a new version is currently being promoted among students and young people. As part of recent improvements, the server has moved to Timor-Leste and Plan Timor-Leste is currently under partnership development with two telecommunication companies, Timor-Telecom and Telenor.</p>
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	<p>Under this project, Plan International Timor-Leste has built an excellent approach and cooperation with its partners and stakeholders, including Marie Stopes Timor-Leste (MSTL), MoE, MoH at the national level and the Department of Health at the district levels. Also, Plan Timor-Leste was successful in engaging local women's right organisations and some youth CBOs to volunteer to assist Plan and MSTL in this project. They have demonstrated their commitments to the importance of the project by helping to mobilise students and motivate them to ask questions about sexual and reproductive health.</p> <p>The project team has also conducted mapping activities in order to build new partnerships with the aim of to continuing the app. This project also will work with Girls Alliance and CNJTL in order to strengthen their knowledge on sexual and reproductive health so they can contribute to discussions on issues of sexual reproduction to influence the decision makers as well as share the apps to other youth particularly those in the rural areas that can access the Internet.</p>
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Initial funding was from Finland government.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	For piloting /testing the project, received funding from FLNO and to extend the project using the sponsorship funding.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	More than 1000 users reached to date.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	The app has been tested in two schools at Dili (national) and two schools at Aileu municipality. In This FY, the apps are planned to scale-up to Ainaro municipality and other youth groups, including LGBTIQ youth and young people with viability.

## TIMOR-LESTE (Continued)

### Mobile app: *Reproductiva*

Question	Response
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	<ul style="list-style-type: none"> <li>The important lesson is that most Timorese, over the years, have considered sexual and reproductive health as something 'taboo' and not to be talked about in public. From this project we have learned that it is critical to work on the mindset of parents of the students as well as their teachers to facilitate the implementation of the project. In the future, Plan and MSTL will continue to advocate and influence the MoE to apply SRHR curriculum properly, and Plan and MSTL will organise school debates on the SRHR during the extra school time.</li> <li>Very important to train Parents and Teacher Associations (PTAs) to have deeper understanding of SRH so that they feel confident to talk about this topic in their families. Moreover, we have learned that many people think that contraception methods should not be introduced to teenagers, however, the facts show that students want to know about this issue so it is important.</li> <li>It is important to consult with girls and boys and other stakeholders as well as organise the prototype experiment so that the app development fits better to the needs of target users to bring about greater impacts. No direct evidence of impact but young people enjoy the participation.</li> </ul>
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	<p>This is a user-friendly android application helps to remove the barriers girls and young women face in accessing information on SRH and link them to the existing SRH services. It functions as an "interactive chat group" where girls and young women share their issues and seek answers with the supervision and support from MSTL health care staff. The application is equipped with a call function that directly links to the MSTL Free Call National Youth Hotline service, for individual consultation and or scheduling/booking a medical check-up with reproductive health clinic services. Also, the application will be equipped with a function to track and predict due period, based on a previous three months record. This helps girls to prepare themselves for their period, and avoid situations where girls need to go home early from school and have to miss class due to not being aware of when their period is due. One critical element of the application is that it provides girls and young women with anonymity when asking questions about their sexual and reproductive health.</p>
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Not answered
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	Not answered
What are your plans for sustainability in the future?	Not answered

## VIETNAM

## Which digital technologies are being used in efforts to eliminate CEFM?

## Girls Rights Platform (app and website)

Question	Response
What is the purpose and focus of the digital platform? How does it align with key programmatic objectives on your TOC?	Ethnic minority girls, boys, young women and men use the digital space to understand and claim their rights, access support services, and raise their voices towards policy makers (EMPoWR), and empowers girls to learn about trafficking.
Who is the target audience or intended user?	Girls, young women and boys below the age of 25.
What is your stage of technology development?	Technology being developed.
What was the process to design and deploy the technology?	Already had a hotline where people could call in and get additional information in their own language. Knew that there was a demand for this type of solution. Wanted to use app and website to scale.
Who are you partnering with in designing and rolling out this digital solution?	<p>Institute for Social Development Studies, which is independent research organisation promoting gender equality and women's empowerment in Vietnam. ISDS will be the leading local CSO to set up, manage and promote the online GRP amongst CSOs.</p> <p>Target groups and final users will play an active role in every phase throughout the action starting with the baseline assessment. These inputs and following consultations will determine the design of the GRP in order to ensure it will be a relevant source of information and platform for their engagement. For their safe and meaningful participation of the platform, the action will equip target groups with Internet literacy and cyber safety skills and empower them to speak up on issues affecting them.</p> <p>The process will at the same time engage and consult with relevant stakeholders including government, local authorities, CSOs and media to identify and strengthen links between the Girls' Rights Platform and current formal and informal information sources.</p>
How is the project being funded? Will you need additional funding in the future (e.g. learning or upskilling)?	Already have a grant to undertake this work. But in the future, will require more funding to scale up.
Did you receive any support from donor organisations, corporations or companies?	The Project is funded by the European Union and Plan International Belgium.
How many users does the technology have? In what regions? How many are active? (Define active)	Unknown, but the project targets directly 17,200 ethnic minority girls, boys, young women and men, and it is expected to reach of 57,400 people from ethnic minorities in communities of four provinces over the course of three years.
What is the current scope of application (local, subnational, national)? Any plans for scale-up?	Two Northern provinces (Hà Giang and Lai Châu) and two Central provinces (Quang Binh and Quang Tri)
Any concrete outcomes from using the specific digital platform and lessons learned?	Difficult to align various partner groups in the same direction to gain project momentum and to drive impact.
What are innovative features of this platform? How does it address problems in a new way and from a different angle?	<p>The online platform will provide information to ethnic minority children and youth, with three expected outcomes to reach government agencies:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>provide the same level of information regarding human trafficking and child marriage issues for government to have increased knowledge and awareness.</li> <li>create social mobilisation around the GRP through high take-up by citizens, CSOs and large media coverage.</li> <li>create an enabling space where youth and policymakers can interact through online policy dialogues.</li> </ol>
What are some key challenges that you faced as part of the process to design and scale the technology?	Difficulty in finding the right ICT partner who can build the digital solution. Also, tough to align all partners in the right direction. There are also some risks to the online safety of the users.
What are some key achievements and successes in designing and scaling the technology? Any evidence of impact?	In the future, anticipate that the content developed can be used, and scaled by the government. Also, the solution can connect the government to the real issues that young people face related to human trafficking in their own communities.
What are your plans for sustainability in the future?	Solution to be eventually to be taken up, and run by the government.

# 付録2-A: Key informant interviews with external stakeholders

Name	Title	Organisation
1. Mr. Iain Drennan	Executive Director	WeProtect Global Alliance
2. Ms. Shipra Jha	Head of Asia Engagement	Girls Not Brides
3. Ms. Shrinkhala Thapa	Regional Coordinator for South Asia	ECPAT
4. Ms. Gerda Binder	Regional Advisor	Unicef
5. Ms. Buddhini Withana	Senior Technical Advisor - Child Protection	Save the Children International

# 付録2-B: External mapping of digital technologies

Impact area	Countries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## Age verification and marriage registration through mobile apps project

This project was inaugurated in 2017 by through Bangladesh's Access to Information (a2i) programme. The project stated to launch a mobile app that would allow marriage registrars to verify the ages of the bride and groom by dialling a USSD code or SMS. Registration will only be completed if age appropriate. If the efforts taken locally to prevent child marriage fail, the National Helpline (109) can be called free from any mobile.

CEFM	Bangladesh			<a href="https://a2i.gov.bd/apps-to-prevent-child-marriage/">https://a2i.gov.bd/apps-to-prevent-child-marriage/</a>
------	------------	--	--	---

## Apps and girls

The platform harnesses the power of digital technologies, notably through the creation of coding clubs in secondary schools, an offline and online women's tech entrepreneurship incubator and e-mentoring to match emerging tech entrepreneurs with mentors.

Access to education, Personalised learning	Tanzania and Uganda	Girls in secondary schools, university or out of school	Over 1,000 impacted	<p>32 business ideas created 10 start-ups created</p> <p>The story of Doreen Michael, Juliet Sewava and Josephine Brown: "The three girls have participated in the 2018 FIRST Global Robotics where they represented Tanzania in the world's largest STEM themed Olympics. Through this participation they gained significant knowledge in robotics and automation that they use to mentor other young girls whose projects involves Arduino and robotics. They also had won 150 USD while pitching Foodhub at the Diamond Challenge. Currently they are volunteering to teach coding to students in twelve coding clubs we run in Dar es salaam secondary schools."</p> <p>Impact report: <a href="https://www.appsandgirls.com/wp-content/uploads/2019/07/AppsandGirls2018-compressed.pdf">https://www.appsandgirls.com/wp-content/uploads/2019/07/AppsandGirls2018-compressed.pdf</a></p> <p>A recipient of the 2020 EQUALS Digital Skills Fund grant: <a href="https://webfoundation.org/2020/03/meet-the-2020-equals-digital-skills-fund-grantees/">https://webfoundation.org/2020/03/meet-the-2020-equals-digital-skills-fund-grantees/</a></p> <p><a href="https://www.appsandgirls.com/">https://www.appsandgirls.com/</a></p>
--	---------------------	---	---------------------	--

## AVAAZ

An online platform that allows anyone to start and share a petition or campaign.

Youth activism	Global	Anyone interested in political organisation	65 million members	<p>463,047,069 actions 2,792 campaigns</p> <p><a href="https://avaaz.org/">https://avaaz.org/</a></p>
----------------	--------	---	--------------------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Bandhan Tod

Bandhan Tod is a mobile app that allows girls and women to respond to issues like child marriage. When the SOS on Bandhan Tod is activated, the nearest small NGO will attempt to resolve the issue. If the family resists, then the police will be notified.

CEFM	India	Girls and women in unsafe situations	Unknown	<a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=com.microware.bandhantod&amp;hl=en_GB">https://play.google.com/store/apps/details?id=com.microware.bandhantod&amp;hl=en_GB</a>
------	-------	--------------------------------------	---------	---

### Bangladesh MOWCA campaign on violence against women (2011)

The Ministry of Women's and Children's Affairs in Bangladesh produced numerous public service announcements encouraging girls and community members to take action where they can to protect girls from harassment, fight against dowry and stop child marriage.

Engage and mobilise parents, teachers and community	Bangladesh	Men, women and youth	20,000 YouTube views	The first phase of the campaign launched in Bangladesh in August 2010 (topics of sexual harassment, early marriage and women's empowerment) has won two awards in the public service campaign category: Silver Award from the Advertising Club of Bangladesh on February 10, 2011; and Gold Award at the Srijan Samman 2011 - Awards for Excellence in Bengali Advertising, in Kolkata, India.  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=eUe9W7sbpFY">https://www.youtube.com/watch?v=eUe9W7sbpFY</a>
---	------------	----------------------	----------------------	---

### Beautiful rising

Beautiful Rising is an online activism toolbox. It features a chatbot, an automated response system that embeds the Beautiful Rising toolbox within chat apps (WhatsApp, Telegram, Facebook, Skype), available on either a computer or smartphone. It also offers a printable card game for activists to learn and have fun in designing creative campaigns.

Youth activism	Myanmar, Jordan, Zimbabwe, Bangladesh, Uganda, Mexico.	Activists	Unknown	100 activist organisations trained globally  <a href="https://beautifulrising.org/">https://beautifulrising.org/</a>
----------------	--	-----------	---------	--

### Boyhood initiative

The Global Boyhood Initiative will support boys and the adults in their lives with resources they need to raise, teach, coach and set an example for boys to become men who embrace healthy masculinity and gender equality. The initiative will include media campaigns and activities, tools and resources, most of which can be accessed online.

Engage and mobilise parents, teachers and community	USA launch, but expanding globally	Boys (ages 4-13)	Unknown	Pre-launch  A project of Promundo, which leads a number of projects to promote gender equality by engaging men and boys in partnership with women and girls. <a href="https://promundoglobal.org/work/">https://promundoglobal.org/work/</a>  <a href="https://boyhoodinitiative.org/">https://boyhoodinitiative.org/</a>
---	------------------------------------	------------------	---------	--

### Bright Sky

Bright Sky is a free app which provides support and information to anyone who may be in an abusive relationship or those concerned about someone they know. Bright Sky enables users to locate their nearest support centre, assess the safety of a relationship and access to information about different forms of abuse and how to help a friend that may be affected.

Protection from violence	UK, Ireland, Czech Republic, Romania, Italy, Portugal, South Africa	Victims of domestic violence	Unknown	<a href="https://www.bright-sky.org.uk/">https://www.bright-sky.org.uk/</a>
--------------------------	---	------------------------------	---------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## BYJU

India's first tutoring and online learning app provider for K12, puts AI and data analytics at the heart of its content creation to facilitate online learning in a blended education system. BYJU's in-house analytics system uses the information gathered by its app to enhance the user experience, adapt to users' specific needs and build up the data.

Personalised learning	India	K12 students	50 million	BYJU runs on a 'freemium' model. <a href="https://byjus.com/">https://byjus.com/</a>
-----------------------	-------	--------------	------------	---

## Chat! Contraception

CARE Cambodia launched Chat! Contraception to improve SRHR for garment factory workers in Cambodia by providing information about contraception and sexually transmitted diseases (STDs). The programme involves a combination of in person activity-based sessions, soap opera style videos featuring female factory workers that are screened at the factories and can be watched on the mobile app, and a daily prompt/interaction from the app they can schedule at any time includes a mobile quiz and treasure hunt.

Sexual reproductive health services	Cambodia	Female garment factory workers	25,000 workers since 2015	Since the programme started in 2015, unwanted pregnancies have declined and use of modern contraception has doubled, reaching nearly 50 percent.  Because unintended pregnancy can cause a young woman to lose her job and be forced into early marriage, this kind of SRHR programme can have an impact on CEFM.  <a href="https://www.care-cambodia.org/chat/c20ox">https://www.care-cambodia.org/chat/c20ox</a>
-------------------------------------	----------	--------------------------------	---------------------------	--

## Cloud Factory

Cloud Factory, based in Kathmandu, Nepal, is a microwork online platform and social enterprise. Participating businesses upload an "assembly line" of jobs that are then posted to workers based predominantly in Nigeria, South Africa, Saudi Arabia, and Nepal. Cloud Factory trains workers in developing regions and operates microloan initiatives that enable participants to fund their own training while becoming self-sustainable.

Income generation	Nepal, Nigeria, South Africa, Saudi Arabia		420 youth	Number of Youth Trained Total: 420   Women: N/A   Men: N/A Number of Youth Employed Total: 420   Women: N/A   Men: N/A Avg. Monthly Earnings of Youth after Programme USD 240 Change in Income for Youth (%) 40% – 200% increase  <a href="https://www.cloudfactory.com/Case%20study%20-%20S4YE%20Digital%20Jobs%20for%20Youth_0.pdf">https://www.cloudfactory.com/Case study:</a> <a href="https://www.s4ye.org/sites/default/files/2018-09/S4YE%20Digital%20Jobs%20for%20Youth_0.pdf">https://www.s4ye.org/sites/default/files/2018-09/S4YE%20Digital%20Jobs%20for%20Youth_0.pdf</a>
-------------------	--	--	-----------	--

## Easy Rescue

Cloud FacEasy Rescue is an app that lets women share the route of their journey with chosen contacts and communicate with them with just one click. If the route changes, the contacts will receive an immediate notification. Users can also shake their phone to send an urgent SMS. Other features include a one-click call button to the emergency services, and a directory of information from Violence Prevention Centres.

Protection from violence	Turkey	Victims of domestic violence	Unknown	According to research by the Vodafone foundation (who co-developed the app), 1 of every 3 working people believes that a mobile application which provides access to immediate support services can decrease the effects of domestic violence on professional life to a considerable extent. The idea of having such an application attracts the most significant attention in Turkey with a rate of 45%.  <a href="http://turkiyevodafonevakfi.org.tr/en/projects/other-projects/easy-rescue/">http://turkiyevodafonevakfi.org.tr/en/projects/other-projects/easy-rescue/</a>
--------------------------	--------	------------------------------	---------	--

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Future Ready Asean

An online learning platform structured along four learning tracks that lead to 12 completion badges. Once the advanced level has been achieved for a given track, students are invited to pursue additional online courses leading to Microsoft's industry-recognised certifications. The platform is gender-responsive, and encourages more young women into STEM.

Access to education	Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, Myanmar the Philippines, Thailand and Viet Nam	Underserved youth aged 15 to 35	This programme aims to train 520 teachers and 46,000 underserved youth aged 15 to 35 on digital skills by 2020.	The initiative has empowered over 26,998 underserved youths and 1,187 trainers with computer skills since March 2019.  The platform was developed in partnership with Microsoft.  <a href="https://futurereadyasean.org/">https://futurereadyasean.org/</a>
---------------------	--	---------------------------------	---	---

### Girl Rising

This app came to fruition following the Girl Rising film, which followed the journey of nine girls from around the world who had to fight for their education. The app gamifies their stories and talks about what it takes for a girl to actually go to school. Users complete tasks to help a character get to school, but also use quizzes to help people identify gender-based discrimination, question norms, and learn more about women's achievements.

Engage and mobilise parents, teachers and community	India	Everyone	Unknown	Developed with support from Vodafone India Foundation.  <a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=in.hashstash.girlrising&amp;hl=en&amp;gl=US">https://play.google.com/store/apps/details?id=in.hashstash.girlrising&amp;hl=en&amp;gl=US</a>
---	-------	----------	---------	---

### He For She

HeForShe is a global solidarity movement with the goal of mobilising one billion men and boys in support of gender equality. Users can digitally 'sign' their commitment to the movement, share with their network and get involved with actions across the globe.

Engage and mobilise parents, teachers and community	Global	Men	2.1 million online commitments worldwide	The movement has garnered commitments and media attention from many global leaders, heads of state and major corporations who have taken various actions to support gender equality: <a href="https://www.heforshe.org/sites/default/files/2019-12/HFS_IMPACT_2019_Onscreen_revised.pdf">https://www.heforshe.org/sites/default/files/2019-12/HFS_IMPACT_2019_Onscreen_revised.pdf</a>  In 2017, ASEAN launched their He for She campaign. <a href="https://asean.org/asean-un-to-promote-gender-equality-through-heforshe-campaign/">https://asean.org/asean-un-to-promote-gender-equality-through-heforshe-campaign/</a>  <a href="https://www.heforshe.org/">https://www.heforshe.org/</a>
---	--------	-----	--	---

### JUI International Women's Day Campaign (2017)

An ad campaign in Bangladesh on domestic violence addressed harmful masculinities and included a video on a woman's desire to cut her hair short so that she cannot be grabbed by the hair by her abuser.

Engage and mobilise parents, teachers and community	Bangladesh	Men, women and youth	4 million views on YouTube	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=Ckr4zzUyd64">https://www.youtube.com/watch?v=Ckr4zzUyd64</a>
---	------------	----------------------	----------------------------	---

Impact area	Countries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## Jumia

Jumia is a major e-commerce platform in Nigeria. The goal of the "Women and Youth Empowerment" programme is to equip women and Nigerians younger than age 30 with the training and support needed to earn additional income by selling products on online platforms. The programme provides training on use of the Jumia platform and an opportunity to earn extra income on the basis of the number of customers who make purchases on the Jumia platform following their referral. Registration is free and much of the programme can be accessed without Internet.

Income generation	Nigeria	Women and Nigerians younger than age 30	50,000	<p>Within three months of launching the program's first phase in Yaba, a suburb of Lagos, in June 2019, more than 1,000 Nigerian youths joined the program's in-person and online training sessions. Of these trainees, 277 women—approximately 30 percent—would go on to sign up. Collectively, these women were able to refer an additional 878 women across Nigeria within the three-month period.</p> <p><a href="https://www.jumia.com.ng/">https://www.jumia.com.ng/</a></p> <p>IFS case profile: <a href="https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/4dc99192-66c0-4319-8181-1ad5d7221319/202008_D2E_Jumia.pdf?MOD=AJPERES&amp;CVID=nfyv66q">https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/4dc99192-66c0-4319-8181-1ad5d7221319/202008_D2E_Jumia.pdf?MOD=AJPERES&amp;CVID=nfyv66q</a></p>
-------------------	---------	---	--------	---

## Khan Academy

Khan Academy offers practice exercises, instructional videos, and a personalised learning dashboard that empower learners to study at their own pace in and outside of the classroom. Subjects covered include math, science, computing, history, art history, economics, and more, including K-14 and test preparation (SAT, Praxis, LSAT) content.

Access to education	Global	Anyone in need of educational resources	100 million worldwide/year	<p>Khan Academy supports Sri Lankan students in mathematics. Significant score increases (.20 ES) on a standardised mathematics assessment. Brazil: 30% more learning for fifth graders using Khan Academy integrated into mathematics instruction. El Salvador: An additional .19 school years in math gained through the integration of Khan Academy into mathematics instruction in El Salvador.</p> <p><a href="https://www.khanacademy.org/">https://www.khanacademy.org/</a></p>
---------------------	--------	---	----------------------------	--

## Lazada

Lazada is a Southeast Asian marketplace platform. Lazada provides stay-at-home mothers with the opportunity to earn a living by running an online store while juggling family responsibilities. Free training and assistance are provided to Lazada sellers to help them set up shop. Lazada does not charge commission for selling on its platform, helping sellers keep costs low. Working with local partners, a small working capital loan is offered to top sellers to give them a boost in inventory management. Lazada also offers photography services at heavily subsidised rates, to help the "mompreneurs" capture high quality product images for their online stores.

Income generation	Philippines	Female entrepreneurs	155,000 sellers (total, including Mompreneurs program)	<p>COVID-19 has forced many traditional sellers to use livestreaming technology to continue selling online. Livestreaming can be set up easily with a mobile phone and the Lazada application. Many sellers found a new way of staying connected with their target audience during the strict lockdowns that happened in many Southeast Asian cities at the height of COVID-19 pandemic.</p> <p>The Mompreneurs Programme is currently available in the Philippines. Lazada is looking to scale up similar programme in other markets. Lazada is a member of the IFC-led Digital2Equal initiative, launched in 2018, that brought together 17 leading technology companies operating across the online marketplace to boost opportunities for women in emerging markets.</p> <p><a href="https://www.lazada.com/">https://www.lazada.com/</a></p>
-------------------	-------------	----------------------	--	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Lily Health

Lily provides a subscription service that allows women to text questions to their friend “Lily” and receive responses based on a database of information about reproductive health as well as personalised information about that woman’s cycle. It is fully accessible via SMS (Internet connection not needed).

Sexual reproductive health services	Kenya	Women and girls of reproductive ages	Unknown	<p>70% of users say Lily helps them achieve their reproductive health objective                      96% feel more confident                      86% have learned something new                      100 net promoter score, which means that all asked users said they would recommend the service to friends.</p> <p>The company currently operates in Kenya but has plans to expand other markets, including India, Bangladesh, Brazil, and the Philippines. Machine learning will enable Lily to create an automated and scalable product that responds to customers using a database of customer details, reproductive health information, and a steadily improving algorithm that interprets customer questions in order to generate accurate responses a “chat bot” solution.</p> <p><a href="https://lily.health/">https://lily.health/</a></p>
-------------------------------------	-------	--------------------------------------	---------	--

### Lululab

This app works as an educational game to help users learn about menstrual hygiene. One feature works like Candy Crush – but with Diva Cups and pads instead of candies. The games can be played on smartphones, tablets and computers, and they are accessible both online and offline.

Sexual reproductive health services	Kenya	Girls and boys	Unknown	<p>Its prototype was tested in Kenya, but Juul notes that one of the great things about it is that it can be translated and adapted for any country.</p> <p><a href="https://lululab.org/">https://lululab.org/</a></p>
-------------------------------------	-------	----------------	---------	---

### Main Kuch Bhi Kar Sakti Hoon

The Population Foundation of India created a trans-media series called Main Kuch Bhi Kar Sakti Hoon (I, A Woman, Can Achieve Anything) that utilises television, radio, Internet and mobile phones to challenge the prevailing social and cultural norms around family planning, early marriage, early and repeated pregnancies, contraceptive use, domestic violence and sex selection. They use different channels so their target audience will hear mutually reinforcing messages from a variety of different sources such as social media platforms like Facebook and Twitter feeds from the fictional characters in the series.

Engage and mobilise parents, teachers and community	India	Men, women and youth	58 million watched season 1	<p>The awareness of Child Marriage Act increased from 74% to 88% from the exposed groups and 85% from the non-exposed groups in Madhya Pradesh. Bihar experienced an increase from 72% to 83% for exposed group and 78% for non-exposed group on the awareness of Child Marriage Act. After watching the programme, 77% of the people understood the need of girl education and that they should be not be married before the age of 18. Women became aware of family planning methods, thereby dropping the percentage of women who had never used any methods from 51% to 37.6%.</p> <p><a href="https://mkbksh.org/">https://mkbksh.org/</a></p>
---	-------	----------------------	-----------------------------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## Mindspark

Mindspark is a computer-based, online self-learning tool that helps children improve their math skills. It allows each child to follow a learning path that is based on his or her needs.

Personalised learning	India	Students in classes 1-5	80,000 students a year	<p>Students showed improvements in mathematics assessment scores of up to 38% in less than five months, thereby dramatically reducing students' learning gaps.</p> <p>The Delhi based programme could be rolled out at scale at a fraction of the cost of current per pupil spending in schools.</p>
-----------------------	-------	-------------------------	------------------------	--

## Myplan App

Assess domestic violence situation and helps victims make informed decisions about their safety and well-being.

Protection from violence	Canada, US	Victims of domestic violence	Unknown	<p>Survivors reported that the pilot tool offered privacy to consider personalised safety options, informed them about danger in their relationship, and provided useful safety planning and resource information. After the promising feedback from the pilot, the next 6 years were spent developing the tool further based on survivor and advocate feedback and the effectiveness of the tool was tested in 2 longitudinal randomised controlled trials with over 1000 survivors, friends, and advocates across the country.</p> <p><a href="https://www.myplanapp.org/researchpublications">https://www.myplanapp.org/researchpublications</a></p> <p>My Plan is a self-evaluation tool designed to help survivors assess whether they or a friend are safe within a relationship. Once the survivor has completed a range of questions regarding safety concerns, the app then provides the user with various options of resources for counselling, support and advocacy. These results are based on the individual characteristics and values of the survivor.</p> <p><a href="https://myplanapp.ca/">https://myplanapp.ca/</a></p>
--------------------------	------------	------------------------------	---------	--

## Ni-Nyampinga

A multi-platform youth brand, made up of a magazine, radio drama and talk show, a network of clubs and digital platforms, made by girls for girls. Includes an SMS chat line and digital channels tapping into Rwanda's growing digital audience.

Promoting digital spaces	Rwanda	Girls and young women	6.6 million people age 10+ are aware of Ni-Nyampinga	<p>A 2017 impact assessment found that:</p> <p>Compared to girls unaware of Ni Nyampinga, multi-regular consumers have a 60% higher probability of having high levels of self-confidence.</p> <p>Compared to all those unaware of Ni Nyampinga, multi-regular consumers have a 67% higher probability of having positive attitudes towards gender equality.</p> <p><a href="http://ninyampinga.com/">http://ninyampinga.com/</a></p>
--------------------------	--------	-----------------------	--	--

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Nokaneng App

The Nokaneng app informs users in Lesotho about the different forms of gender-based violence, their rights and the available support services, as well as protection tools such as a sound alarm and emergency SMS. The app also provides a safe space for conversation, support and advice, including from counsellors.

Protection from violence	Lesotho	Victims of domestic violence	1220 downloads	<p>114 questions have so far been asked by affected women in the advice and discussion forum.</p> <p>'This app is very important because I can get information at home without anyone noticing it.' Feedback from a young user who wishes to remain anonymous.</p> <p>'When my husband saw the videos in the app, he realised his own violent behaviour. It changed him. He stopped beating me.' Feedback from a married user who wishes to remain anonymous</p> <p>Nokenang is a joint initiative between the Lesotho Ministry of Gender, Youth, Sports and Recreation, GenderLinks Lesotho, the Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ), Vodacom Lesotho and the Vodacom Lesotho Foundation. The app is free to use for anyone on the network – meaning you don't need credit to access it.</p> <p><a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=ls.nokaneng.app&amp;hl=en&amp;gl=US">https://play.google.com/store/apps/details?id=ls.nokaneng.app&amp;hl=en&amp;gl=US</a></p>
--------------------------	---------	------------------------------	----------------	--

### Oky

Oky is a period tracking and reproductive health education app developed together with young people. This app was developed and launched by Unicef.

Sexual reproductive health services	Indonesia, Nepal, Mexico and Kenya	Girls and young women	50,000 users	<a href="https://okyapp.info/">https://okyapp.info/</a>
-------------------------------------	------------------------------------	-----------------------	--------------	---

### Pyo May

Mobile app targeting girls and young women with information about their health, bodies, fitness, contraceptives, relationships and dating.

Sexual reproductive health services	Myanmar	Girls and young women (3+)	Unknown	<p><a href="https://www.keokoetech.com/">https://www.keokoetech.com/</a></p> <p><a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=com.keoeoetech.pyopyomay&amp;hl=en&amp;gl=US">https://play.google.com/store/apps/details?id=com.keoeoetech.pyopyomay&amp;hl=en&amp;gl=US</a></p>
-------------------------------------	---------	----------------------------	---------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## Ruangguru

Ruangguru is an app that provides a number of EdTech solutions. The app features a tutoring marketplace, a video learning subscription, a questions bank platform and one-on-one classes. In response to the crisis, Ruangguru launched a free online school programme that allows students to join live classes remotely. Students can choose from 18 live channels that cover all subjects from elementary to senior high school, led by Ruangguru teachers.

Personalised learning	Indonesia	Students coping with online learning	Unknown	<p>Around 17 million students in Indonesia have used Ruangguru's solutions to date. During COVID-19, seven million students participated in free online classes – 1.5 million on the first day of school closures alone.<sup>45</sup></p> <p>According to Ruangguru, over 92 per cent of users reported improved academic performance after three months. 80 per cent of Ruangguru users are outside the capital city Jakarta,<sup>46</sup> and 70 per cent come from low- and middle-income families.</p> <p>Ruangguru plans to integrate AI to personalise learning for students based on grade level, achievements, engagement and enrolment. Within six months, the group aims to establish a progressive learning system in which the solutions adapt and evolve as students progress.</p> <p><a href="https://ruangguru.com/login/student">https://ruangguru.com/login/student</a></p> <p><a href="https://www.gsma.com/mobilefordevelopment/wp-content/uploads/2020/09/EdTech-Final-WEB.pdf">https://www.gsma.com/mobilefordevelopment/wp-content/uploads/2020/09/EdTech-Final-WEB.pdf</a></p>
-----------------------	-----------	--------------------------------------	---------	---

## Samasource

Samasource is a non-profit organisation that brings digital work opportunities to people around the world. Samasource secures contracts with companies including Google, Intuit, and CISCO; it has provided services to LinkedIn and the U.S. State Department, to provide data entry, digitisation, content moderation, and other services. Component tasks ("microwork") are distributed to the workforce, including 1,600 women and youth working with partner organisations in countries such as Haiti, Pakistan, and Uganda. Workers develop capacity, including computer skills and English. Samasource was founded in 2008 in San Francisco.

Income generation	Africa, The Americas, Arab States, Asia and Pacific, Europe, CIS	Low-income youth	8398 youth	<p>Number of Youth Employed Total: 6,718  Avg. Monthly Earnings of Youth   after Program USD 1,714</p> <p>Samasource has a cumulative direct beneficiary count of over 10,000 since starting operations. 85% of people continued to work or pursue their education after they left Samasource. Of those that continued working, 98% were in formal employment, with 51% of them working in the ICT sector.</p> <p><a href="https://www.samasource.com/">https://www.samasource.com/</a></p> <p>Case study: <a href="https://www.s4ye.org/sites/default/files/2018-09/S4YE%20Digital%20Jobs%20for%20Youth_0.pdf">https://www.s4ye.org/sites/default/files/2018-09/S4YE%20Digital%20Jobs%20for%20Youth_0.pdf</a></p>
-------------------	--	------------------	------------	--

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Shujaaz

A youth media initiative that combines a comic book with radio and YouTube programmes and on-the-ground events. Shujaaz revolves around young, authentic fictional characters and real-life role models who surface sensitive issues to help youth improve their lives. Fans then engage with the characters and issues through toll-free SMS, WhatsApp and social media, including character Facebook pages and Facebook Messenger accounts, all of which are used to generate research insights and drive collective behaviour change through discussions. Many of the app features can be accessed without Internet.

Promoting digital spaces	Kenya	Youth	7.3 million comic book readers, 4.4 million social media followers and receives over 60,000 SMS messages every month	"Girls in the network are 2.7x more likely to marry in their teens, 43% more likely to use condoms and 2.4x more likely to delay childbirth than non-fans"  <a href="https://www.shujaazinc.com/">https://www.shujaazinc.com/</a>  Case study: <a href="https://digitalimpactalliance.org/wp-content/uploads/2019/03/WellToldStory.pdf#128">https://digitalimpactalliance.org/wp-content/uploads/2019/03/WellToldStory.pdf#128</a>
--------------------------	-------	-------	--	--

### Shupavu 291

An SMS-based EdTech solution that allows students to ask teachers questions in real time through the "Ask a Teacher" feature. Developed in-house by local teachers and aligned with the national curriculum, students can access lessons and quizzes on any mobile phone via SMS or USSD daily, weekly or monthly.

Personalised learning	Kenya, Ghana, Cote d'Ivoire	Students coping with online learning	As of 15 May, Eneza had over one million subscribers to Shupavu 291 and 200,000 students were active on the platform daily, asking an average of 19,000 questions through the Ask-A-Teacher feature.	Since the launch of its free service, Eneza Education Kenya saw the number of questions increase from 3,000 in January 2020 to 20,000 in June. The start-up has reached over one million learners across the country with an average of 300,000 active learners per day. Across all its operations, over six million learners have benefited from the solution. According to Eneza, learners experienced a 23 per cent improvement in academic performance on average after using Eneza for nine months.  <a href="https://enezaeducation.com/elimika-na-shupavu-291-ignites/">https://enezaeducation.com/elimika-na-shupavu-291-ignites/</a>
-----------------------	-----------------------------	--------------------------------------	--	---

### Springster

Springster, connects marginalised girls around the world, providing education on key social issues including health, education and personal safety. Featuring content designed by girls, for girls, the platform encourages the sharing of stories and connection through features such as commenting threads, polls and reactions, with the goal of cultivating self-belief and resilience. The site is available for free on mobile phones, with no data charges, through Facebook Free Basics.

Promoting digital spaces	Indonesia, Philippines primarily, but live in total 50 countries and 13 languages		Unknown	12.7 million unique users reached in the past year, with nearly 1 million monthly on average  <a href="https://global.girleffect.org/what-we-do/mobile-platforms/springster/">https://global.girleffect.org/what-we-do/mobile-platforms/springster/</a>
--------------------------	---	--	---------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

### Startwiththeboys (#Startwiththeboys)

As per a month-long campaign on women's empowerment, Vogue India produced a video in 2014 about harmful masculinity and intimate partner violence in India featuring former top actress Madhuri Dixit.

Engage and mobilise parents, teachers and community	India	Men, women and youth	YouTube views	<p>The hard-hitting film features an endless cycle of parents scolding their sons, from toddlers through adolescence, for crying. It then powerfully culminates in an image of a man holding back tears. The camera shot then pans out to unveil that he is converting his emotions into violence by physically abusing his already battered female partner.</p> <p>Throughout the month-long campaign, other Indian filmmakers such as Homi Adajania and Vikas Bahl are also taking part in #VogueEmpower campaign to promote the cause.</p> <p><a href="https://english.alarabiya.net/en/variety/2014/10/27/Vogue-India-stands-against-rape-with-Boys-don-t-cry-video.html">https://english.alarabiya.net/en/variety/2014/10/27/Vogue-India-stands-against-rape-with-Boys-don-t-cry-video.html</a></p>
---	-------	----------------------	---------------	--

### TechSOS

TechSOS is an initiative that seeks to support victims of domestic abuse and other vulnerable people through provision of a specially adapted piece of technology that enables enhanced access to the police in an emergency.

Protection from violence	Spain, Portugal, Ireland, Germany and the UK	Victims of domestic violence	100,000+ users	<p>In the UK, TechSOS provide vulnerable people with enhanced access to the police via a specially adapted piece of technology. It is currently used by over 90% of UK police forces."The use of the system so far has been very positive with officers complimentary of the simplicity and effectiveness of the system. More importantly we've had feedback from victims and potential victims telling us that the system is an extra piece of reassurance for them."</p> <p>TechSOS is used by the majority of Police Forces across the UK to support victims of domestic abuse. Victims were asked to assess their perceived levels of fear on a scale of one to ten prior to the issue of a device. Victims scored their fear levels at an average of 7.8. Typically, the fear dropped to 3 after just a few weeks of having the device.</p> <p><a href="http://www.tecsos.co.uk/?LMCL=yUf9ow">http://www.tecsos.co.uk/?LMCL=yUf9ow</a></p>
--------------------------	--	------------------------------	----------------	---

### U4U

U4U provides youth access to sexual and reproductive health information and services through online and mobile platforms, including a website, social media, YouTube videos, an app, and an interactive voice response system.

Sexual reproductive health services	Philippines	Teens age 15-19	3000 users a month	<p>Over 9,000 young people (10-25 years old) have participated in U4U Teen Trail events in over 50 provinces and cities. Teen trail participants rated the event with a score of 4.82 out of 5.00 for fun and effectiveness in delivering key messages.</p> <p><a href="http://www.u4u.ph/">http://www.u4u.ph/</a></p>
-------------------------------------	-------------	-----------------	--------------------	--

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## UNALA

Initiated by UNFPA, UNALA is a mobile app and online platform that provides youth with SRH services in partnership with the. UNALA established a network of private general practitioners working closely with youth networks to provide a comprehensive package of SRH services for young people, which includes counselling, physical examination, as well as specialist and laboratory referrals.

Sexual reproductive health services	Indonesia	Youth (aged 15 to 24 years old)	200,000 youth across 5 districts in Yogyakarta	Over the 2-year period between September 2014 and December 2016, 964 clients visited UNALA doctors (686 visits in 2016). <a href="https://www.unala.net/">https://www.unala.net/</a>
-------------------------------------	-----------	---------------------------------	--	---

## Virtual Skills School

The Virtual Skills School provides vocational training for those seeking to expand their technical and professional skills, particularly in emerging and non-traditional sectors, and 21st century skills training, for those looking to acquire skills such as breakthrough technologies, digital and financial literacy, communication, creativity, critical thinking, and life-long character qualities. The learning pedagogy is individualised for each user. The School is currently being piloted in Indonesia through the WeLearn online platform.

Access to education, Engaging teachers	Indonesia (global pilot)	Girls and young women	5,265 on WeLearn	The materials, accessibility and user-friendliness of the platform have been tested by women entrepreneurs. Widyia Esthi Riyan, who owns a pasta business and participated in the user testing exercise said, "The WeLearn platform is useful and relevant especially for those who just recently started their business because the lessons provide us with guidelines".  A particular focus will be on providing second chance education to girls who have not entered or have dropped out of secondary school. Training for teachers and educators on women's empowerment issues, gender-based social norms and biases will constitute another important element of the Virtual Skills School.  <a href="https://www.unwomen.org/-/media/headquarters/attachments/sections/library/publications/2017/virtual-skills-school.pdf?la=en&amp;vs=449">https://www.unwomen.org/-/media/headquarters/attachments/sections/library/publications/2017/virtual-skills-school.pdf?la=en&amp;vs=449</a>  Pilot project: <a href="https://welearn.unwomen.org/">https://welearn.unwomen.org/</a>
--	--------------------------	-----------------------	------------------	--

## Wearerestless

A blog interface providing a forum for youth around the world to speak on the issues that matter to them.

Access to education, Engaging teachers	Global	Youth activists	Unknown	The most recent posting was on forced child marriage <a href="https://wearerestless.org/2020/12/02/child-marriage-covid19-side-effects-and-symptoms/">https://wearerestless.org/2020/12/02/child-marriage-covid19-side-effects-and-symptoms/</a>  <a href="https://restlessdevelopment.org/">https://restlessdevelopment.org/</a>
--	--------	-----------------	---------	---

Impact area	Aountries deployed	Target users	Number of users	Evidence of positive impact for users and additional relevant information
-------------	--------------------	--------------	-----------------	---

## Worldreader

Worldreader provides learners in LMICs with free access to a library of digital books via e-readers and mobile phones. The group's back-end data, gathered through the BookSmart reading app, can help to understand how a child's reading behaviours predict reading outcomes.

Access to education	Global	Anyone in need of educational resources	13 million	<p>In 2019, over 2 million people read from Worldreader's digital library, bringing the total number of readers since 2010 to 13.3M. They spent 28,591,650 hours reading on tablets and cell-phones, an average of over 1 hour/reader/month.</p> <p>Worldreader has launched its newest project in Latin America. The project, CreceLee, will bring Spanish digital reading to an estimated 4,500 students via tablets and mobile phones over three years. After a year of operation, Worldreader's Jordan-based Tuta-Tuta project reached over 58,000 refugees and Jordanian families in 2019. The project aims to support children's educational and social-emotional needs by providing programmed access to a curated collection of highly-relevant, digital Arabic storybooks.</p> <p>Worldreader launched its Ghanaian "Inspire Us" collection in 2019. The 30-book collection focuses on engaging young women and encouraging conversations around gender norms and gender stereotypes, with the goal of reaching 30,000 female readers across Ghana and West Africa.</p> <p>With 13 million readers in 47 countries using Worldreader's reading apps and about one million app interactions recorded each day (e.g., time spent reading, types of books read, browsing practices), the scale and depth of the information generated can play an important role in improving education systems in LMICs. Based on engagement levels, organisations can better understand whether parents need support with digital literacy in a particular market, or detect (via search metrics) whether more books need to be acquired in a particular area.</p> <p><a href="https://www.worldreader.org/">https://www.worldreader.org/</a></p>
---------------------	--------	---	------------	---

## Wulwi Initiative

Wulwi is a tech hub and safe haven for girls and women pursuing careers in technology, while building links with the technology sector. Its DataGirl initiative, "IT 4 ALL" aims to close the digital gender gap and empower women and girls to use technology to create innovative solutions to advance equality in their communities. The initiative focuses on equipping women and girls with digital skills.

Promoting digital spaces	Cameroon	"Internally Displaced girls, teenage mothers, women and girls who can't afford formal school, and women transitioning into tech careers."	Unknown	<a href="http://www.wulwiinitiative.org/">http://www.wulwiinitiative.org/</a>
--------------------------	----------	---	---------	---

**本報告書**では、デジタル技術とオンライン・ソリューションがアジア太平洋地域におけるCEFMを撲滅する上で担う役割とその可能性を検証する。綿密な文献調査とKIIIに基づき、**プラン・インターナショナルAPAC**やその他の子どもの権利に基づく開発組織が、この地域におけるCEFMを撲滅するためのプログラムとアドボカシー活動にデジタル技術をどのように組み込んでいるかを調査している。また、民間セクターによって開発された、CEFM防止に効果のありそうなデジタル技術も紹介している。こうした考察に基づき、本報告書は、CEFM撲滅のために規模を拡張し影響を生み出す上で、デジタル技術をどのように活用すれば最も効果を上げられるかについて、一連の提言をまとめている。

本報告書の最後の章では、プラン・インターナショナルがアジア太平洋地域でCEFMの撲滅にどのように貢献しているかを幅広く概観する。**今こそ行動を！** 地域プラットフォームと、こうした取り組みを推進するプログラムとアドボカシー・アプローチについて詳しく解説し、CEFM撲滅の取り組みが進行中の10カ国におけるプランの活動の一部を概説する。



詳細はこちらまで:

Quynh Tran Thu (Ms.)

地域コミュニケーション・キャンペーン・リーダー

Quynh.TranThu@plan-international.org

**Plan International Asia Regional Hub**

14th Floor, 253 Asoke Building

Sukhumvit 21, Klongtoey Nua

Wattana, Bangkok 10110, Thailand



PlaninAsiaPacific



PlanAsiaPacific



PlanAsiaPacific



Plan International in Asia